

《北上川中流森林計画区》

目 次

《北上川中流森林計画区》

調査対象保護林概要	p. 1
早池峰山周辺森林生態系保護地域 （早池峰山周辺森林生態系保護地域）	p. 3
栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域 （栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域）	p. 23
毒ヶ森植物群落保護林 （毒ヶ森生物群集保護林）	p. 43
焼石岳植物群落保護林 （焼石岳生物群集保護林）	p. 61
和賀岳植物群落保護林 （和賀岳生物群集保護林）	p. 75
タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林 （タデ沼ホオノキ遺伝資源希少個体群保護林）	p. 93
琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林 （琴畑湿原ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林）	p. 107
長橋天然スギ植物群落保護林 （長橋スギ希少個体群保護林）	p. 121
野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林 （野沢額山キタカミヒョウタンボク希少個体群保護林）	p. 135
一関東山松植物群落保護林 （ 一 ）	p. 151
猿屋裏湿原植物群落保護林 （ 一 ）	p. 167

※（ 一 ）は、再編の結果平成 28 年度をもって廃止される保護林

表 3 平成 28 年度 調査対象保護林・調査地点数・総合評価 (案)

森林計画区	No	整理番号	名称	種類	調査項目			総合評価 (案)
					森林調査 プロット数	動物調査 ルート数	利用動態 調査 地点数	
北上川中流	1	生態-3	早池峰山周辺	森林生態系保護地域	3	3	1	A
	2	生態-5	栗駒山・栃ヶ森山周辺	森林生態系保護地域	3	3	1	A
	3	植物-17	毒ヶ森	植物群落保護林	3			A
	4	植物-18	焼石岳	植物群落保護林	2			A
	5	植物-20	和賀岳	植物群落保護林	3			A
	6	林木-17	タデ沼ホオノキ	林木遺伝資源保存林	2			A
	7	林木-18	琴畑湿原ハルニレ	林木遺伝資源保存林	2			A
	8	植物-19	長橋天然スギ	植物群落保護林	2			A
	9	植物-21	野沢額山キタカミヒヨウタンボク	植物群落保護林	2			A
	10	植物-16	一関東山松	植物群落保護林	2			A
	11	植物-22	猿屋裏湿原	植物群落保護林	2			A
計			11保護林	26	6	2		

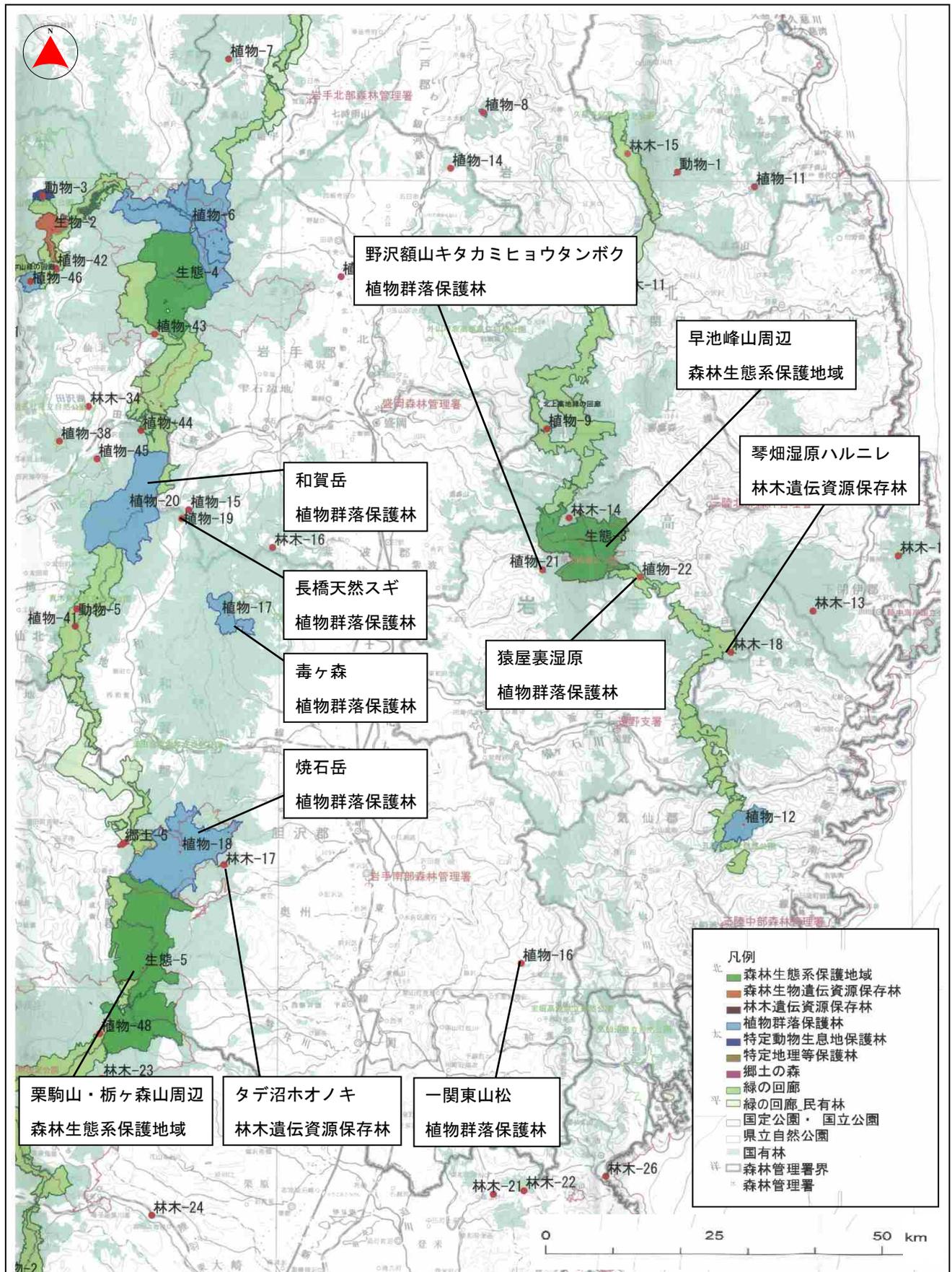


図 2 平成 28 年度 調査対象保護林位置図

早池峰山周辺森林生態系保護地域

(早池峰山周辺森林生態系保護地域)

現地調査計画及び総括整理表

保護林名	早池峰山周辺森林生態系保護地域
整理番号	生態-3
森林管理局名	東北森林管理局



①現地調査計画

調査項目	森林調査	動物調査	利用動態調査
保護林の概況 [目的等]	早池峰山周辺の原生的な天然林を保存することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究に資するため。		
調査箇所 ルート	・調査プロット: 前回(第1回モニタリング)の調査地点3箇所で開催 ・ルート: 別図参照 ・所要時間: 駐車位置より1~2時間	・調査ルート : 前回の調査ルートで実施	・調査箇所 河原防駐車場
調査時期・回数	平成28年7月・1回	平成28年7月~10月 動物調査2回	平成28年10月8日(土)
調査項目	毎木調査・植生調査	痕跡調査・目視調査・鳥類調査	利用人数・利用実態調査
調査方法	・0.1haの円形調査プロットを設定し、小円部(0.01ha)、中円部(0.03ha)、大円部(0.06ha)とする。 ・胸高直径、樹高(可能な限り第1回目モニタリングにおける計測木)を計測する。 ・調査プロット内に出現する種組成の概要を把握し過年度調査結果と比較する。	・計画した調査ルートを踏査し、確認できた動物の痕跡等を記録する。	・調査箇所において、入込数のカウント及び来訪者への聞き取り調査を実施する。

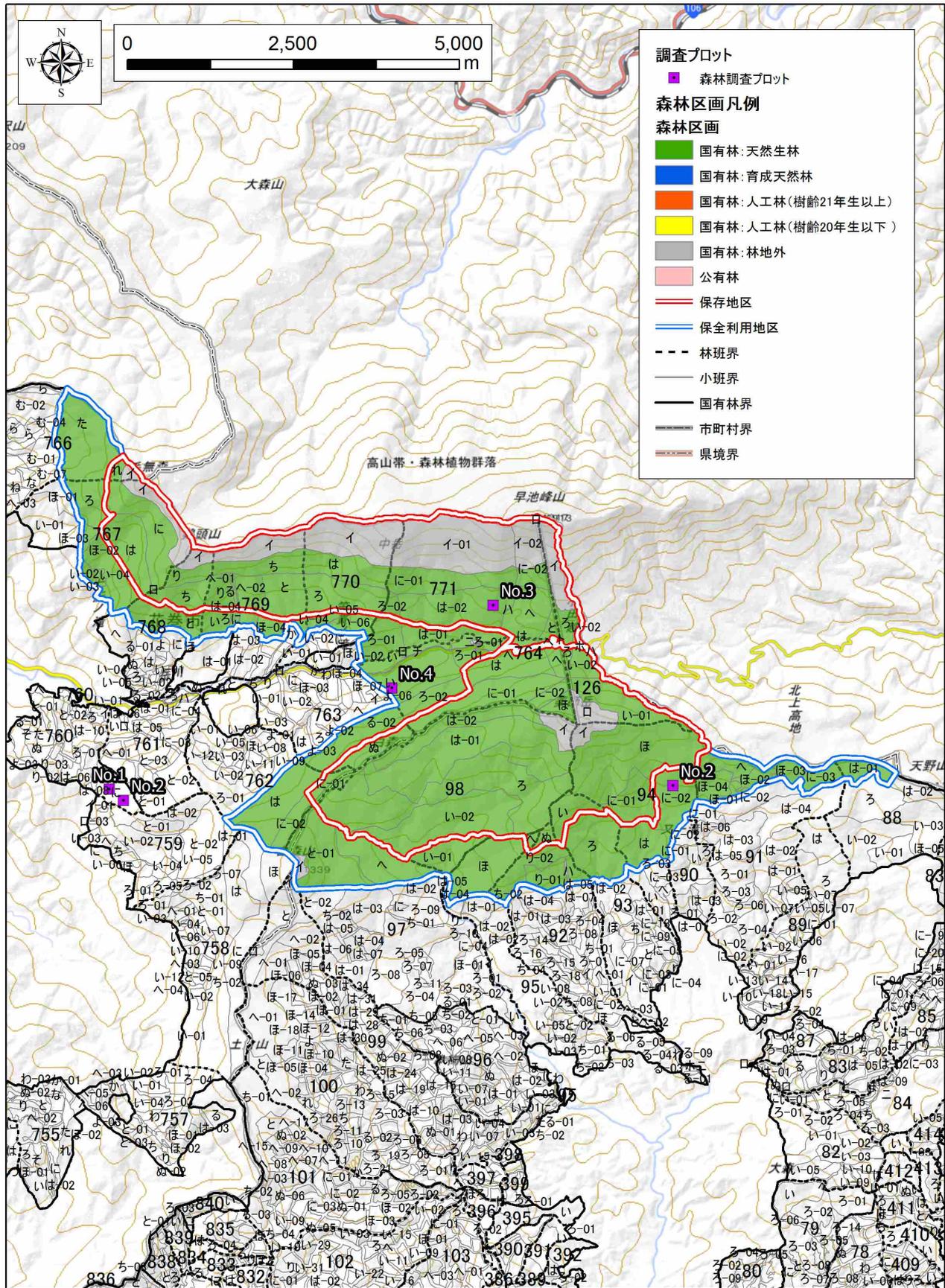
②総括整理表

調査項目	基礎調査	森林調査(特記事項: ○=良好、▲=注意、×=危険)	動物調査	利用動態調査
平成28年度 結果概要	<p>本保護林は岩手県の盛岡市、遠野市、下閉伊郡にまたがって位置する広大な天然生林である。当保護林は、北上高地のほぼ中央にそびえる早池峰連峰とその南に対峙する薬師岳連嶺を中心とする一連の山地であり、これらの山地は蛇紋岩と花崗岩により形成されており、特産種や希少種が数多く生育している。</p> <p>山地帯(ブナ・ミズナラ群落) 亜高山帯(アオモリトマツ・コメツガ群落) 高山帯(高山低木群落)</p> <p>当保護林は、北上高地緑の回廊と接続している。</p> <p>法令規則等: 国定公園特別保護地域、第1種・第2種・第3種保護地域、鳥獣保護区特別地区・普通地区、特別天然記念物指定地(一部)</p>	<p>調査プロットNo.2 胸高直径40-60cmのブナによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20-30cm程度のブナ、シナノキが生育していた。低木層はアオダモ、ハウチワカエデ等が生育しており、草本層にはチシマザサ、クマイザサ、オクノカンスゲ等が生育し、合計32種の植物が確認された。</p> <p>調査プロットNo.3 胸高直径30-50cmのコメツガ、ブナによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20cm程度のブナ、ダケカンバが生育していた。低木層にはチシマザサが優占し、ブナ等が生育しており、草本層にはシラネワラビ、トウゲシバ、コメツガ等が生育し、合計23種の植物が確認された。</p> <p>調査プロットNo.4 胸高直径40-60cmのブナによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20-30cm程度のブナ、アズキナシ、ウラジロノキ等が生育していた。低木層にはチシマザサ、アオダモ、ムラサキヤシオ等が生育し、草本層にはシノブカグマ、ヤマソテツ、オオカメノキ等が生育し、合計33種の植物が確認された。</p> <p>○一部、風雪害等による倒木が見られるが、林分自体に影響を与えるほどでは無かった。 ▲調査プロット内においてニホンジカによると思われる角研ぎ痕や採食痕が確認された。</p>	<p>R-2: 哺乳類ではヒミズ、トウホクノウサギ、ツキノワグマ、ホンドテン、ニホンジカ、ニホンカモシカの6種類が確認され、鳥類ではジュウイチ、ホトギス、ツツドリ、アオゲラ等、20種が確認された。</p> <p>R-3: 哺乳類ではホンドザル、トウホクノウサギ、ツキノワグマ、ホンドテン、ニホンジカ、ニホンカモシカの6種類が確認され、鳥類ではヤマドリ、ホトギス、ノスリ、アカゲラ等、22種が確認された。</p> <p>R-4: 哺乳類ではトウホクノウサギ、ツキノワグマ、ホンドテン、ニホンジカ、ニホンカモシカの5種類が確認され、鳥類ではヤマドリ、アオゲラ、カケス等、18種が確認された。</p>	<p>秋季調査 日時: 平成28年10月8日(土)</p> <p>河原の坊登山コースでの崩落に伴う登山道使用禁止のため、本地点からの入り込みは確認されなかった。 トイレや駐車場は整備されており、利用が確認された。</p>
第1回モニタリング (平成23年度) との結果比較	特になし。	特に変化は見られなかったが、調査プロット内においてニホンジカによると思われる角研ぎ痕や採食痕が確認された。	過年度と比較して鳥類は、1種が新たに確認され6種が未確認、哺乳類については2種の痕跡が未確認であった。	本地点からの入り込みは禁止されていた。
評価(案)	保護林設定目的である森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究に資するための森林が維持されている。引き続き、ニホンジカの情報収集に努め、関係機関等と対策を進める必要がある。			

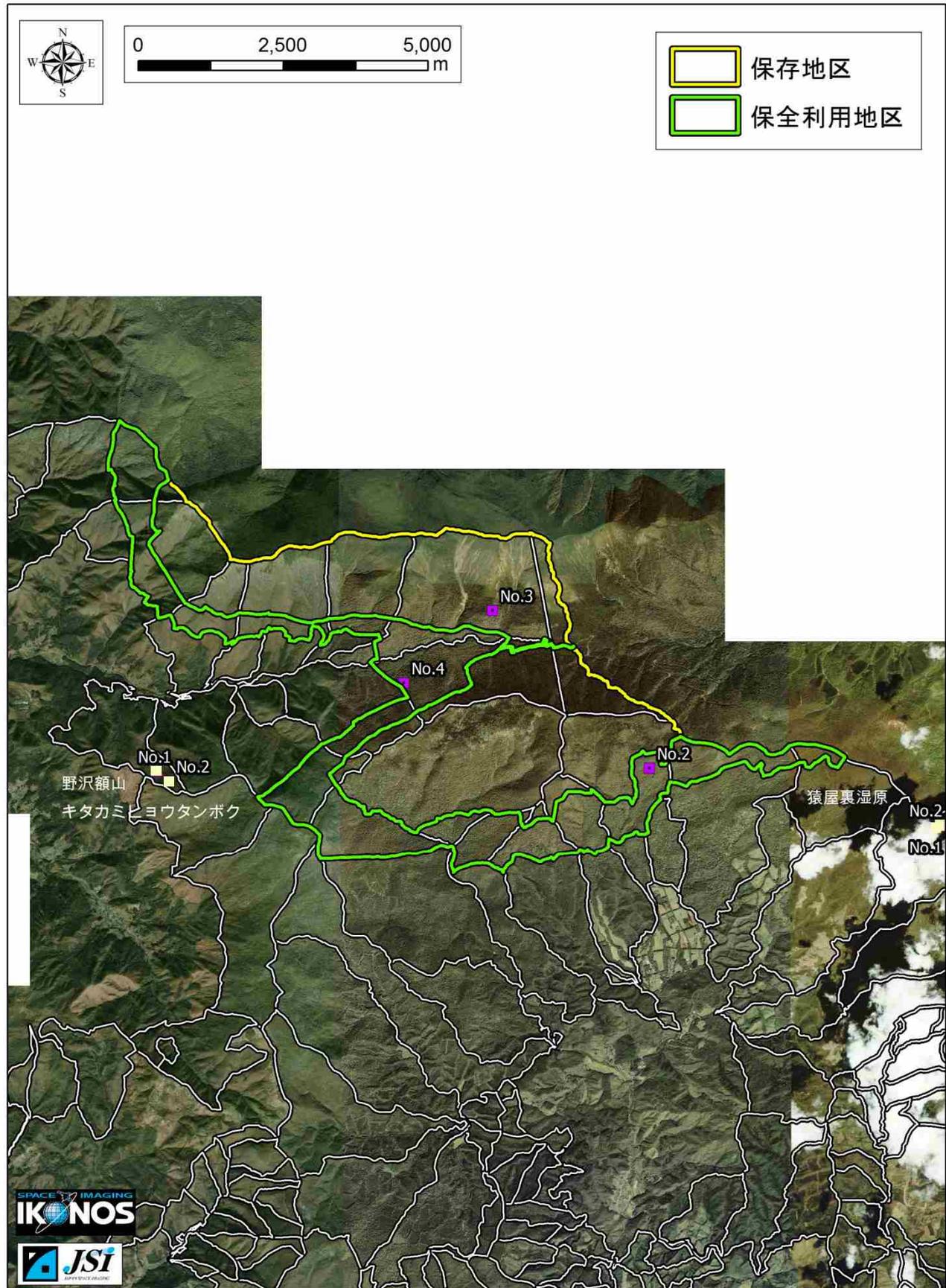
基礎調査整理表 2 a. 保護林情報図整理表
(森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林用)

保護林名	早池峰山周辺森林生態系保護地域(北上川中流森林計画区)						
整理番号	生態-3						
森林管理局名	東北森林管理局						
保護林内の状況 (森林生態系保護地域については保存地区、保存利用地区別の面積も記入)							
森林区分別面積	地	全域		保存地区		保全利用地区	
	森林区分	面積	割合	面積	割合	面積	割合
	天然生林	3100.21ha	87.5%	1769.87ha	80.3%	1330.34ha	99.2%
	育成天然林	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%
	人工林1	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%
	人工林2	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%
	林地外	443.64ha	12.5%	433.21ha	19.7%	10.43ha	0.8%
	合計	3543.85ha	100.0%	2203.08ha	100.0%	1340.77ha	100.0%
	地区割合		100.0%		62.2%		37.8%
保護林部分の森林区分別配置の概況	北上川中流森林計画区に位置する当保護林(以下、当保護林とする)内は、天然生林の占める割合が高く、保護林の北側に位置する鶏頭山から早池峰山周辺にかけて、また、保護林の中部に位置する薬師岳周辺に林地外が配置されている。保護林の核心部は国定公園特別保護地区、鳥獣保護特別地区が配置され、また、高山植物は特別天然記念物に指定されている。						
保護林周辺の状況(国有林部分の森林区分別配置の概況)							
<p>当保護林は、岩手県遠野市から花巻市にかけて位置し、周辺部は多くが国有林となっている。周辺の国有林は、天然生林と育成天然林、人工林、林地外が配置されている。</p> <p>また、当保護林は、久慈・閉伊川森林計画区(4120.08ha)、馬淵川林計画区(480.78ha)及び北上川中流森林計画区(3543.85ha)にまたがり配置されている。</p>							
その他特記事項(緑の回廊との接続状況の有無を含めて記入する。)							
<p>当保護林は早池峰国定公園に位置し、北上高地緑の回廊と接続している。</p>							

早池峰山周辺森林生態系保護地域



早池峰山周辺森林生態系保護地域



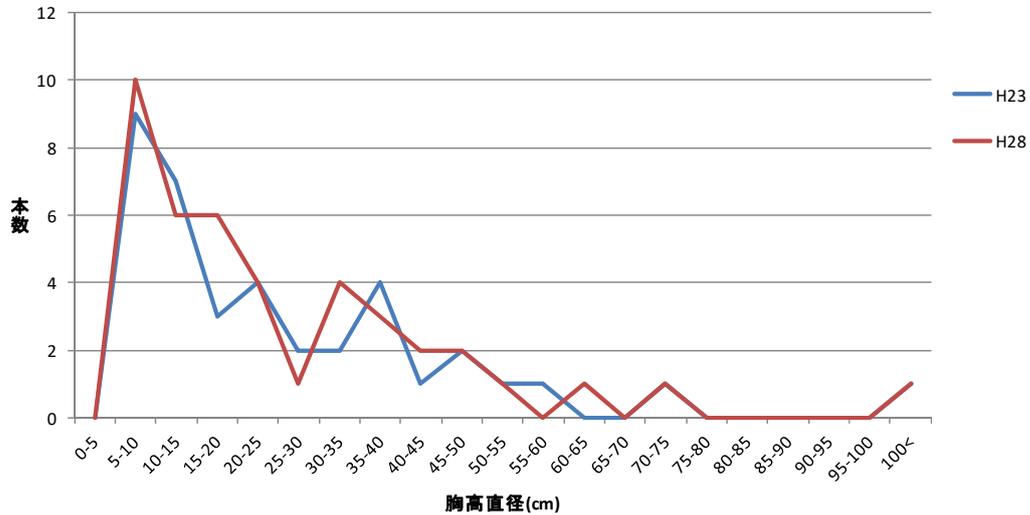
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	早池峰山周辺森林生態系保護地域		
整理番号	生態-3		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年7月26日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	94に2	斜面方位	S5E
標高	1122m	傾斜角度	16度
緯度経度	北緯 39度31分17.4秒		東経 141度30分45.0秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.2 小田越登山道入り口付近に駐車。登山道を登る。駐車位置から標準地まで約3.5km、徒歩約1.5時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ 胸高直径 40cm~60cm 樹高 20m~27m			
○亜高木層: ブナ、シナノキ 胸高直径 20~30cm 樹高 13m~18m			
○低木層: アオダモ、ハウチワカエデ 樹高 1m~3m			
○草本層: チシマザサ、クマイザサ、オクノカンスゲ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
一部、倒木が発生している。 ギャップが発生している。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ニホンジカの糞、採食痕、角研ぎ痕 ツキノワグマ爪痕			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査、動物調査、利用動態調査			

○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域（プロット2）



○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域（プロット2）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	シナノキ	15	15	285	285	15.35	22.29	18.3	18.8
2	ブナ	13	15	160	180	3.86	18.03	31.0	30.6
3	アオダモ	5	6	110	105	0.00	1.35	13.4	11.8
4	コシアブラ	2	2	35	35	0.00	0.82	16.1	17.0
5	ハウチワカエデ	2	3	35	45	0.00	1.09	14.7	16.5
6	ミズキ	1	1	25	25	0.00	0.30	11.4	12.3
計10種(枯損木を除く)		38	42	650	675	41.52	43.88	20.0	20.4

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は4本増加し、胸高断面積合計は41.52m²ha⁻¹から43.88m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は20.0cmから20.4cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域（プロット2）

≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

早池峰山周辺森林生態系保護地域(プロット2)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月7日	7月26日	
チシマザサ	3	3	
クマイザサ	1	1	
アオダモ	+	+	
ハウチワカエデ	+	+	
4種	4種	4種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

早池峰山周辺森林生態系保護地域(プロット2)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月7日	7月26日	
オクノカンスゲ	3	3	
イワガラミ	+	1	
オオカメノキ	+	1	
シナノキ	+	1	
フッキソウ	+	1	
オククルマムグラ	+	+	
キヨタキシダ	+	+	
シラネワラビ	+	+	
タニギキョウ	+	+	
ツクバネソウ	+	+	
ツルアリドオシ	+	+	
マイヅルソウ	+	+	
ミゾシダ	+	+	
ユキザサ	+	+	
アオダモ	未確認	1	△
ハウチワカエデ	未確認	1	△
ブナ	未確認	1	△
アマチャヅル	未確認	+	△
オオバトシボソウ	未確認	+	△
オシダ	未確認	+	△
トチバニンジン	未確認	+	△
ホソバナライシダ	未確認	+	△
ヤマイヌワラビ	未確認	+	△
ヤマジノホトギス	未確認	+	△
24種	14種	24種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 10

顕著な減少（▼） 0

■評価

低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は 10 種が新たに確認された。

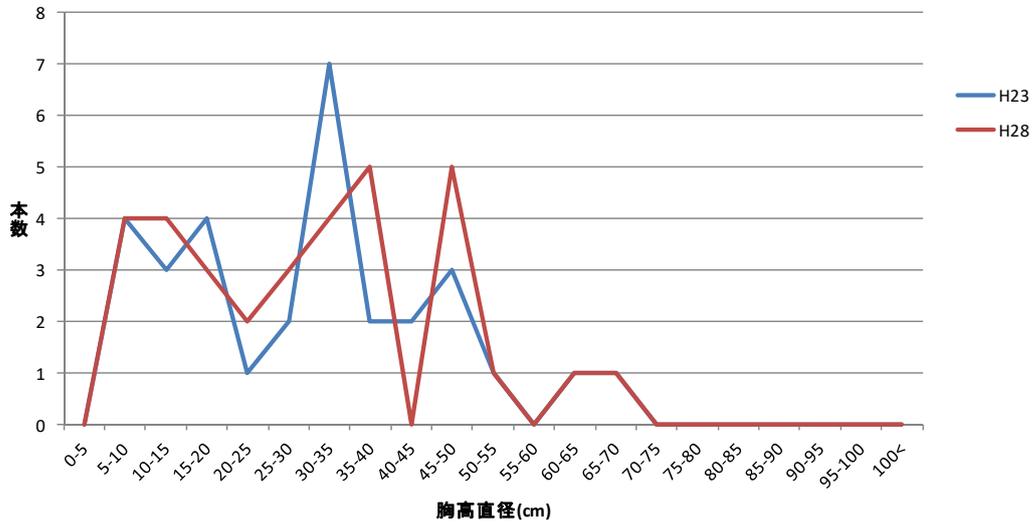
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	早池峰山周辺森林生態系保護地域		
整理番号	生態-3		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年7月27日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	771は2	斜面方位	N75E
標高	1262m	傾斜角度	18度
緯度経度	北緯 39度32分46.9秒		東経 141度28分52.4秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.3 河原坊登山道入り口に駐車。登山道を進み、途中の沢を登ったのち、笹藪の中を進む。駐車位置から標準地まで約1km、徒歩1時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: コメツガ、ブナ 胸高直径 30cm~50cm 樹高 16m~20m			
○亜高木層: コメツガ、ブナ、ダケカンバ 胸高直径 20~40cm 樹高 9m~14m			
○低木層: コメツガ、ブナ 樹高 1m~3m			
○草本層: チシマザサ、シラネワラビ、イワガラミ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ニホンジカの糞、採食痕 ツキノワグマ爪痕			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査、動物調査、利用動態調査			

○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域（プロット3）



○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域（プロット3）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	17	17	185	185	20.10	21.10	34.4	35.4
2	コメツカ	13	15	235	285	6.21	7.54	14.9	15.2
3	タケカンバ	1	1	10	10	2.86	2.87	60.3	60.5
計3種(枯損木を除く)		31	33	430	480	29.17	31.52	24.4	23.9

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は2本増加し、胸高断面積合計は29.17m²ha⁻¹から31.52m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は24.4cmから23.9cmに減少した。

○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域（プロット3）

≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

早池峰山周辺森林生態系保護地域(プロット3)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月9日	7月27日	
チシマザサ	3	4	
コメツガ	3	3	
ブナ	+	+	
3種	3種	3種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

早池峰山周辺森林生態系保護地域(プロット3)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月9日	7月27日	
シラネワラビ	2	3	
イワガラミ	1	2	
コメツガ	+	2	△
トウゲシバ	+	1	
アオダモ	+	+	
オオカメノキ	+	+	
コシアブラ	+	+	
ツルツゲ	+	+	
ハウチワカエデ	+	+	
マイヅルソウ	+	+	
ミネカエデ	+	+	
アケボノシユスラン	+	未確認	▼
コヨウラクツツジ	+	未確認	▼
シノブカグマ	+	未確認	▼
タケシマラン	+	未確認	▼
ハイイヌツゲ	+	未確認	▼
ミヤマイボタ	+	未確認	▼
ダイシマラン	未確認	+	△
ユキザサ	未確認	+	△
19種	17種	13種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 3

顕著な減少（▼） 6

△▼は両年とも確認された種で顕著な変化が見られた種

■評価

低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は6種が未確認、2種が新たに確認された。草本層においては、コメツガの優占度が大きく変化していた。

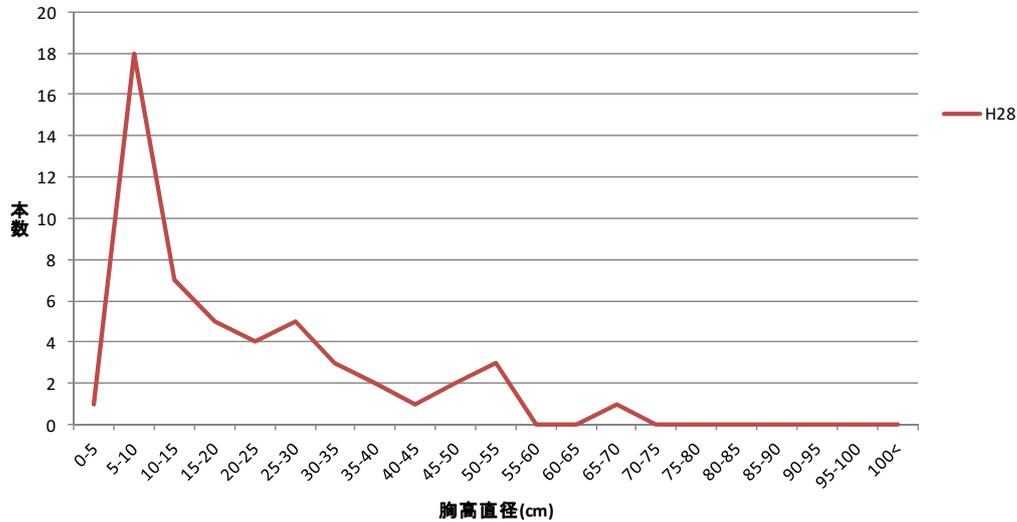
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	早池峰山周辺森林生態系保護地域		
整理番号	生態-3		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年7月27日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	764い	斜面方位	N18W
標高	1026m	傾斜角度	21度
緯度経度	北緯 39度32分06.5秒		東経 141度27分47.9秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.4 県道25号沿いに駐車。駐車位置付近から沢沿いを登る。駐車位置から標準地まで約300m、徒歩20分程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ 胸高直径 40cm~60cm 樹高 20m~27m			
○亜高木層: ブナ、アオダモ、シナノキ 胸高直径 20~30cm 樹高 13m~18m			
○低木層: チシマザサ、アオダモ、ハウチワカエデ 樹高 1m~3m			
○草本層: シノブカグマ、ヤマソテツ、ツルツゲ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ニホンジカの糞、採食痕、鳴き声 ツキノワグマ爪痕			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査、動物調査、利用動態調査			

○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域（プロット4）



○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域（プロット4）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ		21		270		23.30		28.0
2	ウラジロノキ		3		30		1.38		24.1
3	アオダモ		7		175		1.19		8.9
4	ホオノキ		3		60		1.05		13.1
5	ウリハダカエデ		2		50		0.69		12.4
6	シナノキ		3		60		0.61		10.5
7	ウツミササケ		2		35		0.56		13.8
8	ハウチワカエデ		3		75		0.53		8.7
9	コシアブラ		3		75		0.51		8.8
10	コミネカエデ		3		75		0.49		9.1
11	アズキナシ		1		10		0.30		19.5
12	ハウツギ		1		25		0.08		6.5
計12種(枯損木を除く)			52		940		30.70		15.6

今年度の調査結果を整理すると、計測対象木は52本、胸高断面積合計は30.70m²ha⁻¹、平均胸高直径は15.6cmであった。

○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域（プロット4）

≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

早池峰山周辺森林生態系保護地域(プロット4)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月7日	7月27日	
チシマザサ		3	
アオダモ		1	
ブナ		1	
ムラサキヤシオ		1	
ウラジロヨウラク		1	
オオカメノキ		1	
シナノキ		+	
ノリウツギ		+	
8種		8種	

早池峰山周辺森林生態系保護地域(プロット4)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月7日	7月27日	
シノブカグマ		3	
イワガラミ		3	
トウゲシバ		2	
ヤマソテツ		2	
ツルツゲ		1	
アクシバ		1	
シシガシラ		1	
ムラサキヤシオ		+	
コミネカエデ		+	
サカゲイノデ		+	
オクノカンスゲ		+	
アオダモ		+	
オクモミジハグマ		+	
シナノキ		+	
ノリウツギ		+	
15種		15種	

○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

早池峰山周辺森林生態系保護地域 植物目録

No	科名	種名	調査地点			環境省 RL	岩手県 RDB
			No2	No3	No4		
1	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ		○	○		
2	キジノオシダ科	ヤマソテツ			○		
3	シシガシラ科	シシガシラ			○		
4	オシダ科	ホソバナライシダ	○				
5		シノブカグマ		○	○		
6		シラネワラビ	○	○			
7		オシダ	○				
8		サカゲイノデ	○		○		
9	ヒメシダ科	ミゾシダ	○				
10	メシダ科	ヤマイヌワラビ	○				
11		ヘビノネゴザ	○				
12		キヨタキシダ	○				
13	ウラボシ科	ミヤマノキシノブ			○		
14	マツ科	コメツガ		○			
15	クヰミ科	サワグルミ			○		
16	カバノキ科	ダケカンバ		○			
17		アカシデ			○		
18	ブナ科	ブナ	○	○	○		
19	キンボウゲ科	ルイヨウショウマ	○				
20	ユキノシタ科	ノリウツギ			○		
21		ヤグルマソウ			○		
22		イワガラミ	○	○	○		
23	バラ科	ナナカマド		○	○		
24	ミカン科	ツルシキミ	○	○	○		
25	ウルシ科	ツタウルシ			○		
26	カエデ科	アサノハカエデ			○		
27		ハウチワカエデ	○	○	○		
28		コミネカエデ			○		
29		ウリハダカエデ			○		
30		ミネカエデ		○			
31	モチノキ科	ツルツゲ		○	○		
32	ツゲ科	フッキソウ	○				
33	シナノキ科	シナノキ	○		○		
34	ウリ科	アマチャヅル	○				
35	ウコギ科	コシアブラ	○	○			
36		ハリギリ			○		
37		ハリブキ			○		
38		トチバニンジン	○				
39	ツツジ科	ハナヒリノキ			○		
40		ウラジロヨウラク			○		
41		ムラサキヤシオ			○		
42		アクシバ			○		
43	モクセイ科	アオダモ	○	○	○		
44		ミヤマイボタ	○				
45	アカネ科	オククルマムグラ	○				
46		ツルアリドオン	○				
47	スイカズラ科	オオカメノキ	○	○	○		
48	キキョウ科	タニギキョウ	○				
49	キク科	オクモミジハグマ			○		
50		オオカニコウモリ		○			
51	ユリ科	チゴユリ			○		
52		ショウジョウバカマ		○			
53		マイヅルソウ	○	○			
54		ツクバネソウ	○	○			
55		ユキザサ	○	○			
56		タケシマラン		○			
57		ヤマジノホトギス	○				
58	イネ科	チシマザサ	○	○	○		
59		クマイザサ	○				
60	カヤツリグサ科	オクノカンスゲ	○	○	○		
61	ラン科	オオバトシボソウ	○				
計	32科	61種	32種	23種	33種	0種	0種

○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域

No	科名	和名	早池峰山周辺森林生態系保護地域										哺乳類				
			R-1		R-2		R-3		R-4		R-5		環境省 RL	岩手県 RDB	過年度と の比較		
			H23 7月/9月	H28 7月/9月	H23 7月/9月	H28 7月/10月	H23 7月/9月	H28 7月/10月	H23 7月/9月	H28 7月/10月	H23 7月/9月	H28 7月/9月					
1	モグラ科	ヒミズ		○													
2	オナガザル科	ホンドザル				○							LP	A			
3	ウサギ科	トウホクノウサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
4	クマ科	ツキノワグマ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		D			
5	イヌ科	ホンドギツネ		○													▼
6	イタチ科	ホンドテン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
7		ホンドオコジョ				○							準絶滅	B			▼
8	シカ科	ニホンジカ		○	○	○	○	○	○	○	○	○					
9	ウシ科	ニホンカモシカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		D			
計	8科	9種	4種	5種	6種	3種	6種	7種	5種	6種	7種	5種	2種	4種			

■ : 本年度調査対象ルート

■ : 指定種

本年度新たに確認した種(△) 0

過年度には確認されたが、本年度は確認されなかった種(▼) 2

○北上川中流森林計画区 早池峰山周辺森林生態系保護地域

早池峰山周辺森林生態系保護地域											鳥類		
No	科名	和名	R-1	R-2		R-3		R-4		R-5	環境省 RL	岩手県 RDB	過年度と の比較
			H23	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23			
			7月/9月	7月/9月	7月/10月	7月/9月	7月/10月	7月/9月	7月/10月	7月/9月			
1	キジ科	ヤマドリ		○			○		○			D	
2	カッコウ科	ジュウイチ		○	○							D	
3		ホトギス		○	○		○			○			
4		ツツドリ		○	○								
5		カッコウ				○							▼
6	タカ科	ハチクマ								○	準絶滅	C	
7		ノスリ				○	○					D	
8	キツツキ科	コゲラ						○	○	○			
9		アカゲラ		○		○	○						
10		アオゲラ			○				○				△
11	モズ科	モズ		○									
12	カラス科	カケス			○	○	○		○				
13		ホシガラス	○			○				○			▼
14		ハシブトガラス			○	○		○					
15	キクイタダキ科	キクイタダキ		○		○			○				
16	シジュウカラ科	コガラ		○	○	○	○	○	○	○			
17		ヒガラ	○	○	○	○	○	○	○	○			
18		シジュウカラ		○	○		○	○	○	○			
19	ウグイス科	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○			
20	エナガ科	エナガ	○	○	○		○		○	○			
21	ムシクイ科	メボソムシクイ		○	○	○	○	○	○	○			
22	メジロ科	メジロ		○	○		○						
23	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	○	○	○				○	○			
24	ミソサザイ科	ミソサザイ	○	○	○	○	○	○	○	○			
25	カワガラス科	カワガラス	○			○	○			○			
26	ヒタキ科	コマドリ		○	○	○	○		○	○		C	
27		コルリ						○	○				
28		ルリビタキ	○	○	○	○	○			○			
29		ノビタキ				○						C	
30		キビタキ	○	○	○		○	○	○	○			
31		オオルリ	○		○		○		○	○			
32	イワヒバリ科	カヤクグリ				○	○					D	
33	セキレイ科	キセキレイ				○	○						
34		ビンズイ				○				○			
35	アトリ科	ウソ		○		○	○	○		○			
36	ホオジロ科	クロジ		○	○		○		○			D	
計	20科	36種	10種	21種	20種	20種	22種	11種	18種	19種	1種	8種	

：本年度調査対象ルート

本年度新たに確認した種(△) 1

過年度には確認されたが、本年度は確認されなかった種(▼) 2

：指定種

早池峰山周辺森林生態系保護地域

項目	確認項目	評価	評価内容	総合評価 (案)
森林調査	毎木調査の変化	○	調査本数の増減が見られたが、林相や種組成に大きな変化は見られず、現状が維持されている。	A
	気象害	○	一部、風雪害等による倒木が見られるが、林分自体に影響を与えるほどでは無かった。	
	病虫害	○	特になし。	
	獣害	▲	一部、ニホンジカによると思われる角研ぎや採食痕が見られるが、林分自体に影響を与えるほどでは無かった。	
動物調査	下層植生の変化	○	出現種の増加は見られたが、現状が維持されている。	
	出現種の変化	○	鳥類については前回確認された鳥類と比較して、1種が新たに確認され2種が未確認、哺乳類についてはニホンジカによると思われる痕跡が全調査ルートで確認されている。	
利用動態	利用状況	—	河原の坊登山コースでの崩落に伴う登山道使用禁止のため、本地点からの入り込みは確認されなかった。	
	湿原の状況	—	モニタリングプロット近傍での湿原は確認されていない。	
対策の必要性		—	引き続き、ニホンジカの情報など収集に努め、関係機関等と対策を進める必要がある。	

総合評価 (案) A: 問題なし B: 要観察 (顕在化した問題はないが、予兆が見られた) C: 問題あり (問題が確認され、対策や経過観察が必要な状況)
 各項目評価 ○: 特に大きな変化は見られなかった。 または、大きな問題が見られなかった。 ▲: 管理委員会で要確認。

栗駒山・朽ヶ森山周辺森林生態系保護地域

(栗駒山・朽ヶ森山周辺森林生態系保護地域)

現地調査計画及び総括整理表

保護林名	栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域
整理番号	生態-5
森林管理局名	東北森林管理局



①現地調査計画

調査項目	森林調査	動物調査	利用動態調査
保護林の概況 [目的等]	日本海型から太平洋型への移行帯におけるブナ林等の原生的な天然林を保存することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究に資するため。		
調査箇所 ルート	・調査プロット: 前回(第1回モニタリング)の調査地点3箇所を実施 ・ルート: 別図参照 ・所要時間: 駐車位置より1~2時間	・調査ルート : 前回の調査ルートで実施	・調査箇所 須川温泉駐車場
調査時期・回数	平成28年8月~10月・1回	平成28年7月~10月 動物調査2回	平成28年10月11日(火)
調査項目	毎木調査・植生調査	痕跡調査・目視調査・鳥類調査	利用人数・利用実態調査
調査方法	・0.1haの円形調査プロットを設定し、小円部(0.01ha)、中円部(0.03ha)、大円部(0.06ha)とする。 ・胸高直径、樹高(可能な限り第1回目モニタリングにおける計測木)を計測する。 ・調査プロット内に出現する種組成の概要を把握し過年度調査結果と比較する。	・計画した調査ルートを踏査し、確認できた動物の痕跡等を記録する。	・調査箇所において、入込数のカウント及び来訪者への聞き取り調査を実施する。

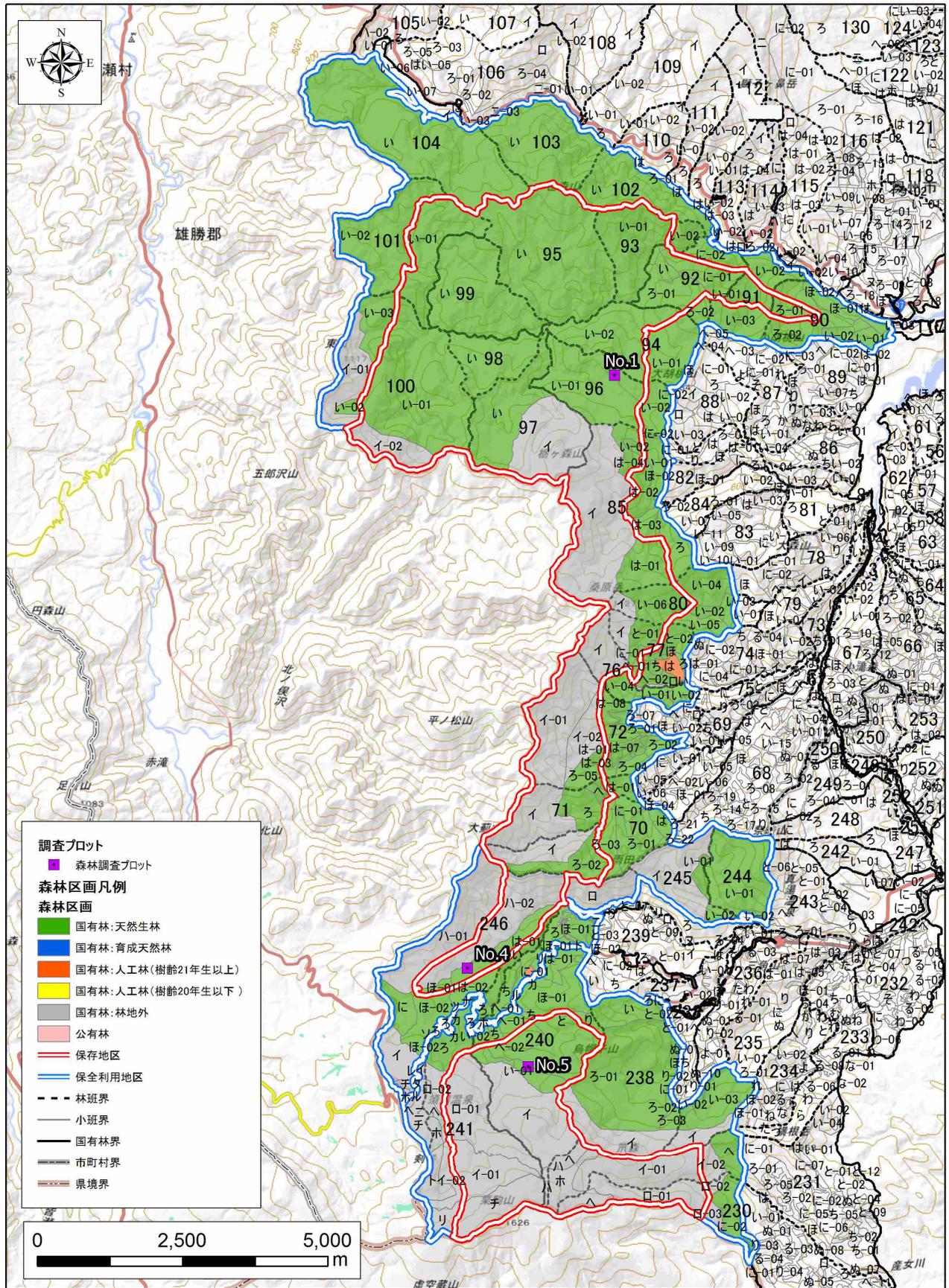
②総括整理表

調査項目	基礎調査	森林調査(特記事項: ○=良好、▲=注意、×=危険)	動物調査	利用動態調査
平成28年度 結果概要	<p>当保護林は、秋田県と岩手県、宮城県にまたがって位置する広大な天然生林である。当保護林は、日本海型から太平洋型への移行帯に位置し、主な森林群落はブナ-チシマザサ群落や山頂付近に生育するミヤマナラ、ハイマツ等の低木群落から成り立っている。</p> <p>当保護林は、北上川中流森林計画区(8580.76ha)と宮城北部森林計画区(3106.07ha)、雄物川森林計画区(4612.56ha)にまたがって設定されている。</p> <p>当保護林は、奥羽山脈緑の回廊と接続している。</p> <p>法令規則等:(保護林内の一部) 栗駒国定公園特別保護地域、第1種・第2種・第3種特別地域、鳥獣保護区特別地区、普通地区</p>	<p><u>調査プロットNo.1</u> 胸高直径30-40cmのブナによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20-30cm程度のブナ、ミズナラが生育していた。低木層はチシマザサが優占し、オオバクロモジ、オオカメノキ等が生育しており、草本層にはコカンスゲ、シノブカグマ、ショウジョウバカマ、ヒメアオキ等が生育し、合計52種の植物が確認された。</p> <p><u>調査プロットNo.4</u> 胸高直径50-70cmのブナによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20cm程度のハウチワカエデが生育していた。低木層にはチシマザサ、オオカメノキ等が生育し、草本層にはオオカメノキ、ヤマソテツ、シノブカグマ等が生育し、合計35種の植物が確認された。</p> <p><u>調査プロットNo.5</u> 胸高直径40-60cmのブナ、ダケカンバによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20cm程度のナナカマド、タムシバ等が生育していた。低木層にはチシマザサ、タカノツメ、オオカメノキ等が生育し、草本層にはオオカメノキ、ツルシキミ、ケナシハクサンシヤクナゲ等が生育し、合計38種の植物が確認された。</p> <p>○気象害や病虫獣害は確認されなかった。</p>	<p>R-1: 哺乳類ではヒミズ、トウホクノウサギ、ツキノワグマ、ホンドテン、ニホンカモシカの4種類が確認され、鳥類ではヤマドリ、ホトギス、ツツドリ、カッコウ等、19種が確認された。</p> <p>R-4: 哺乳類ではトウホクノウサギ、ツキノワグマ、ホンドテンの3種類が確認され、鳥類ではトビ、ノスリ、コゲラ、カケス、コガラ等、18種が確認された。</p> <p>R-5: 哺乳類ではヒミズ、トウホクノウサギ、ツキノワグマ、ホンドテンの4種類が確認され、鳥類ではヤマドリ、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ等、14種が確認された。</p>	<p>秋季調査 日時: 平成28年10月11日(火)</p> <p>利用状況は過年度と同様に利用者が非常に多くなっていた。駐車場や歩道等が整備されており、林内への進入する利用者はほとんど見られなかった。また、保護林内を走る道路沿いのスペースは、全てフェンスが張られており、一般者の駐車等は見られず、林内への進入は極力抑えられていた。</p>
第1回モニタリング (平成23年度) との結果比較	特になし。	低木の顕著な本数増加が見られたが、新規加入個体による増加と考えられる。気象害や病虫獣害等は確認されなかった。	過年度と比較して鳥類は、1種が新たに確認され6種が未確認、哺乳類については2種の痕跡が未確認であった。	適正に利用されている。
評価(案)	保護林設定目的である自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究に資するための森林が維持されている。			

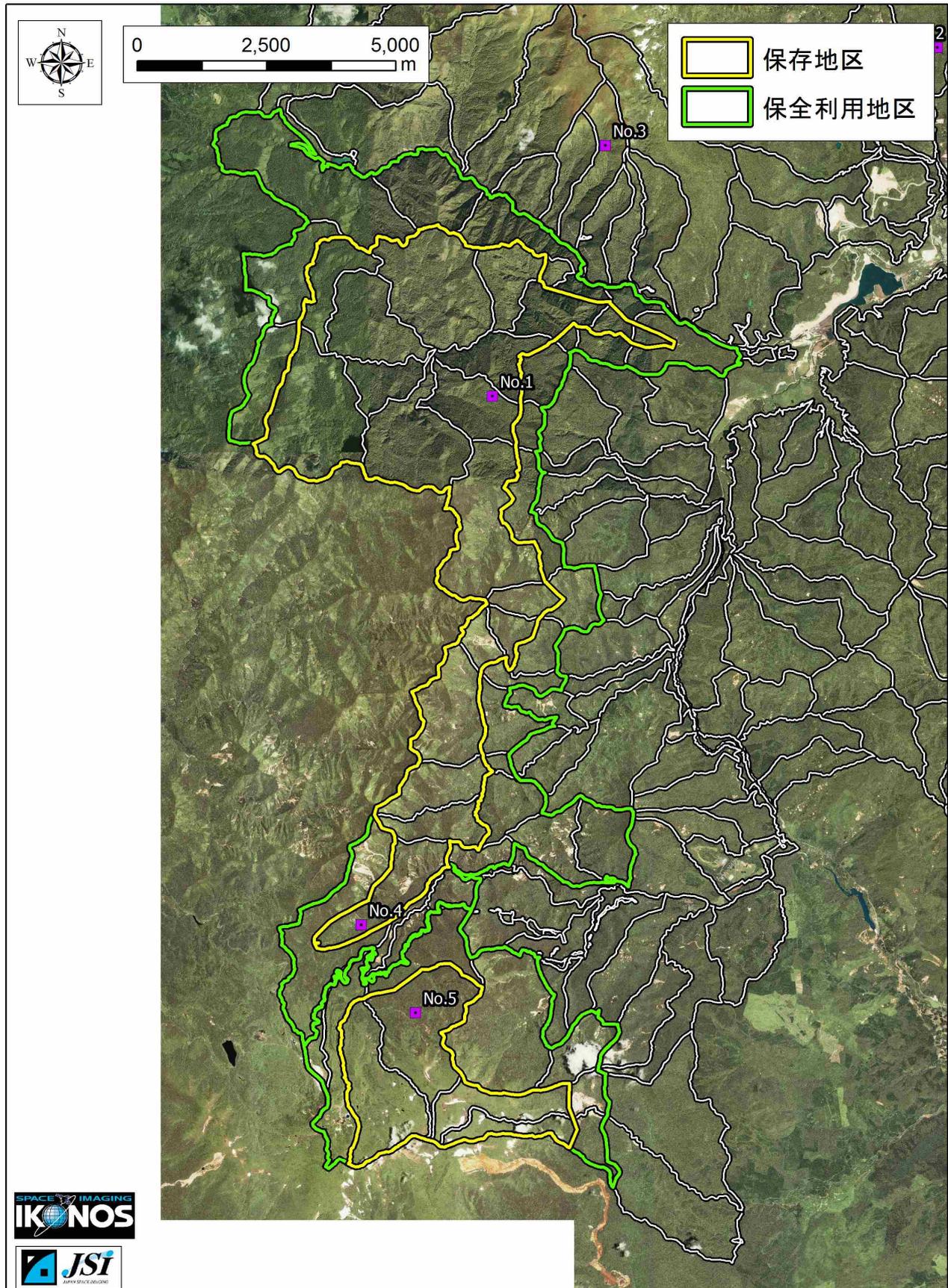
基礎調査整理表 2 a. 保護林情報図整理表
(森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林用)

保護林名	栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域(北上川中流森林計画区)						
整理番号	生態-5						
森林管理局名	東北森林管理局						
保護林内の状況 (森林生態系保護地域については保存地区、保存利用地区別の面積も記入)							
森林区分別面積	地	全域		保存地区		保全利用地区	
	区	面積	割合	面積	割合	面積	割合
	森林区分						
	天然生林	5871.10ha	68.4%	2577.32ha	58.2%	3293.78ha	79.4%
	育成天然林	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%
	人工林1	15.22ha	0.2%	0.00ha	0.0%	15.22ha	0.4%
	人工林2	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%
	林地外	2694.44ha	31.4%	1852.52ha	41.8%	841.92ha	20.3%
	合計	8580.76ha	100.0%	4429.84ha	100.0%	4150.92ha	100.0%
地区割合		100.0%		51.6%		48.4%	
保護林部分の森林区分別配置の概況	北上川中流森林計画区に位置する当保護林(以下、当保護林とする)内は、天然生林の占める割合がやや高く、保護林の東側に位置する栃ヶ森山と連なる山脈周辺、保護林の南部に位置する栗駒山周辺に林地外が配置されている。 保護林内には一部、国定公園特別保護地区、鳥獣保護特別地区が配置され、また、保全利用地区には自然観察教育林(須川温泉付近)が配置されている。						
保護林周辺の状況(国有林部分の森林区分別配置の概況)							
<p>当保護林は、岩手県奥州市から一関市にかけて位置し、周辺部は多くが国有林となっている。周辺の国有林は、天然生林と育成天然林、人工林が配置されている。 また、当保護林は、北上川中流森林計画区(8580.76ha)、宮城北部森林計画区(3106.07ha)及び雄物川森林計画区(4612.56ha)にまたがり配置されている。</p>							
その他特記事項(緑の回廊との接続状況の有無を含めて記入する。)							
<p>当保護林は栗駒国定公園に位置し、奥羽山脈緑の回廊と接続している。</p>							

栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域



栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域



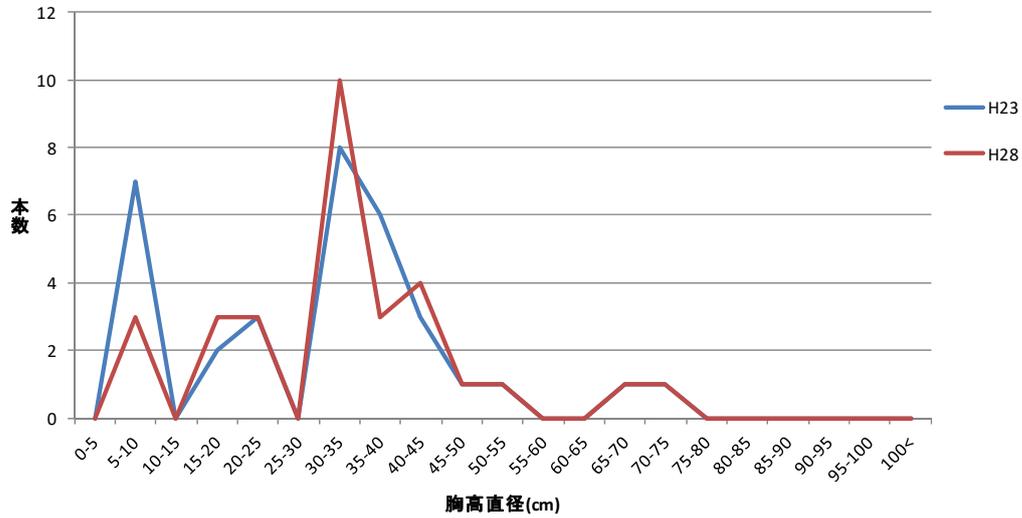
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域		
整理番号	生態-5		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年8月3日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	96い1	斜面方位	E
標高	801m	傾斜角度	20度
緯度経度	北緯 39度05分37.2秒		東経 140度48分41.5秒
測地系	世界測地系	局所地形	平坦尾根
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.1 林道終点に駐車。登山道を進み、大胡桃山を経由し林内へ入る。駐車位置から標準地まで約2.5km、徒歩2時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ 胸高直径 30cm~40cm 樹高 15m~20m			
○亜高木層: ブナ、ミズナラ 胸高直径 20~30cm 樹高 11m~13m			
○低木層: チシマザサ、オオバクロモジ、オオカメノキ 樹高 1m~3m			
○草本層: ヤマツツジ、コカンスゲ、シノブカグマ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕 トウホクノウサギの糞 ニホンカモシカ目視			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査、動物調査、利用動態調査			

○北上川中流森林計画区 栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域（プロット1）



○北上川中流森林計画区 栗駒山・朽ヶ森山周辺森林生態系保護地域（プロット1）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	21	22	210	220	22.55	23.62	35.4	35.4
2	ミズナラ	3	3	30	30	6.53	6.72	48.9	49.6
3	アカイタヤ	1	0	10		1.17		38.5	
4	アスキナシ	1	1	10	10	0.74	0.73	30.7	30.4
5	ハウチワカエデ	4	4	100	100	0.45	0.93	7.5	10.2
6	タムシバ	1	0	25		0.18		9.6	
7	ヤマウルシ	1	0	25		0.10		7.2	
8	ミスギ	1	0	25		0.07		5.8	
計8種(枯損木を除く)		33	30	435	360	31.78	32.00	25.1	29.5

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は3本減少し、胸高断面積合計は31.78m²ha⁻¹から32.00m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は25.1cmから29.5cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 栗駒山・柄ヶ森山周辺森林生態系保護地域（プロット1）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

栗駒山・柄ヶ森山周辺森林生態系保護地域(プロット1)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月15日	8月3日	
子シマザサ	4	4	
オオカメノキ	1	1	
オオバクロモジ	1	1	
タムシバ	1	1	
マルバマンサク	1	1	
ミネカエデ	+	1	
アオダモ	+	+	
ウゴツクバネウツギ	+	+	
ウワミズザクラ	+	+	
コシアブラ	+	+	
ハウチワカエデ	+	+	
ムラサキヤシオ	+	+	
12種	12種	12種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

栗駒山・柄ヶ森山周辺森林生態系保護地域(プロット1)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月15日	8月3日	
コカンスゲ	2	2	
ヤマツツジ	2	1	
オオカメノキ	1	1	
クマイザサ	1	1	
シノブカグマ	1	1	
ショウジョウバカマ	1	1	
タムシバ	1	1	
ヒメアオキ	1	1	
ツルアリドオシ	+	1	
トウゲシバ	+	1	
アオダモ	+	+	
アクシバ	+	+	
アケボノシュスラン	+	+	
ウゴツクバネウツギ	+	+	
コケシノブ	+	+	
コシアブラ	+	+	
コヨウラクツツジ	+	+	
シシガシラ	+	+	
タケシマラン	+	+	
タチシオデ	+	+	
ツバメオモト	+	+	
ツルシキミ	+	+	
ツルリンドウ	+	+	
ヒメモチ	+	+	
ミヤマノキシノブ	+	+	
リョウブ	+	+	
ゴトウヅル	+	1	
ハイイヌツゲ	未確認	1	△
ツタウルシ	未確認	+	△
ブナ	未確認	+	△
ヤマウルシ	未確認	+	△
31種	27種	31種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 4

顕著な減少（▼） 0

■評価

低木層は大きな変化は見られなかった。草本層は4種が新たに確認された。

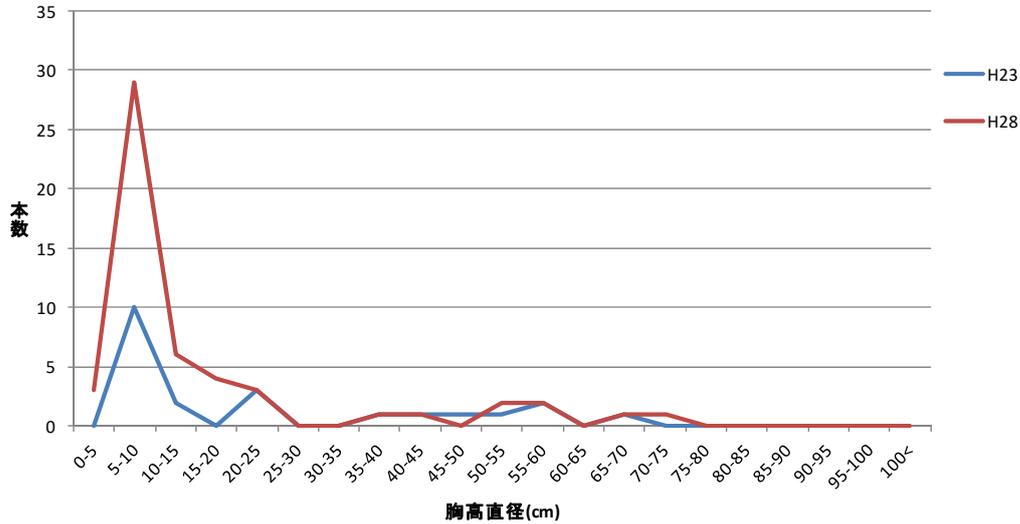
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域		
整理番号	生態-5		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年9月22日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	246は1	斜面方位	N
標高	717m	傾斜角度	12度
緯度経度	北緯 39度00分02.8秒		東経 140度46分56.3秒
測地系	世界測地系	局所地形	平坦尾根
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.4 国道342号沿いに駐車。駐車地点付近から尾根を下る。駐車位置から標準地まで約700m、徒歩30分程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ 胸高直径 60cm~70cm 樹高 18m~23m			
○亜高木層: ハウチワカエデ 胸高直径 15~20cm 樹高 10m~12m			
○低木層: チシマザサ、オオカメノキ 樹高 1m~3m			
○草本層: オオカメノキ、ヤマソテツ、シノブカグマ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕 トウホクノウサギの糞			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査、動物調査、利用動態調査			

○北上川中流森林計画区 栗駒山・朽ヶ森山周辺森林生態系保護地域（プロット4）



○北上川中流森林計画区 栗駒山・朽ヶ森山周辺森林生態系保護地域（プロット4）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	9	14	105	165	15.55	20.58	39.3	32.4
2	タムシバ	6	7	150	175	0.61	0.74	6.9	7.1
3	ハウチワカエデ	2	27	35	645	0.49	5.14	12.2	9.2
4	ウミズサケラ	1	1	10	10	0.42	0.41	23.1	22.8
5	リョウブ	2	2	50	50	0.15	0.13	6.3	5.8
6	コシアブラ	1	2	25	50	0.13	0.26	8.3	7.9
7	アオダモ	1	2	25	50	0.07	0.12	6.0	5.5
計7種(枯損木を除く)		22	55	400	1145	17.42	27.37	16.3	12.0

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は33本増加し、胸高断面積合計は17.42m²ha⁻¹から27.37m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は16.3cmから12.0cmに減少した。

○北上川中流森林計画区 栗駒山・柄ヶ森山周辺森林生態系保護地域（プロット4）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

栗駒山・柄ヶ森山周辺森林生態系保護地域(プロット4)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月18日	9月22日	
チシマザサ	3	4	
オオカメノキ	2	2	
コシアブラ	1	1	
タムシバ	1	1	
ハウチワカエデ	1	1	
5種	5種	5種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

栗駒山・柄ヶ森山周辺森林生態系保護地域(プロット4)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月18日	9月22日	
オオカメノキ	3	2	
シノブカグマ	2	1	
ヤマソテツ	2	1	
エゾユズリハ	1	1	
ツルシキミ	1	1	
ツルアリドオシ	1	+	
ムラサキヤシオ	1	+	
ヤマウルシ	1	+	
アオダモ	+	1	
ツタウルシ	+	1	
ミネカエデ	+	1	
アクシバ	+	+	
キタノテツカエデ	+	+	
コシアブラ	+	+	
チシマザサ	+	+	
ナナカマド	+	+	
ハイイヌツゲ	+	+	
ブナ	+	+	
マイヅルソウ	+	+	
ウワミズザクラ	未確認	+	△
コヨウラクツツジ	未確認	+	△
ショウジョウバカマ	未確認	+	△
タムシバ	未確認	+	△
リョウブ	未確認	+	△
24種	19種	24種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 5

顕著な減少（▼） 0

■評価

低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は5種が新たに確認された。

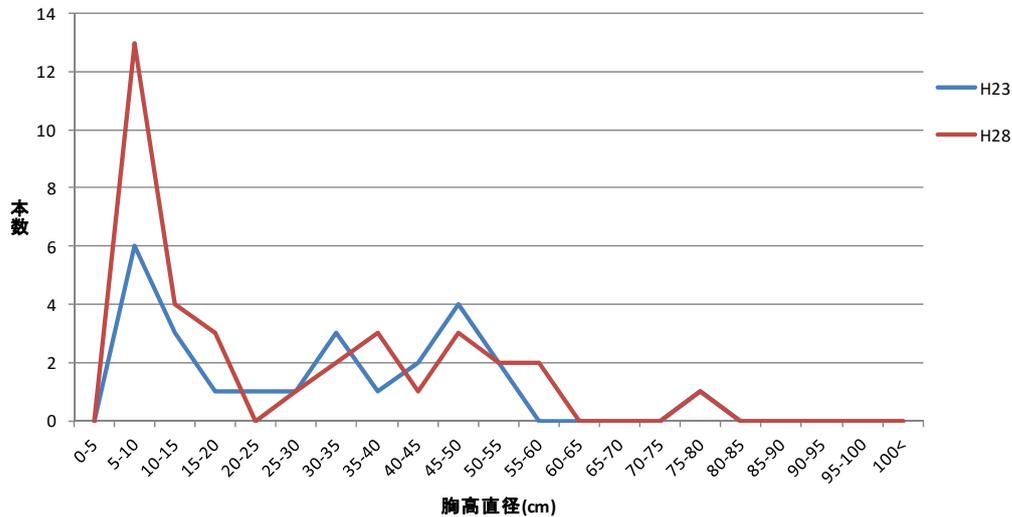
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域		
整理番号	生態-5		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年10月11日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	240い1	斜面方位	N80W
標高	1050m	傾斜角度	6度
緯度経度	北緯 38度59分07.6秒		東経 140度47分39.9秒
測地系	世界測地系	局所地形	平坦尾根
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.5 国道342号沿いに駐車。磐井川沿いに進み、支流の沢を登る。駐車位置から標準地まで約2.5km、徒歩2時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ、ダケカンバ 胸高直径 40cm~60cm 樹高 16m~20m			
○亜高木層: ハウチワカエデ、タムシバ 胸高直径 5~10cm 樹高 5m~8m			
○低木層: タカノツメ、ハウチワカエデ 樹高 1m~3m			
○草本層: チシマザサ、オオカメノキ、ツルシキミ、ハイイヌツゲ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕 トウホクノウサギの糞			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査、動物調査、利用動態調査			

○北上川中流森林計画区 栗駒山・朽ヶ森山周辺森林生態系保護地域（プロット5）



○北上川中流森林計画区 栗駒山・朽ヶ森山周辺森林生態系保護地域（プロット5）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	12	13	120	130	20.57	23.71	45.0	46.4
2	タケカンバ	2	2	20	20	2.72	3.03	41.1	43.5
3	ナナカマド	2	1	35	25	0.66	0.33	14.6	13.0
4	アオダモ	1	1	25	25	0.55	0.57	16.8	17.1
5	オオモジ	3	3	75	75	0.38	0.44	7.6	8.2
6	タムシバ	1	5	25	125	0.27	1.55	11.8	12.2
7	ハウチワカエデ	2	8	50	200	0.25	1.01	8.0	7.9
8	ミネカエデ	2	2	50	50	0.15	0.19	6.2	6.9
計8種(枯損木を除く)		25	35	400	650	25.55	30.84	21.8	18.0

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は10本増加し、胸高断面積合計は25.55m²ha⁻¹から30.84m²ha⁻¹に増加し、平均胸高直径は21.8cmから18.0cmに減少した。

○北上川中流森林計画区 栗駒山・栢ヶ森山周辺森林生態系保護地域（プロット5）
 ≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

栗駒山・栢ヶ森山周辺森林生態系保護地域(プロット5)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月17日	10月11日	
チシマザサ	5	4	
タカノツメ	1	+	
ハウチワカエデ	1	+	
アオダモ	+	+	
クロヅル	+	+	
タムシバ	+	+	
オオカメノキ	未確認	+	△
ミネカエデ	未確認	+	△
8種	6種	8種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 2

顕著な減少（▼） 0

栗駒山・栢ヶ森山周辺森林生態系保護地域(プロット5)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月17日	10月11日	
オオカメノキ	2	2	
ツルシキミ	2	2	
ハイヌツゲ	2	2	
ミヤマノキシノブ	2	1	
クロヅル	1	1	
ケナシハクサンシャクナゲ	1	1	
ヒメモチ	1	1	
アオダモ	+	+	
アケボノシュスラン	+	+	
イワガラミ	+	+	
ウスノキ	+	+	
コシアブラ	+	+	
ツルアジサイ	+	+	
コヨウラクツツジ	+	+	
シノブカグマ	+	+	
タケシマラン	+	+	
タムシバ	+	+	
ツクバネソウ	+	+	
ツタウルシ	+	+	
ナナカマド	+	+	
ノリウツギ	+	+	
ハナヒリノキ	+	+	
ブナ	+	+	
ホツツジ	+	+	
マイヅルソウ	+	+	
ミネカエデ	+	+	
ヤシヤビシャク	+	+	
アクシバ	+	未確認	▼
ツルアリドオシ	+	+	
ヤマウルシ	未確認	+	△
30種	29種	29種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 1

顕著な減少（▼） 1

■評価

低木層は2種が新たに確認された。

草本層は1種が未確認、1種が新たに確認された。

○北上川中流森林計画区 栗駒山・栴ヶ森山周辺森林生態系保護地域

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

栗駒山・栴ヶ森山周辺森林生態系保護地域 植物目録

No	科名	種名	調査地点			環境省 RL	岩手県 RDB
			No1	No4	No5		
1	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ	○				
2	ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ			○		
3		ゼンマイ	○				
4	キジノオシダ科	ヤマソテツ		○			
5	コケシノブ科	コケシノブ	○				
6	シシガシラ科	シシガシラ	○				
7	オシダ科	シノブカグマ	○	○	○		
8	ウラボシ科	ミヤマノキシノブ	○	○	○		
9	イヌガヤ科	ハイイヌガヤ	○				
10	フナ科	フナ	○	○	○		
11		ミスナラ		○			
12	モクレン科	タムシバ	○	○	○		
13	クスノキ科	オオバクロモジ	○				
14	ウマノスズクサ科	オクエゾサイシン	○				
15	マタビ科	マタビ	○				
16	マンサク科	マルバマンサク	○	○			
17	ユキノシタ科	ノリウツギ			○		
18		ツルアジサイ	○		○		
19		エゾアジサイ		○			
20		ヤシヤビシヤク			○	準絶滅	
21		イワガラミ	○	○	○		
22	バラ科	ウワミズザクラ	○	○			
23		アズキナシ	○	○			
24		ナナカマド	○	○	○		
25	ユズリハ科	エゾユズリハ		○			
26	ミカン科	ツルシキミ	○	○	○		
27	ウルシ科	ツタウルシ	○	○	○		
28		ヤマウルシ	○	○	○		
29	カエデ科	ヒツバカエデ		○			
30		ハウチワカエデ	○	○	○		
31		キタノテツカエデ		○			
32		オオモミジ			○		
33		ウリハダカエデ	○				
34		ミネカエデ	○	○	○		
35	モチノキ科	ハイイヌツゲ	○	○	○		
36		ヒメモチ	○		○		
37	ニシキギ科	クロツル			○		
38	ミズキ科	ヒメアオキ	○				
39		ミズキ	○				
40	ウコギ科	コシアブラ	○	○	○		
41		タカノツメ			○		
42	リョウブ科	リョウブ	○	○			
43	ツツジ科	アブラツツジ	○		○		
44		ハナヒリノキ	○	○	○		
45		コヨウラクツツジ	○	○	○		
46		ムラサキヤシオ	○	○	○		
47		ケナシハクサンシャクナゲ			○		
48		ヤマツツジ	○				
49		ホツツジ		○	○		
50		ウスノキ	○		○		
51		アクシバ	○	○			
52	ヤブコウジ科	ヤブコウジ	○				
53	モクセイ科	アオダモ	○	○	○		
54	リンドウ科	ツルリンドウ	○		○		
55	アカネ科	ツルアリドオシ	○	○	○		
56	スイカズラ科	ウゴツクバネウツギ	○		○		
57		オオカメノキ	○	○	○		
58	ユリ科	ツバメオモト	○				
59		ショウジョウバカマ	○	○			
60		マイヅルソウ		○	○		
61		ツクバネソウ			○		
62		タチシオデ	○				
63		タケシマラン	○		○		
64	イネ科	チシマザサ	○	○	○		
65		クマイザサ	○				
66	カヤツリグサ科	コカンスゲ	○				
67	ラン科	アケボノシユスラン	○	○	○		
68		フガクスズムシソウ	○			Ⅱ類	
計	35科	68種	52種	35種	38種	2種	0種

○北上川中流森林計画区 栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域

栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域										哺乳類				
No	科名	和名	R-1		R-2	R-3		R-4		R-5		環境省 RL	岩手県 RDB	過年度と の比較
			H23 7月/9月	H28 7月/10月	H23 7月/9月	H23 7月/9月	H28 7月/10月	H23 7月/9月	H28 7月/10月					
1	モグラ科	ヒミズ	○	○	○					○				
2	ウサギ科	トウホクノウサギ	○	○	○			○	○	○				
3	クマ科	ツキノワグマ	○	○	○	○	○	○	○	○		D		
4	イヌ科	ホンドタヌキ	○		○									▼
5		ホンドギツネ					○							▼
6	イタチ科	ホンドテン	○	○		○	○	○	○	○				
7	ウシ科	ニホンカモシカ	○	○	○	○	○	○	○	○		D		
計	5科	6種	5種	4種	4種	2種	4種	3種	4種	3種	0種	1種		

○ : 本年度調査対象ルート

■ : 指定種

△ : 本年度新たに確認した種

○ : 本年度は確認されたが、過年度には確認されなかった種

▼ : 過年度に確認されたが、本年度は確認されなかった種

○北上川中流森林計画区 栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域

栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域											鳥類		
No	科名	和名	R-1		R-2	R-3	R-4		R-5		環境省 RL	岩手県 RDB	過年度と の比較
			H23	H28	H23	H23	H23	H28	H23	H28			
			7月/9月	7月/10月	7月/9月	7月/9月	7月/9月	7月/10月	7月/9月	7月/10月			
1	キジ科	ヤマドリ		○						○		D	△
2	ハト科	キジバト	○		○	○	○	○					
3		アオバト			○								▼
4	カッコウ科	ジュウイチ					○					D	▼
5		ホトギス	○	○									
6		ツツドリ	○	○									
7		カッコウ		○			○		○				
8	タカ科	トビ						○	○				
9		ノスリ					○	○				D	
10	キツツキ科	コゲラ	○	○	○		○	○	○	○			
11		オオアカゲラ			○							D	▼
12		アカゲラ	○	○	○		○						
13	モズ科	アカモズ					○				IB類	A	▼
14	カラス科	カケス	○	○	○	○	○	○	○	○			
15		ホシガラス					○						▼
16		ハシブトガラス		○			○		○				
17	クイタダキ科	クイタダキ		○			○						
18	シジュウカラ科	コガラ	○	○	○	○	○	○	○	○			
19		ヤマガラ			○				○	○			
20		ヒガラ	○	○	○	○	○	○	○	○			
21		シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○			
22	ツバメ科	イワツバメ					○	○					
23	ヒヨドリ科	ヒヨドリ				○	○			○			
24	ウグイス科	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○			
25		ヤブサメ					○						▼
26	ムシクイ科	メボソムシクイ	○	○									
27		エゾムシクイ	○	○									
28	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○			
29	ミソサザイ科	ミソサザイ	○	○	○	○	○	○	○	○			
30	カワガラス科	カワガラス				○			○	○			
31	ヒタキ科	アカハラ					○	○					
32		キビタキ	○	○	○	○	○	○	○	○			
33		オオルリ	○	○		○	○	○	○				
34	セキレイ科	キセキレイ				○	○			○			
35		ピンズイ					○	○					
36	ホオジロ科	ホオジロ					○	○					
37		クロジ			○		○	○	○			D	
計	19科	37種	16種	19種	15種	13種	27種	18種	16種	14種	1種	6種	

○ : 本年度調査対象ルート

△ : 本年度新たに確認した種 (△) 1

▼ : 過年度には確認されたが、本年度は確認されなかった種 (▼) 6

■ : 指定種

栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域

項目	確認項目	評価	評価内容	総合評価（案）
森林調査	毎木調査の変化	○	ブナ・チシマザサ群落が主体となって構成されており、現状が維持されている。低木の顕著な増加が見られたが、新規加入個体による増加と考えられる。	A
	気象害	○	特になし。	
	病虫害	○	特になし。	
	獣害	○	特になし。	
動物調査	下層植生の変化	○	出現種の増加は見られたが、現状が維持されている。	
	出現種の変化	○	鳥類については前回確認された鳥類と比較して、1種が新たに確認され6種が未確認、哺乳類については2種の痕跡が未確認であった。	
利用動態	利用状況	○	利用状況は過年度と同様に利用者が非常に多いが、駐車場や歩道等が整備されており、適正に利用されている。また、保護林内を走る道路沿いのスペースは、全てフェンスが張られており、一般者の駐車等は見られず、林内への進入は極力抑えられていた。	
湿原等	湿原の状況	—	モニタリングプロット近傍での湿原は確認されていない。	
対策の必要性		—	特になし。	

総合評価（案） A：問題なし B：要観察（顕在化した問題はないが、予兆が見られた） C：問題あり（問題が確認され、対策や経過観察が必要な状況）
 各項目評価 ○：特に大きな変化は見られなかった。または、大きな問題が見られなかった。 ▲：管理委員会で要確認。

毒ヶ森植物群落保護林

(毒ヶ森生物群集保護林)

現地調査計画及び総括整理表

保護林名	毒ヶ森植物群落保護林
整理番号	植物-17
森林管理局名	東北森林管理局



①現地調査計画

調査項目	森林調査	動物調査	利用動態調査
保護林の概況 [目的等]	毒ヶ森周辺の日本海側ブナ林から亜高山落葉低木林にいたる多様な植物群落を一体のものとして保存するため。		
調査箇所 ルート	・調査プロット: 前回(第1回モニタリング)の調査地点3箇所を実施 ・ルート: 別図参照 ・所要時間: 駐車位置より約1時間~2時間	/	/
調査時期・回数	平成28年9月・1回		
調査項目	毎木調査・植生調査		
調査方法	・0.1haの円形調査プロットを設定し、小円部(0.01ha)、中円部(0.03ha)、大円部(0.06ha)とする。 ・胸高直径、樹高(可能な限り第1回目モニタリングにおける計測木)を計測する。 ・調査プロット内に出現する種組成の概要を把握し過年度調査結果と比較する。		

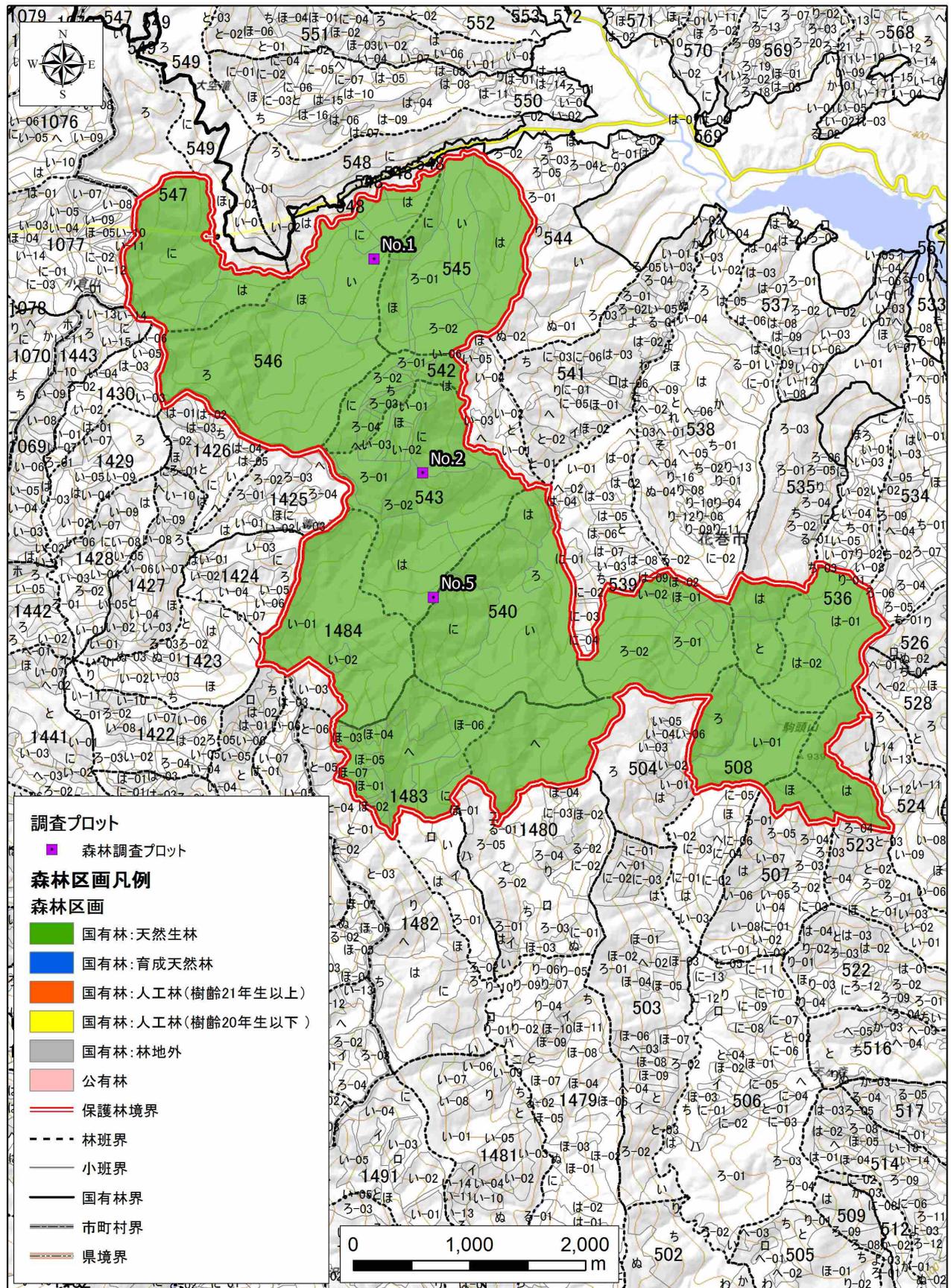
②総括整理表

調査項目	基礎調査	森林調査(特記事項: ○=良好、▲=注意、×=危険)	動物調査	利用動態調査
平成28年度 結果概要	当保護林は、岩手県花巻市に位置する毒ヶ森周辺の天然生林である。 当保護林内の植物群落は、主にブナ-チシマザサ群落を主体として、松倉山山頂付近のマルバマンサクやツツジ類で構成されている低木林、稜線沿いにはミヤマナラやアカミノイヌツゲ等からなる亜高山落葉広葉低木林、雪崩地植物群落、湿性植物群落等が見られる。 当保護林は、緑の回廊と接続していない。 法令規則等: 鳥獣保護区普通地区(一部)	調査プロットNo.1 胸高直径40-60cmのブナ、ミズナラによって林冠が構成されており、亜高木層にも直径20-30cm程度のブナ、ミズナラが生育していた。低木層にはブナ、オオバクロモジ、オオカメノキ、タムシバ等が生育し、草本層にはミヤマカンスゲ、オオカメノキ、タムシバ、ハイイヌツゲ等が生育し、合計45種の植物が確認された。 調査プロットNo.2 胸高直径40-60cmのブナによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20-30cm程度のブナ、ミズナラが生育していた。低木層にはオオバクロモジ、オオカメノキ等が生育し、草本層にはチシマザサ、ミネカエデ、シノブカグマ、ツルアリドシ等が生育し、合計37種の植物が確認された。 調査プロットNo.5 胸高直径40-60cmのブナに林冠が構成されており、亜高木層には直径20cm程度のブナ、ヒトツバカエデが生育していた。低木層にはアオダモ、コシアブラ、オオバクロモジが生育し、草本層にはチマキザサ、ミヤマカンスゲ、ショウジョウバカマ等が生育し、合計44種の植物が確認された。 ○気象害や病虫獣害は確認されなかった。	/	/
第1回モニタリング (平成23年度) との結果比較	特に変化なし。	特に変化は見られず、病虫獣害等も確認されなかった。		
評価(案)	保護林設定目的である毒ヶ森周辺の多様な植物群落を一体のものとして保存するための森林が維持されている。			

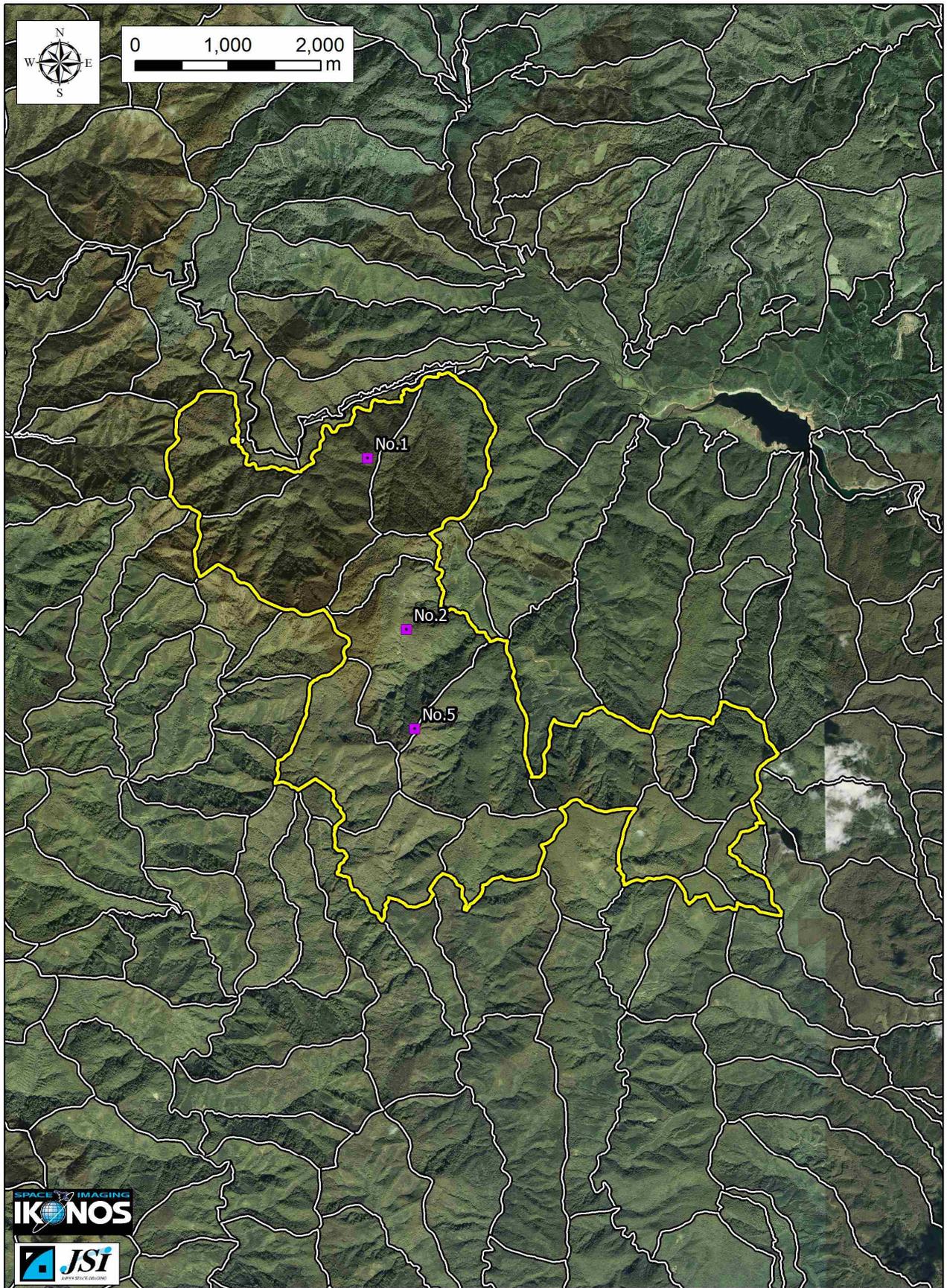
基礎調査整理表 2 b. 保護林情報図整理表
(森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林以外の保護林用)

保護林名	毒ヶ森植物群落保護林					
整理番号	植物-17					
森林管理局名	東北森林管理局					
保護林と保護林周辺(保護林の中心から2km内にかかる小班)の森林区分別面積 (保護林周辺については、保護林面積1,000ha未満のものについて記入する)						
地区 森林区分	保護林内		保護林周辺国有林		保護林周辺民有地(概略) (必要に応じ可能であれば記入する)	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
天然生林	1639.11ha	100.0%				
育成天然林	0.00ha	0.0%				
人工林1	0.00ha	0.0%				
人工林2	0.00ha	0.0%				
林地外	0.00ha	0.0%				
合計	1639.11ha	100.0%				
周辺民有地を区分した場合、その方法の概略	国有林GIS					
保護林と周辺国有林の森林区分別配置の概要 (当該保護林と他の天然生林との接続状況を含めて記入する。)						
<p>当保護林は岩手県花巻市に位置する天然生林である。保護林周辺はほぼ全て国有林天然生林、育成天然林、人工林、林地外と接続しており、ブナ林やスギ林、カラマツ林が多く配置されている。保護林の北東側には、豊沢湖、東側には鉛温泉スキー場がある。</p>						
<p>周辺民有地の森林・土地利用の配置の概況(保護林の中心から2km内に民有地がある場合必ず記入する。公有林があると確認された位置図面等が入手できた場合は、その配置状況を必ず記入する。)</p>						
<p>周辺民有地には主に人工林や畑地等として利用されている。</p>						
<p>その他特記事項(緑の回廊との接続の有無を含めて記入する。)</p>						
<p>当保護林は緑の回廊と接続していない。</p>						
作成の基とした図面や収集した空中写真	国有林 GIS、IKONOS衛星画像					

毒ヶ森植物群落保護林



毒ヶ森植物群落保護林



基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

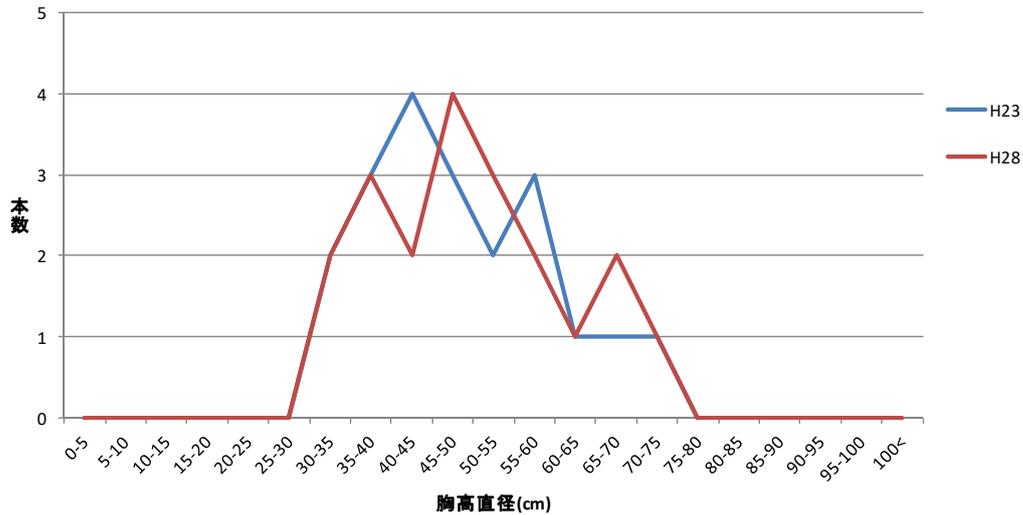
保護林名	毒ヶ森植物群落保護林		
整理番号	植物-17		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年9月25日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	546い	斜面方位	W
標高	582m	傾斜角度	22度
緯度経度	北緯 39度29分01.4秒		東経 140度54分32.4秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.1 県道12号沿いに駐車。橋の脇から桂沢へと降りる。桂沢を渡り、尾根沿いに林内を進む。駐車位置から標準地まで約1.5km、徒歩1時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ、ミズナラ 胸高直径 40cm~70cm 樹高 25m~29m			
○亜高木層: ブナ、ミズナラ 胸高直径 20cm~30cm 樹高 10m~15m			
○低木層: ブナ、オオカメノキ、タムシバ、オオバクロモジ 樹高 1m~3m			
○草本層: ミヤマカンスゲ、オオカメノキ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕 ニホンカモシカの糞 ホンドテンの糞			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 毒ヶ森植物群落保護林（プロット1）



○北上川中流森林計画区 毒ヶ森植物群落保護林（プロット1）

《毎木調査結果比較》



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	17	17	170	170	35.26	37.80	50.3	52.1
2	ミスナラ	3	3	30	30	3.23	3.28	36.9	37.1
計2種(枯損木を除く)		20	20	200	200	38.50	41.07	48.3	49.9

今年度の調査結果を 5 年前と比較すると、本数に変化は見られず、胸高断面積合計は 38.50m²ha⁻¹ から 41.07m²ha⁻¹ に増加、平均胸高直径は 48.3cm から 49.9cm に増加した。

○北上川中流森林計画区 毒ヶ森植物群落保護林（プロット1）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

毒ヶ森植物群落保護林(プロット1)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月20日	9月25日	
ブナ	3	3	
オオカメノキ	2	2	
タムシバ	2	2	
オオバクロモジ	2	1	
ハウチワカエデ	1	1	
ウワミズザクラ	1	未確認	▼
アオダモ	+	+	
コシアブラ	+	+	
チシマザサ	+	+	
リョウブ	未確認	+	△
10種	9種	9種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 1

顕著な減少（▼） 1

毒ヶ森植物群落保護林(プロット1)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月20日	9月25日	
ミヤマカンスゲ	4	3	
オオカメノキ	2	1	
ウワミズザクラ	1	1	
タムシバ	1	1	
チシマザサ	1	1	
ハイイヌツゲ	1	1	
アズキナシ	+	+	
オオバクロモジ	+	+	
コシアブラ	+	+	
シシガシラ	+	+	
シノブカグマ	+	+	
ツルシキミ	+	+	
ノリウツギ	+	+	
ハイイヌガヤ	+	+	
ハクウンボク	+	+	
ブナ	+	+	
ミネカエデ	+	+	
ミヤマイトチシダ	+	未確認	▼
ヤマウルシ	+	未確認	▼
ヤマソテツ	+	未確認	▼
ヒメアオキ	未確認	1	△
コミネカエデ	未確認	+	△
ナナカマド	未確認	+	△
ハウチワカエデ	未確認	+	△
ヒメモチ	未確認	+	△
リョウブ	未確認	+	△
26種	20種	23種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 6

顕著な減少（▼） 3

■評価

低木層は1種が未確認、1種が新たに確認された。

草本層は3種が未確認、6種が新たに確認された。

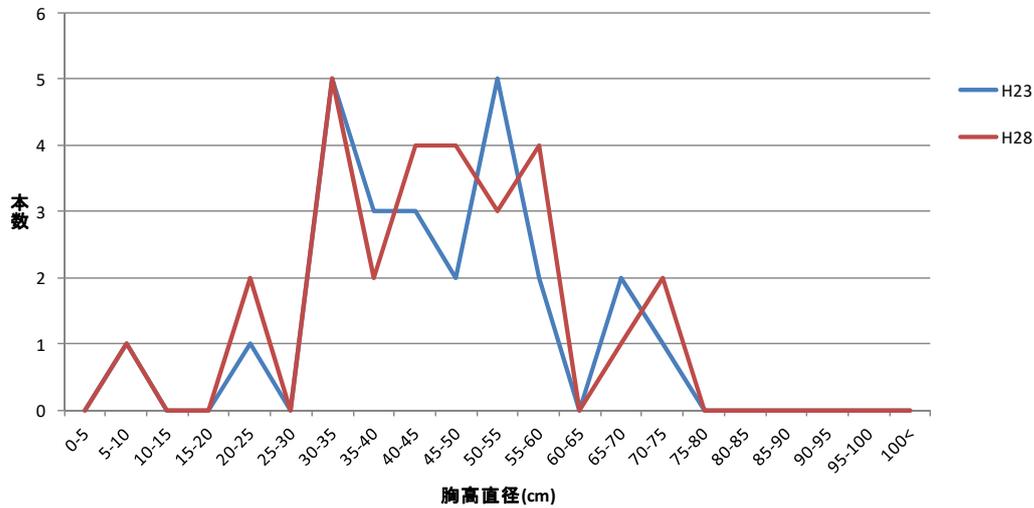
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	毒ヶ森植物群落保護林		
整理番号	植物-17		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年9月23日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	543ろ2	斜面方位	N25W
標高	738m	傾斜角度	16度
緯度経度	北緯 39度28分01.2秒		東経 140度54分50.2秒
測地系	世界測地系	局所地形	尾根平坦地
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.2 出羽沢沿いの林道の大ヘンジョウ沢付近に駐車。駐車位置付近から大ヘンジョウ沢へと降り、沢の分岐付近から西側の尾根へと登る。駐車位置から標準地まで約1.5km、徒歩1時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ 胸高直径 30cm~70cm 樹高 21m~24m			
○亜高木層: ブナ、ミズナラ 胸高直径 20cm~40cm 樹高 14m~17m			
○低木層: オオカメノキ、コシアブラ、タムシバ 樹高 1m~3m			
○草本層: チシマザサ、ツルアリドオシ、ミネカエデ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕 ニホンカモシカ目視 ホンドテンの糞			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 毒ヶ森植物群落保護林（プロット2）



○北上川中流森林計画区 毒ヶ森植物群落保護林（プロット2）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	24	26	255	275	41.83	46.85	42.4	43.4
2	ミスナラ	1	1	10	10	0.91	0.99	34.0	35.5
計2種(枯損木を除く)		25	27	265	285	42.74	47.84	42.1	44.0

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は2本増加し、胸高断面積合計は42.74m²ha⁻¹から47.84m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は42.1cmから44.0cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 毒ヶ森植物群落保護林（プロット2）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

毒ヶ森植物群落保護林(プロット2)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月23日	9月23日	
オオカメノキ	3	3	
コシアブラ	2	1	
タムシバ	1	1	
ハウチワカエデ	+	1	
オオバクロモジ	+	+	
ホオノキ	+	+	
アオダモ	+	未確認	▼
7種	7種	6種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 1

毒ヶ森植物群落保護林(プロット2)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月23日	9月23日	
チシマザサ	4	3	
ミネカエデ	2	2	
ツルアリドオシ	2	1	
イワガラミ	1	1	
シノブカグマ	1	1	
ツルシキミ	1	1	
ヒメアオキ	1	1	
ミヤマカンスゲ	1	1	
ヒトツバカエデ	+	1	
ホツツジ	+	1	
アクシバ	+	+	
ウリハダカエデ	+	+	
ウワミズザクラ	+	+	
クモキリソウ	+	+	
コミネカエデ	+	+	
タチシオデ	+	+	
タムシバ	+	+	
ツタウルシ	+	+	
ナナカマド	+	+	
ハリウツギ	+	+	
ハナヒリノキ	+	+	
ヒメモチ	+	+	
ヤマウルシ	+	+	
ヤマソテツ	+	+	
コハウチワカエデ	+	未確認	▼
フタバアオイ	+	未確認	▼
ヤマツツジ	+	未確認	▼
ユキザサ	+	未確認	▼
コシアブラ	未確認	+	△
ハイイヌツゲ	未確認	+	△
リョウブ	未確認	+	△
31種	28種	27種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 3

顕著な減少（▼） 4

■評価

低木層は1種が未確認であった。

草本層は4種が未確認、3種が新たに確認された。

基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

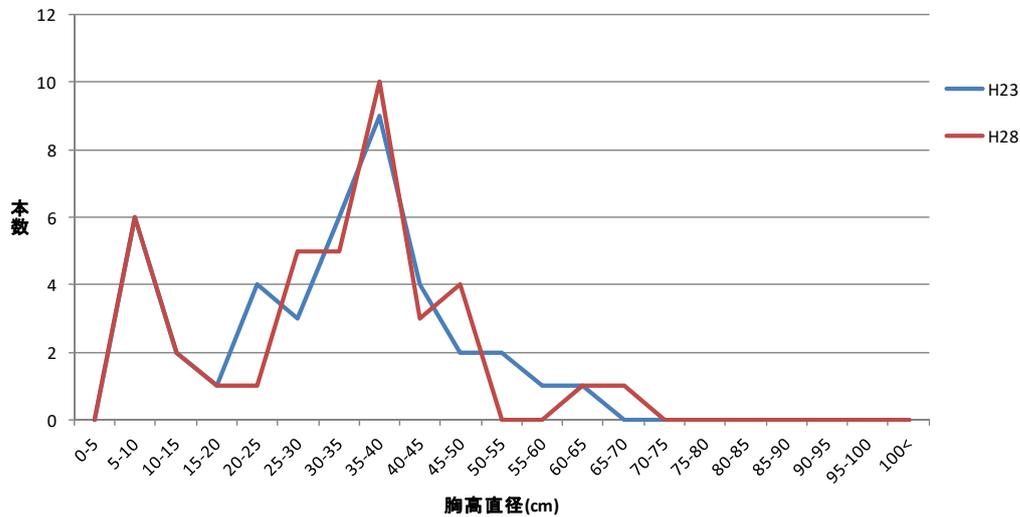
保護林名	毒ヶ森植物群落保護林		
整理番号	植物-17		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年9月24日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	543は	斜面方位	N44W
標高	844m	傾斜角度	32度
緯度経度	北緯 39度27分26.2秒		東経 140度54分53.8秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.5 出羽沢沿いの林道の大ヘンジョウ沢付近に駐車。駐車位置付近から大ヘンジョウ沢へと降り、沢の分岐付近から南側の尾根へと登る。駐車位置から標準地まで約1.7km、徒歩1時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ 胸高直径 30cm~60cm 樹高 14m~19m			
○亜高木層: ヒトツバカエデ、アオダモ 胸高直径 10~20cm 樹高 9m~11m			
○低木層: アオダモ、コシアブラ 樹高 1m~3m			
○草本層: チマキザサ、ミヤマカンスゲ、オオカメノキ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕 ヤマドリ目視 ホンドテンの糞			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 毒ヶ森植物群落保護林（プロット5）



○北上川中流森林計画区 毒ヶ森植物群落保護林（プロット5）

《毎木調査結果比較》



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	29	28	305	295	35.10	34.73	36.2	36.7
2	ミズナラ	3	2	30	20	2.39	1.81	31.0	33.6
3	アオダモ	2	2	35	35	0.60	0.63	13.6	13.8
4	シナノキ	1	0	25		0.40		14.3	
5	アカイタヤ	1	1	25	25	0.36	0.38	13.5	13.9
6	ヒツバカエデ	1	1	10	10	0.26	0.27	18.3	18.5
7	シロヤシオ	2	2	50	50	0.21	0.21	7.1	7.2
8	アズキナシ	1	1	25	25	0.07	0.07	6.1	6.1
9	リウツギ	1	1	25	25	0.06	0.06	5.3	5.3
10	ホオノキ	0	1		25		0.31		12.5
計10種(枯損木を除く)		41	39	530	510	39.46	38.46	26.3	26.4

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は2本減少し、胸高断面積合計は39.46m²ha⁻¹から38.46m²ha⁻¹に減少、平均胸高直径は26.3cmから26.4cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 毒ヶ森植物群落保護林（プロット5）

≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

毒ヶ森植物群落保護林(プロット5)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月24日	9月24日	
アオダモ	2	2	
コシアブラ	1	1	
オオバクロモジ	+	+	
ハウチワカエデ	+	+	
ホツツジ	+	+	
ミネカエデ	+	+	
ムラサキヤシオ	+	+	
ミヤマガマズミ	+	未確認	▼
8種	8種	7種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 1

毒ヶ森植物群落保護林(プロット5)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月24日	9月24日	
チマキザサ	4	4	
ミヤマカンスゲ	3	3	
オオカメノキ	2	2	
ショウジョウバカマ	1	1	
ヒメアオキ	1	1	
ミネカエデ	1	+	
アクシバ	+	+	
アズキナシ	+	+	
オオバクロモジ	+	+	
シシガシラ	+	+	
シノブカグマ	+	+	
ツルシキミ	+	+	
ハウチワカエデ	+	+	
ホツツジ	+	+	
ヤマソテツ	+	+	
リョウブ	+	+	
イワガラミ	+	未確認	▼
ウリハダカエデ	+	未確認	▼
コシアブラ	+	未確認	▼
セリバオウレン	+	未確認	▼
ノリウツギ	+	未確認	▼
ブナ	+	未確認	▼
マイヅルソウ	+	未確認	▼
オオイワウチワ	未確認	+	△
ツバメオモト	未確認	+	△
ハイイヌツゲ	未確認	+	△
ミヤマイチシダ	未確認	+	△
27種	23種	20種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 4

顕著な減少（▼） 7

■評価

低木層は1種が未確認であった。

草本層は7種が未確認、4種が新たに確認された。

○北上川中流森林計画区 毒ヶ森植物群落保護林

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

毒ヶ森植物群落保護林 植物目録

No	科名	種名	調査地点			環境省 RL	岩手県 RDB
			No1	No2	No5		
1	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ			○		
2		ホソバトウゲシバ	○	○			
3	キジノオシダ科	ヤマソテツ	○	○	○		
4	シシガシラ科	シシガシラ	○		○		
5	オシダ科	シノブカグマ	○	○	○		
6		ミヤマイタチシダ	○		○		
7	イヌガヤ科	ハイヌガヤ	○				
8	カバノキ科	ツノハシバミ	○				
9	ブナ科	ブナ	○		○		
10		ミズナラ			○		
11	モクレン科	ホオノキ		○			
12		タムシバ	○	○	○		
13	クスノキ科	オオバクロモジ	○	○	○		
14	キンポウゲ科	セリバオウレン			○		
15	シラネアオイ科	シラネアオイ			○		
16	マンサク科	マルバマンサク	○				
17	ユキノシタ科	ノリウツギ	○	○	○		
18		ツルアジサイ	○				
19		イワガラミ	○	○	○		
20	バラ科	ウワミズザクラ	○	○			
21		アズキナシ	○		○		
22		ナナカマド	○	○			
23		ウラジロノキ	○				
24	ミカン科	ツルシキミ	○	○	○		
25	ウルシ科	ツタウルシ	○	○	○		
26		ヤマウルシ	○	○			
27	カエデ科	ヒトツバカエデ	○	○	○		
28		ハウチワカエデ	○	○	○		
29		コミネカエデ	○	○	○		
30		ヤマモミジ	○	○			
31		ウリハダカエデ	○	○	○		
32		コハウチワカエデ	○				
33		ミネカエデ	○	○	○		
34	モチノキ科	ハイヌツゲ	○	○	○		
35		ヒメモチ	○	○	○		
36		アオハダ	○				
37		アカミノイヌツゲ		○			
38	ミズキ科	ヒメアオキ	○	○	○		
39	ウコギ科	コシアブラ	○	○	○		
40	イワウメ科	オオイワウチワ	○		○		
41	リョウブ科	リョウブ	○	○	○		
42	ツツジ科	サラサドウダン			○		
43		ハナヒリノキ		○	○		
44		ムラサキヤシオ	○	○	○		
45		ホツツジ	○	○	○		
46		アキシバ	○	○	○		
47	エゴノキ科	ハクウンボク	○				
48	モクセイ科	アオダモ	○		○		
49	アカネ科	ツルアリドオシ	○	○			
50	スイカズラ科	ウゴツクバネウツギ		○	○		
51		オオカメノキ	○	○	○		
52		ミヤマガマズミ	○		○		
53	ユリ科	ツバメオモト			○		
54		シヨウジョウバカマ			○		
55		ツクバネソウ			○		
56		ユキザサ		○	○		
57		タチシオデ		○			
58		タケシマラン			○		
59	イネ科	チシマザサ	○	○			
60		チマキザサ			○		
61	カヤツリグサ科	ミヤマカンスゲ	○	○	○		
62	ラン科	アケボノシユスラン			○		
63		クモキリソウ		○			
計	31科	63種	45種	37種	44種	0種	0種

毒ヶ森植物群落保護林

項目	確認項目	評価	評価内容	総合評価（案）
森林調査	毎木調査の変化	○	調査本数の増減が見られたが、林相や種組成に大きな変化は見られず、現状が維持されている。	A
	気象害	○	特になし。	
	病虫害	○	特になし。	
	獣害	○	特になし。	
湿原等	下層植生の変化	○	出現種の増減は見られたが、現状が維持されている。	
	湿原の状況	—	モニタリングブロット近傍での湿原は確認されていない。	
保護対象群落の生育状況	保護対象群落の生育状況	○	ブナ林を中心とした植物群落が維持されている。	
	対策の必要性	—	特になし。	

総合評価（案） A：問題なし B：要観察（顕在化した問題はないが、予兆が見られた） C：問題あり（問題が確認され、対策や経過観察が必要な状況）
 各項目評価 ○：特に大きな変化は見られなかった。または、大きな問題が見られなかった。 ▲：管理委員会で要確認。

焼石岳植物群落保護林

(焼石岳生物群集保護林)

現地調査計画及び総括整理表

保護林名	焼石岳植物群落保護林
整理番号	植物-18
森林管理局名	東北森林管理局



①現地調査計画

調査項目	森林調査	動物調査	利用動態調査
保護林の概況 [目的等]	焼石岳周辺の多様な植物群落を一体のものとして保存するとともに、奥羽山脈縦断自然樹林帯の核として森林生態系の効果的な保全に資するため。		
調査箇所 ルート	・調査プロット: 前回(第1回モニタリング)の調査地点2箇所を実施 ・ルート: 別図参照 ・所要時間: 駐車位置より約2時間~3時間	/	/
調査時期・回数	平成28年9月・1回		
調査項目	毎木調査・植生調査		
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・0.1haの円形調査プロットを設定し、小円部(0.01ha)、中円部(0.03ha)、大円部(0.06ha)とする。 ・胸高直径、樹高(可能な限り第1回目モニタリングにおける計測木)を計測する。 ・調査プロット内に出現する種組成の概要を把握し過年度調査結果と比較する。 		

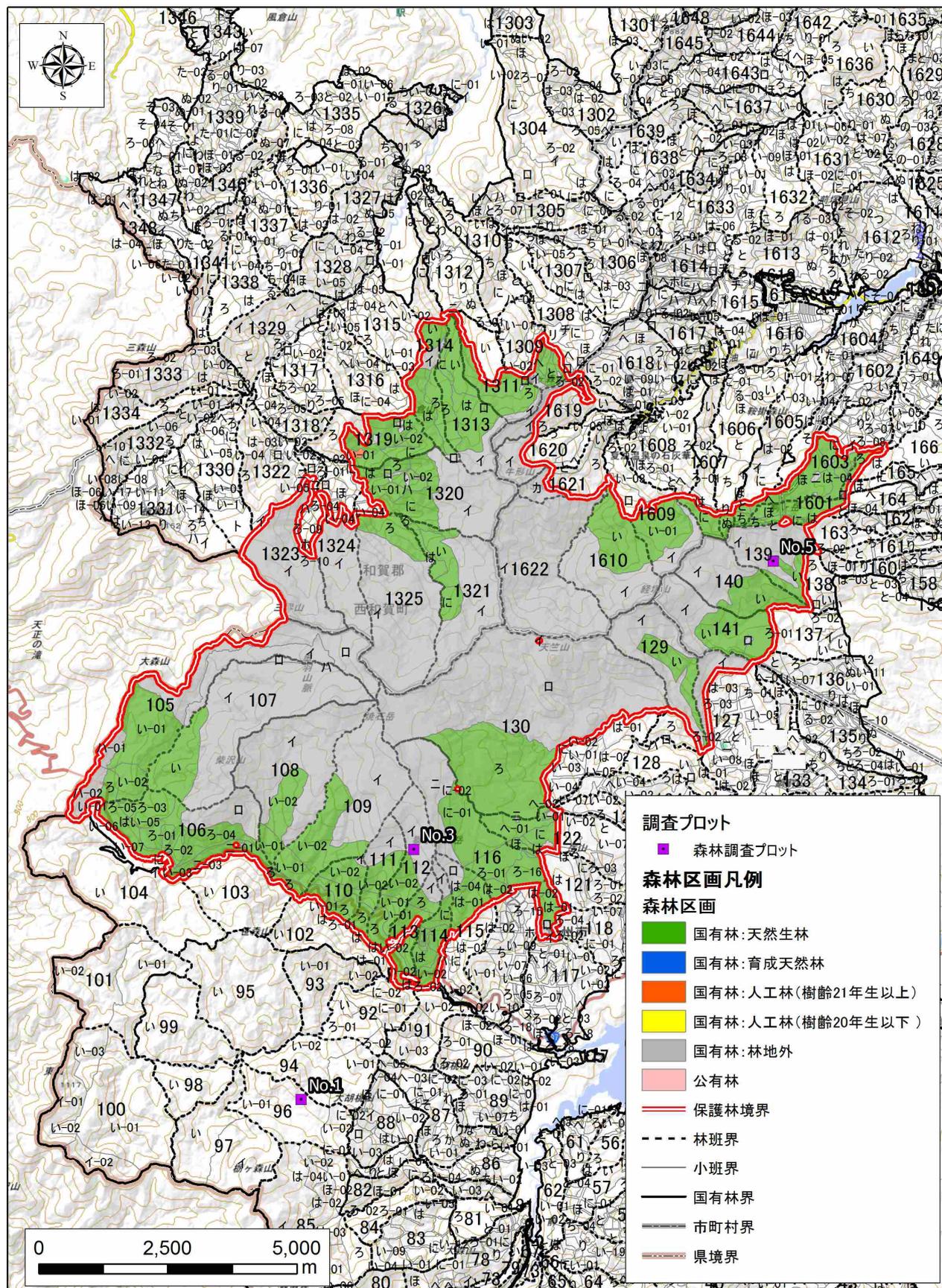
②総括整理表

調査項目	基礎調査	森林調査(特記事項: ○=良好、▲=注意、×=危険)	動物調査	利用動態調査
平成28年度 結果概要	<p>当保護林は、岩手県奥州市、胆沢郡、和賀郡、北上市にまたがって位置する広大な天然生林である。</p> <p>当保護林内の植生は、高山帯では「ハイマツ-コケモモ型」、亜高山帯では「ミヤマナラ-チシマザサ型」、山地帯では「ブナ-チシマザサ型」が主体となって構成されている。また、稜線沿いにはキタゴヨウ林が見られ、ヒメカイウが生育する中間湿原も見られる。</p> <p>当保護林は、奥羽山脈緑の回廊と接続している。</p> <p>法令規則等: 栗駒国定公園特別地域、第1種・第2種・第3種特別地域、鳥獣保護区普通地区、県史跡名勝天然記念物(一部)</p>	<p>調査プロットNo.3 高木層は形成されず、胸高直径5-10cmのブナ、ミネカエデ、ミヤマナラの低木林となっており、草本層にはコシアブラ、シノブカグマ、ツバメオモト、ツルシキミ等が生育し、合計38種の植物が確認された。</p> <p>調査プロットNo.5 胸高直径30-50cmのブナ、ウダイカンバによって林冠が構成されており、亜高木層には直径10-20cm程度のブナ、ハウチワカエデ、コシアブラが生育していた。低木層にはチシマザサ、リョウブ、アオダモ等が生育し、草本層にはシシガシラ、ブナ、アオダモ、エゾユズリハ等が生育し、合計51種の植物が確認された。</p> <p>○気象害や病虫獣害は確認されなかった。</p>	/	/
第1回モニタリング (平成23年度) との結果比較	特に変化なし。	特に変化は見られず、病虫獣害等も確認されなかった。		
評価(案)	保護林設定目的である焼石岳周辺の多様な植物群落を一体として保存するための森林が維持されている。			

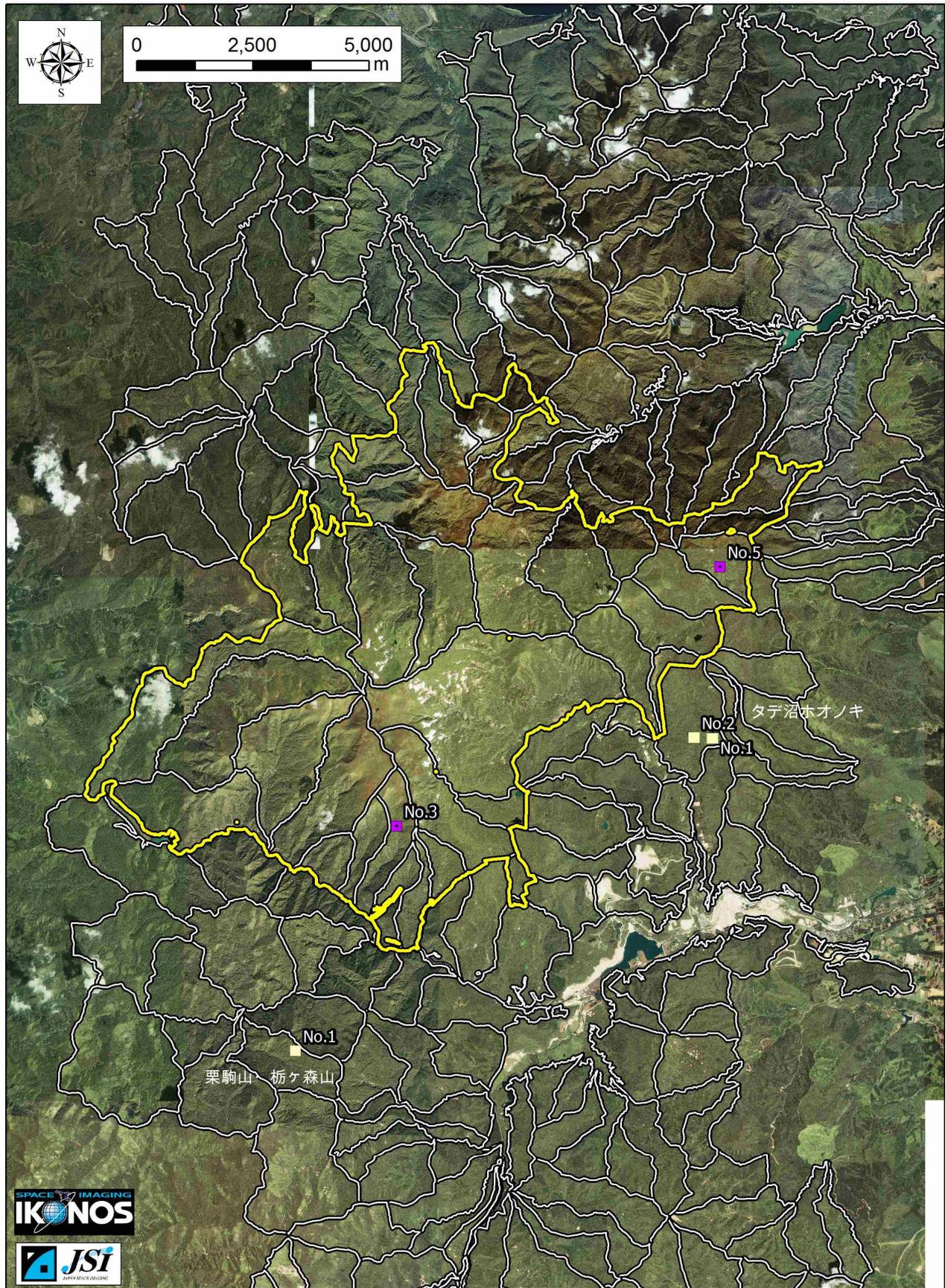
基礎調査整理表 2 b. 保護林情報図整理表
 (森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林以外の保護林用)

保護林名		焼石岳植物群落保護林				
整理番号		植物-18				
森林管理局名		東北森林管理局				
保護林と保護林周辺(保護林の中心から2km内にかかる小班)の森林区分別面積 (保護林周辺については、保護林面積1,000ha未満のものについて記入する)						
地区 森林区分	保護林内		保護林周辺国有林		保護林周辺民有地(概略) (必要に応じ可能であれば記入する)	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
天然生林	3546.13ha	40.4%				
育成天然林	1.42ha	0.0%				
人工林1	4.51ha	0.1%				
人工林2	0.00ha	0.0%				
林地外	5216.16ha	59.5%				
合計	8768.22ha	100.0%				
周辺民有地を区分した場合、その方法の概略		国有林GIS				
保護林と周辺国有林の森林区分別配置の概要 (当該保護林と他の天然生林との接続状況を含めて記入する。)						
<p>当保護林は岩手県奥州市、北上市、和賀郡西和賀町、胆沢郡金ヶ崎町にまたがって位置する天然生林を主とする林分である。保護林北西部の三界山、焼石岳、経塚岳、駒ヶ岳、牛形山周辺には林地外が配置され、その他ブナ林やカラマツ林、スギ林が多く配置されている。</p>						
周辺民有地の森林・土地利用の配置の概況(保護林の中心から2km内に民有地がある場合必ず記入する。公有林があると確認された位置図面等が入手できた場合は、その配置状況を必ず記入する。)						
<p>周辺民有地には主に人工林や畑地等として利用されている。</p>						
その他特記事項(緑の回廊との接続の有無を含めて記入する。)						
<p>当保護林は栗駒国定公園に位置し、奥羽山脈緑の回廊と接続している。</p>						
作成の基とした図面や収集した空中写真		国有林 GIS、IKONOS衛星画像				

焼石岳植物群落保護林



焼石岳植物群落保護林



基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

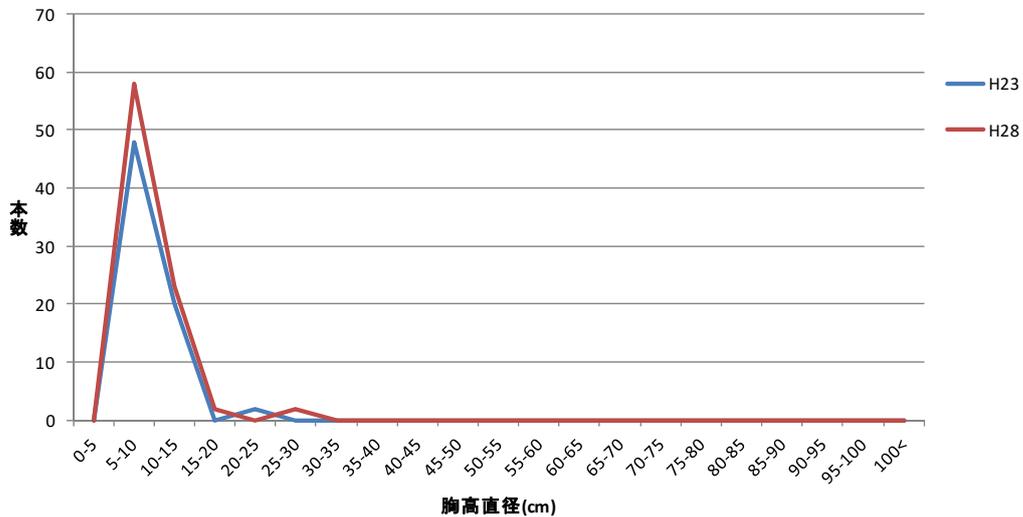
保護林名	焼石岳植物群落保護林		
整理番号	植物-18		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年9月26日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	112イ	斜面方位	SW
標高	1124m	傾斜角度	13度
緯度経度	北緯 39度08分15.7秒		東経 140度50分12.7秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹凹斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.3 焼石連峰ビーチライン風生沢出合い付近に駐車。駐車位置付近から尾根を登る。駐車位置から標準地まで約1.8km、徒歩2.5時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: 形成されない			
○亜高木層: ブナ、ミネカエデ、ミヤマナラ 胸高直径 5~15cm 樹高 6m~11m			
○低木層: ミネカエデ、オオカメノキ 樹高 1m~3m			
○草本層: ミズバショウ、シラネワラビ、ヤマソテツ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕 ニホンカモシカの糞 ホンドテンの糞			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 焼石岳植物群落保護林（プロット3）



○北上川中流森林計画区 焼石岳植物群落保護林（プロット3）

《毎木調査結果比較》



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	36	40	870	970	7.94	9.52	10.3	10.7
2	ミネカエデ	15	18	375	450	1.56	2.21	7.2	7.7
3	ナナカマド	9	17	225	425	1.21	2.11	8.1	7.7
4	ミヤマナラ	2	2	50	50	0.33	0.32	9.0	8.9
5	マルバマンサク	3	3	75	75	0.33	0.31	7.4	7.3
6	オオカメノキ	3	3	75	75	0.29	0.33	6.9	7.4
7	ハウチワカエデ	2	2	50	50	0.26	0.22	8.1	7.6
計7種(枯損木を除く)		70	85	1720	2095	11.91	15.03	9.0	9.1

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は15本増加し、胸高断面積合計は11.91m²ha⁻¹から15.03m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は9.0cmから9.1cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 焼石岳植物群落保護林（プロット3）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

焼石岳植物群落保護林(プロット3)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月30日	9月25日	
チシマザサ	5	4	
ミネカエデ	1	2	
オオカメノキ	1	1	
ウワミズザクラ	+	未確認	▼
コメツガ	+	未確認	▼
イワガラミ	+	未確認	▼
マルバマンサク	未確認	+	△
7種	6種	4種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 1

顕著な減少（▼） 3

焼石岳植物群落保護林(プロット3)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月30日	9月25日	
イワガラミ	+	+	
オオカメノキ	+	+	
コシアブラ	+	+	
コメツガ	+	+	
ゴヨウイチゴ	+	+	
シノブカグマ	+	+	
タチシオデ	+	+	
ツバメオモト	+	+	
ツルシキミ	+	+	
ツルリンドウ	+	+	
ナナカマド	+	+	
ハリブキ	+	+	
ヒメモチ	+	+	
ヒョウノセンカタバミ	+	+	
ブナ	+	+	
ホオノキ	+	+	
コヨウラクツツジ	+	+	
ミズバショウ	未確認	3	△
ハイイヌツゲ	未確認	2	△
シラネワラビ	未確認	1	△
セリ	未確認	1	△
ヤマソテツ	未確認	1	△
オクエゾサイシン	未確認	+	△
ショウジョウバカマ	未確認	+	△
タニギキョウ	未確認	+	△
チゴユリ	未確認	+	△
チシマザサ	未確認	+	△
ツクバネソウ	未確認	+	△
ツルアリドオシ	未確認	+	△
マイヅルソウ	未確認	+	△
マルバマンサク	未確認	+	△
ミツバオウレン	未確認	+	△
ミネカエデ	未確認	+	△
33種	17種	33種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 16

顕著な減少（▼） 0

■評価

低木層は 3 種が未確認、1 種が新たに確認された。

草本層は 16 種が新たに確認された。

基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

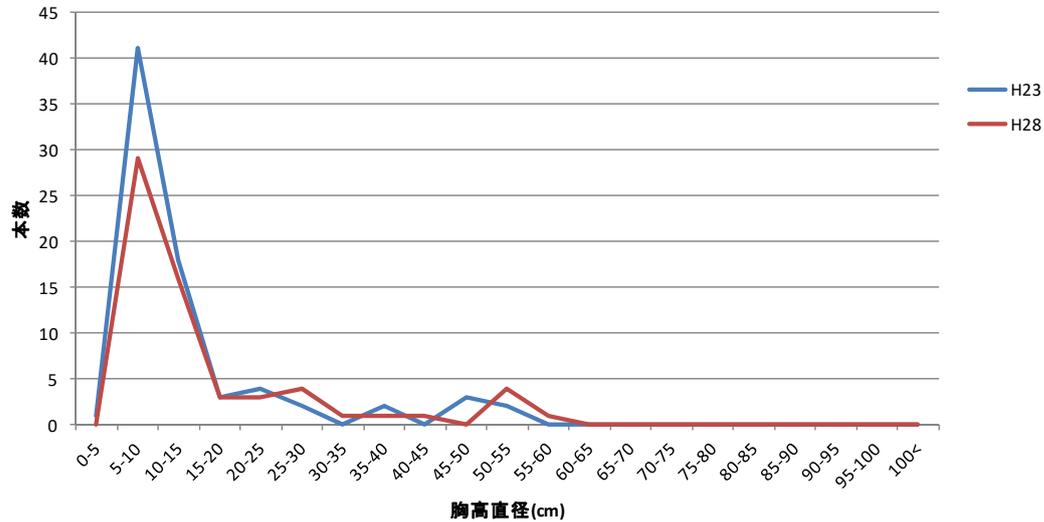
保護林名	焼石岳植物群落保護林		
整理番号	植物-18		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年9月27日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	139イ	斜面方位	SW
標高	859m	傾斜角度	23度
緯度経度	北緯 39度11分18.4秒		東経 140度55分03.1秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹凸斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.5 キッツ沢付近の林道に駐車。駐車位置付近から林内に入り、廃道を進む。途中、キッツ沢へ降り、500m程進んだ地点から尾根を登る。駐車位置から標準地まで約2km、徒歩2時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ、ウダイカンバ 胸高直径 30cm~50cm 樹高 14m~20m			
○亜高木層: ブナ、ハウチワカエデ、コシアブラ 胸高直径 7cm~15cm 樹高 7m~11m			
○低木層: リョウブ、ミネカエデ、ウリハダカエデ、アオダモ 樹高 1m~3m			
○草本層: チシマザサ、ミヤマカンスゲ、シシガシラ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕 ホンドテンの糞			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 焼石岳植物群落保護林（プロット5）



○北上川中流森林計画区 焼石岳植物群落保護林（プロット5）

《毎木調査結果比較》



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	18	18	300	300	14.96	16.75	19.3	20.3
2	コシアブラ	23	16	575	400	4.89	4.37	10.0	11.4
3	ハウチワカエデ	17	15	425	375	2.27	2.02	8.1	8.1
4	ウタヰカンハ	4	4	40	40	1.75	2.06	23.4	25.4
5	ウリハダカエデ	3	2	75	50	0.61	0.51	9.5	10.5
6	ホオノキ	1	1	10	10	0.47	0.53	24.5	25.9
7	アオダモ	3	3	75	75	0.27	0.29	6.7	7.0
8	ナナカマド	1	1	25	25	0.26	0.26	11.4	11.4
9	タムシバ	2	2	50	50	0.16	0.16	6.4	6.3
10	ウワミズサクラ	1	0	25		0.15		8.6	
11	エゾイタヤ	1	1	25	25	0.09	0.10	6.7	7.2
12	マルバマンサク	1	0	25		0.05		5.0	
計12種(枯損木を除く)		75	63	1650	1350	25.91	27.05	11.3	12.4

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は12本減少し、胸高断面積合計は25.91m²ha⁻¹から27.05m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は11.3cmから12.4cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 焼石岳植物群落保護林（プロット5）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

焼石岳植物群落保護林(プロット5)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月29日	9月26日	
チシマザサ	3	3	
リョウブ	2	2	
アオダモ	1	1	
ウリハダカエデ	1	1	
オオカメノキ	1	1	
ミネカエデ	1	1	
エゾツリバナ	+	+	
オオバクロモジ	+	+	
ナナカマド	+	+	
ハウチワカエデ	+	+	
ブナ	+	+	
マルバマンサク	+	+	
12種	12種	12種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

焼石岳植物群落保護林(プロット5)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月29日	9月26日	
シシガシラ	1	1	
アオダモ	+	1	
ブナ	+	1	
アキノキリンソウ	+	+	
アクシバ	+	+	
ウゴツクバネウツギ	+	+	
ウリハダカエデ	+	+	
ウワミズザクラ	+	+	
エゾユズリハ	+	+	
オオバクロモジ	+	+	
カラスシキミ	+	+	
サラサドウダン	+	+	
タケシマラン	+	+	
チゴユリ	+	+	
ツクバネソウ	+	+	
ツルアリドオン	+	+	
ツルシキミ	+	+	
トウゲシバ	+	+	
ナナカマド	+	+	
ノリウツギ	+	+	
ハイイヌガヤ	+	+	
ヒメモチ	+	+	
マルバマンサク	+	+	
ムラサキヤシオ	+	+	
ヤマウルシ	+	+	
ヤマツツジ	+	+	
ユキザサ	+	+	
リョウブ	+	+	
ミヤマカンスゲ	未確認	1	△
エゾイタヤ	未確認	+	△
オオカメノキ	未確認	+	△
クロツル	未確認	+	△
ヒトツバカエデ	未確認	+	△
ミネカエデ	未確認	+	△
33種	27種	33種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 6

顕著な減少（▼） 0

■評価 低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は6種が新たに確認された。

○北上川中流森林計画区 焼石岳植物群落保護林

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

焼石岳植物群落保護林 植物目録

No	科名	種名	調査地点		環境省 RL	岩手県 RDB
			No3	No5		
1	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ		○		
2	キジノオシダ科	ヤマソテツ	○	○		
3	シンガシラ科	シンガシラ		○		
4	オシダ科	シノブカグマ	○	○		
5		シラネワラビ	○			
6	マツ科	コメツガ	○			
7	イヌガヤ科	ハイイヌガヤ		○		
8	カバノキ科	ツノハシバミ		○		
9	ブナ科	ブナ	○	○		
10		ミズナラ		○		
11	モクレン科	ホオノキ	○	○		
12	クスノキ科	オオバクロモジ		○		
13	キンボウゲ科	ミツバオウレン	○			
14	ウマノスズクサ科	オクエゾサイシン	○			
15	マンサク科	マルバマンサク	○	○		
16	ユキノシタ科	ノリウツギ		○		
17		イワガラミ	○	○		
18	バラ科	ウワミズザクラ		○		
19		ゴヨウイチゴ	○			
20		ナナカマド	○	○		
21	カタバミ科	ヒヨウノセンカタバミ	○			
22	ユズリハ科	エゾユズリハ		○		
23	ミカン科	ツルシキミ	○	○		
24	ウルシ科	ツタウルシ		○		
25		ヤマウルシ		○		
26	カエデ科	ヒトツバカエデ		○		
27		ハウチワカエデ		○		
28		エゾイタヤ		○		
29		ウリハダカエデ		○		
30		ミネカエデ	○	○		
31	モチノキ科	ハイイヌツゲ	○			
32		ヒメモチ	○	○		
33	ニシキギ科	エゾツリバナ		○		
34		クロツル		○		
35	ジンチョウゲ科	カラスシキミ		○		
36	ウコギ科	コシアブラ	○			
37		ハリブキ	○			
38	セリ科	セリ	○			
39	イワウメ科	イワカガミ	○			
40	リョウブ科	リョウブ	○	○		
41	ツツジ科	サラサドウダン		○		
42		ハナヒリノキ	○			
43		コヨウラクツツジ	○	○		
44		ムラサキヤシオ	○	○		
45		ハクサンシャクナゲ	○			
46		ヤマツツジ		○		
47		ホツツジ		○		
48		アクシバ		○		
49	モクセイ科	アオダモ		○		
50	リンドウ科	ツルリンドウ	○	○		
51	アカネ科	ツルアリドオン	○	○		
52	スイカズラ科	ウゴツクバネウツギ		○		
53		オオカメノキ	○	○		
54		ミヤマガマズミ		○		
55		タニウツギ		○		
56	キキョウ科	タニギキョウ	○			
57	キク科	オクモミジハグマ		○		
58		アキノキリンソウ		○		
59	ユリ科	ツバメオモト	○			
60		チゴユリ	○	○		
61		ショウジョウバカマ	○	○		
62		マイヅルソウ	○			
63		ツクバネソウ	○	○		
64		ユキザサ		○		
65		タチシオデ	○			
66		タケシマラン		○		
67	イネ科	チシマザサ	○	○		
68	サトイモ科	ミズバショウ	○	○		
69	カヤツリグサ科	ミヤマカンスゲ		○		
計	38科	69種	38種	51種	0種	0種

焼石岳植物群落保護林

項目	確認項目	評価	評価内容	総合評価 (案)
森林調査	毎木調査の変化	○	調査本数の増減が見られたが、林相や種組成に大きな変化は見られず、現状が維持されている。	A
	気象害	○	特になし。	
	病虫害	○	特になし。	
	獣害	○	特になし。	
湿原等	下層植生の変化	○	出現種の増減は見られたが、現状が維持されている。	
	湿原の状況	○	モニタリングプロット No.3 近傍の湿原にて写真撮影と概況を記録した。池塘が配置され周辺には湿性草本が生育しており、湿原が維持されていた。	
保護対象群落の生育状況	保護対象群落の生育状況	○	低木林やブナを中心とした植物群落が維持されている。	
	対策の必要性	—	特になし。	

総合評価 (案) A: 問題なし B: 要観察 (顕在化した問題はないが、予兆が見られた) C: 問題あり (問題が確認され、対策や経過観察が必要な状況)
 各項目評価 ○: 特に大きな変化は見られなかった。または、大きな問題が見られなかった。 ▲: 管理委員会で要確認。

和賀岳植物群落保護林

(和賀岳生物群集保護林)

現地調査計画及び総括整理表

保護林名	和賀岳植物群落保護林
整理番号	植物-20
森林管理局名	東北森林管理局



①現地調査計画

調査項目	森林調査	動物調査	利用動態調査
保護林の概況 [目的等]	和賀岳周辺の高山帯から山地帯にまたがる多様な植物群落を一体のものとして保存するとともに、奥羽山脈縦断自然樹林帯の核として森林生態系の効果的な保全に資するため。		
調査箇所 ルート	<ul style="list-style-type: none"> ・調査プロット: 前回(第1回モニタリング)の調査地点3箇所で実施 ・ルート: 別図参照 ・所要時間: 駐車位置より約2時間~4時間 		
調査時期・回数	平成28年9月~10月・1回		
調査項目	毎木調査・植生調査		
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・0.1haの円形調査プロットを設定し、小円部(0.01ha)、中円部(0.03ha)、大円部(0.06ha)とする。 ・胸高直径、樹高(可能な限り第1回目モニタリングにおける計測木)を計測する。 ・調査プロット内に出現する種組成の概要を把握し過年度調査結果と比較する。 		

②総括整理表

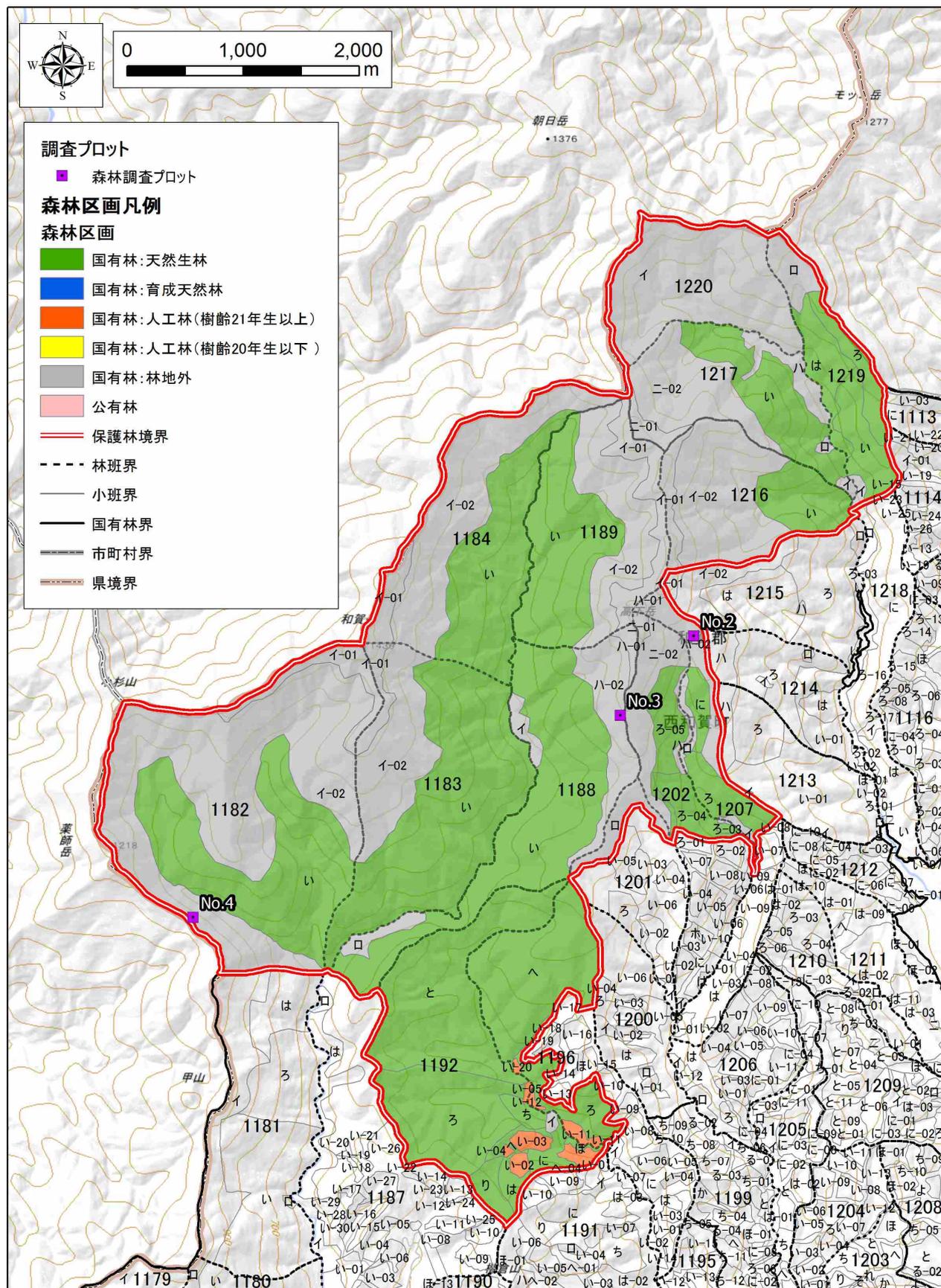
調査項目	基礎調査	森林調査(特記事項:○=良好、▲=注意、×=危険)	動物調査	利用動態調査
平成28年度 結果概要	<p>当保護林は、岩手県和賀郡、秋田県仙北市、大仙市にまたがって位置する広大な天然生林である。 当保護林内の植生は、高山帯では「ハイマツ-チシマザサ型」、亜高山帯では「ブナ-ダケカンバ型」、山地帯では「ブナ-チシマザサ型」が主体となって構成されている。</p> <p>当保護林は、奥羽山脈緑の回廊と接続している。</p> <p>法令規則等: 鳥獣保護区特別地区(一部)、自然環境保全地域特別地区(一部)、鳥獣保護区普通地区</p>	<p><u>調査プロットNo.2</u> 胸高直径20-30cmのブナによって林冠が構成されており、亜高木層には直径10cm程度のブナ、ナナカマド、ハウチワカエデが生育していた。低木層にはチシマザサ、ハウチワカエデ、タムシバ等が生育し、草本層にはオオイワウチワ、ミヤマカンスゲ、シノブカグマ等が生育し、合計32種の植物が確認された。</p> <p><u>調査プロットNo.3</u> 胸高直径30-40cmのブナによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20cm程度のブナ、ハウチワカエデが生育していた。低木層にはチシマザサが優占し、ハウチワカエデ、オオカメノキ等が生育しており、草本層にはミヤマカンスゲ、シラネワラビ、シノブカグマ、等が生育し、合計28種の植物が確認された。</p> <p><u>調査プロットNo.4</u> 胸高直径30-40cmのブナ、シナノキによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20cm程度のブナ、シナノキ、アオダモが生育していた。低木層にはチシマザサが優占し、オオカメノキ、オオツリバナが生育しており、草本層にはミヤマカンスゲ、イワガラミ、シラネワラビ等が生育し、合計39種の植物が確認された。</p> <p>○気象害や病虫獣害は確認されなかった。</p>		
第1回モニタリング (平成23年度) との結果比較	特に変化なし。	特に変化は見られず、病虫獣害等も確認されなかった。		
評価(案)	保護林設定目的である和賀岳周辺の多様な植物群落を一体のものとして保存するための森林が維持されている。			

様式-4

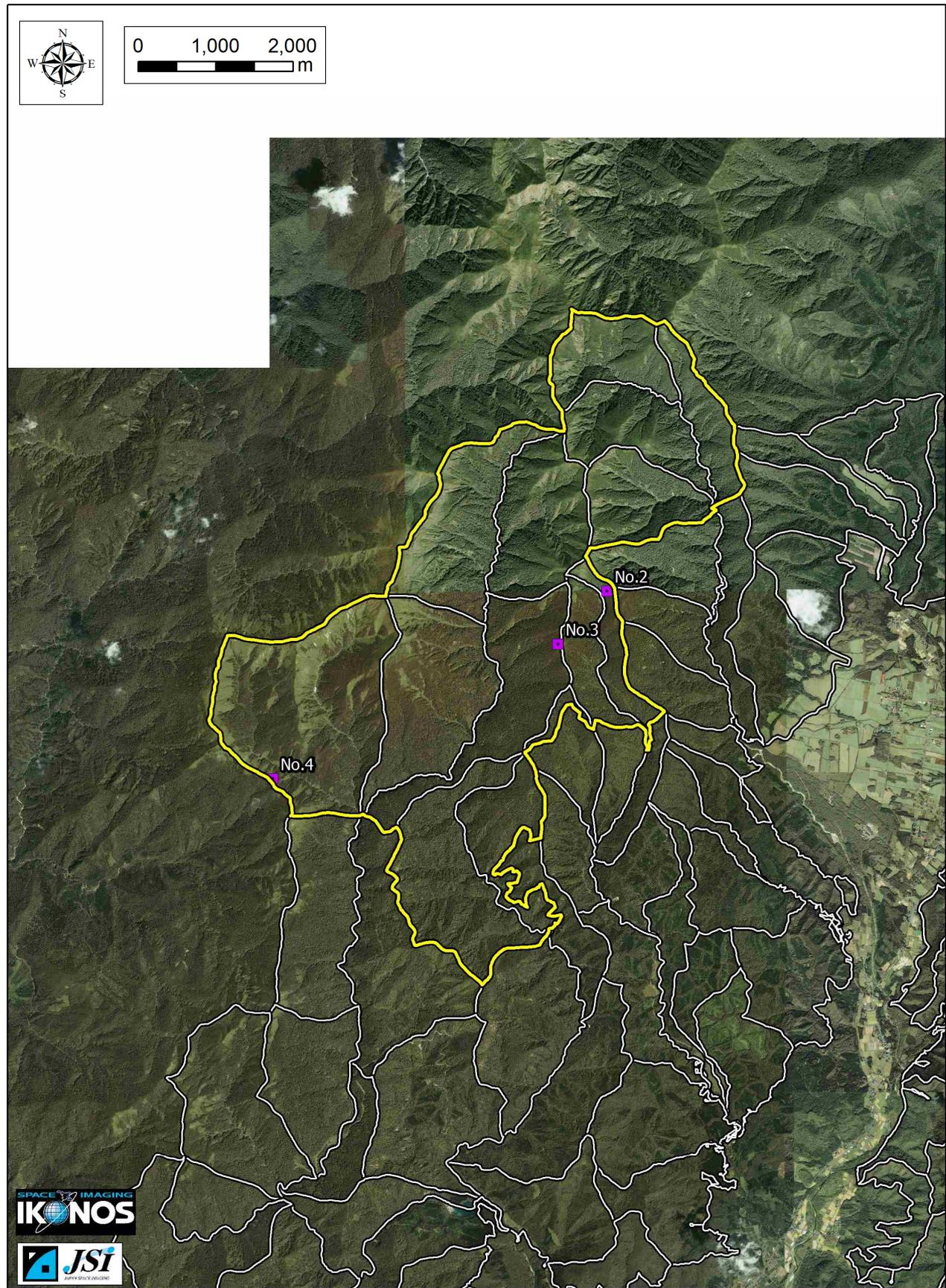
基礎調査整理表 2 b. 保護林情報図整理表
(森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林以外の保護林用)

保護林名		和賀岳植物群落保護林				
整理番号		植物-20				
森林管理局名		東北森林管理局				
保護林と保護林周辺(保護林の中心から2km内にかかる小班)の森林区分別面積 (保護林周辺については、保護林面積1,000ha未満のものについて記入する)						
地区 森林区分	保護林内		保護林周辺国有林		保護林周辺民有地(概略) (必要に応じ可能であれば記入する)	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
天然生林	1394.10ha	54.5%				
育成天然林	0.00ha	0.0%				
人工林1	19.01ha	0.7%				
人工林2	0.00ha	0.0%				
林地外	1142.95ha	44.7%				
合計	2556.06ha	100.0%				
周辺民有地を区分した場合、その方法の概略		国有林GIS				
保護林と周辺国有林の森林区分別配置の概要 (当該保護林と他の天然生林との接続状況を含めて記入する。)						
<p>当保護林は和賀郡和賀町に位置する天然生林を主とする林分である。保護林南部の高下岳、和賀岳、小杉山、薬師岳周辺には林地外が配置され、その他ブナ林やスギ林が多く配置されている。</p>						
<p>周辺民有地の森林・土地利用の配置の概況(保護林の中心から2km内に民有地がある場合必ず記入する。公有林があると確認された位置図面等が入手できた場合は、その配置状況を必ず記入する。)</p>						
<p>周辺民有地には主に人工林や畑地等として利用されている。 当保護林は、岩手南部森林計画区(2556.06ha)及び雄物川森林計画区(6398.66ha)にまたがり配置されている。</p>						
<p>その他特記事項(緑の回廊との接続の有無を含めて記入する。)</p>						
<p>当保護林は自然環境保全地域に指定され、奥羽山脈緑の回廊と接続している。</p>						
作成の基とした図面や収集した空中写真		国有林 GIS、IKONOS衛星画像				

和賀岳植物群落保護林



和賀岳植物群落保護林



基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

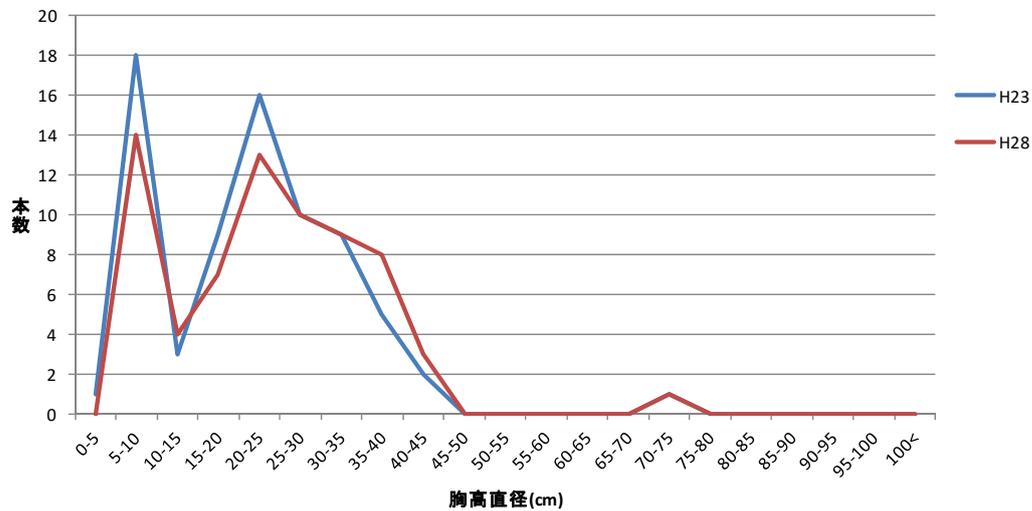
保護林名	和賀岳植物群落保護林		
整理番号	植物-20		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年9月22日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	1207ハ2	斜面方位	N22E
標高	1144m	傾斜角度	25度
緯度経度	北緯 39度34分16.0秒		東経 140度47分15.1秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.2 高畑登山口に駐車。登山道を進む。駐車位置から標準地まで約3.8km、徒歩1.5時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ 胸高直径 20cm~40cm 樹高 10m~13m			
○亜高木層: ブナ、ハウチワカエデ、ナナカマド 胸高直径 5~20cm 樹高 5m~8m			
○低木層: ハウチワカエデ、オオカメノキ、ナナカマド 樹高 1m~3m			
○草本層: チシマザサ、オオイワウチワ、イブキゼリモドキ、ミヤマカンスゲ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕 ニホンカモシカの糞 ホンドテンの糞			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 和賀岳植物群落保護林（プロット2）



○北上川中流森林計画区 和賀岳植物群落保護林（プロット2）

≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	59	58	770	760	36.15	39.09	21.8	22.8
2	ハウチワカエデ	12	8	300	200	1.16	0.90	6.7	7.2
3	ダケカンバ	1	1	10	10	0.96	1.08	35.0	37.0
4	ナナカマド	1	1	25	25	0.12	0.12	7.7	7.8
5	ミネカエデ	1	1	25	25	0.05	0.05	5.0	5.1
計5種(枯損木を除く)		74	69	1130	1020	38.43	41.23	17.2	19.1

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は5本減少し、胸高断面積合計は38.43m²ha⁻¹から41.23m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は17.2cmから19.1cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 和賀岳植物群落保護林（プロット2）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

和賀岳植物群落保護林(プロット2)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月26日	9月22日	
チシマザサ	4	4	
ハウチワカエデ	3	3	
オオカメノキ	2	2	
ナナカマド	1	1	
タムシバ	+	1	
マルバマンサク	+	+	
ムラサキヤシオ	+	+	
7種	7種	7種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

和賀岳植物群落保護林(プロット2)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月26日	9月22日	
チシマザサ	4	3	
イブキゼリモドキ	2	2	
オオイワウチワ	2	2	
ミヤマカンスゲ	2	2	
オオカメノキ	1	1	
シノブカグマ	1	1	
ショウジョウバカマ	1	1	
ヤマソテツ	1	1	
シシガシラ	+	1	
ハイイヌツゲ	+	1	
マイヅルソウ	+	1	
イワガラミ	+	+	
ウスバサイシン	+	+	
コシアブラ	+	+	
シラネアオイ	+	+	
タケシマラン	+	+	
タムシバ	+	+	
ツクバネソウ	+	+	
ツバメオモト	+	+	
アリウツギ	+	+	
ハクサンシャクナゲ	+	+	
ハナヒリノキ	+	+	
ヒメモチ	+	+	
ブナ	+	+	
ホソバトウゲシバ	+	+	
マンネンズギ	+	+	
ミネカエデ	+	+	
ムラサキヤシオ	+	+	
28種	28種	28種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

■評価

低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は大きな変化は見られなかった。

基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

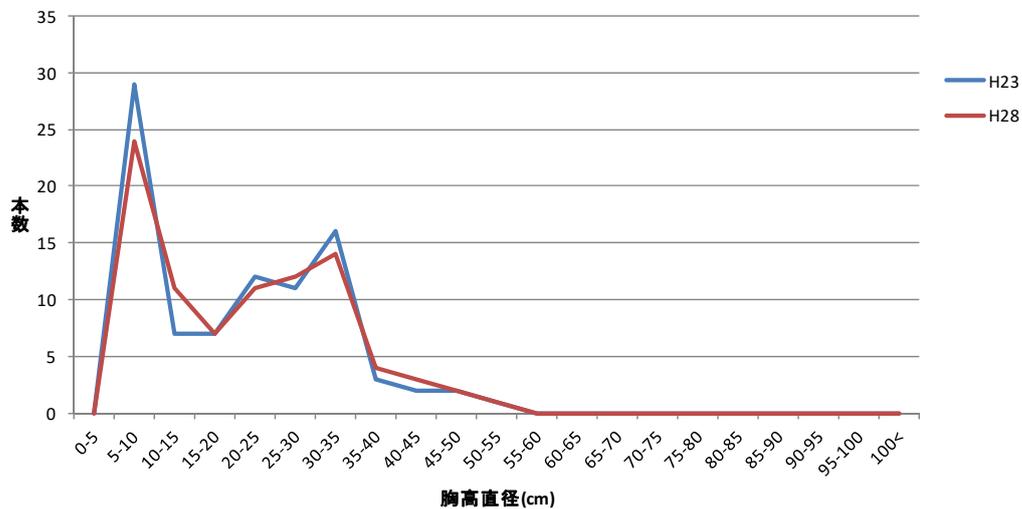
保護林名	和賀岳植物群落保護林		
整理番号	植物-20		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年9月22日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	1188/ハ2	斜面方位	S70W
標高	1182m	傾斜角度	21度
緯度経度	北緯 39度33分53.7秒		東経 140度46分48.7秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.3 高下林道登山口付近に駐車。登山道を進み、高下岳方面へと向かう。駐車位置から標準地まで約3.5km、徒歩2.5時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ 胸高直径 20cm~40cm 樹高 18m~20m			
○亜高木層: ブナ、ハウチワカエデ、ナナカマド 胸高直径 10~20cm 樹高 5m~8m			
○低木層: チシマザサ、ハウチワカエデ、オオカメノキ 樹高 1m~3m			
○草本層: ミヤマカンスゲ、シラネワラビ、シノブカグマ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕 ニホンカモシカの糞 ホンドテンの糞			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 和賀岳植物群落保護林（プロット3）



○北上川中流森林計画区 和賀岳植物群落保護林（プロット3）

《毎木調査結果比較》



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	63	63	1005	1005	33.39	34.87	17.1	17.6
2	シラカンバ	4	4	40	40	4.06	4.18	33.8	34.3
3	シナノキ	6	7	75	70	3.52	3.56	23.6	24.7
4	ハリウツギ	6	5	150	125	0.86	0.74	8.2	8.3
5	ナナカマド	2	2	35	35	0.85	0.86	14.6	14.9
6	アオダモ	2	2	50	50	0.75	0.30	13.2	8.7
7	ハウチワカエデ	5	5	110	110	0.72	0.81	8.4	8.8
8	ミスナラ	1	0	25		0.62		17.8	
9	コハウチワカエデ	1	1	25	25	0.09	0.09	6.6	6.6
計9種(枯損木を除く)		90	89	1515	1460	44.85	45.41	16.0	16.4

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は1本減少し、胸高断面積合計は44.85m²ha⁻¹から45.41m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は16.0cmから16.4cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 和賀岳植物群落保護林（プロット3）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

和賀岳植物群落保護林(プロット3)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月28日	9月22日	
チシマザサ	4	5	
ハウチワカエデ	1	1	
ブナ	1	1	
リウツギ	+	+	
ゴトウヅル	+	未確認	▼
5種	5種	4種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 1

和賀岳植物群落保護林(プロット3)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月28日	9月22日	
ミヤマカンスゲ	3	3	
シラネワラビ	2	2	
イワガラミ	1	1	
オオカメノキ	1	1	
シナノキ	+	+	
シノブカグマ	+	+	
ツクバネソウ	+	+	
ツルシキミ	+	+	
ハイイヌガヤ	+	+	
ハイイヌツゲ	+	+	
ヒトツバテンナンショウ	+	+	
ヒメモチ	+	+	
ミネカエデ	+	+	
ミヤマカタバミ	+	+	
ミヤマノキシノブ	+	+	
ヤマソテツ	+	+	
ヤマモミジ	+	+	
アオダモ	+	未確認	▼
コシアブラ	+	未確認	▼
ツルアジサイ	+	未確認	▼
タニギキョウ	+	未確認	▼
ハウチワカエデ	未確認	1	△
シシガシラ	未確認	+	△
23種	21種	19種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 2

顕著な減少（▼） 4

■評価

低木層は1種が未確認であった。

草本層は4種が未確認、2種が新たに確認された。

基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

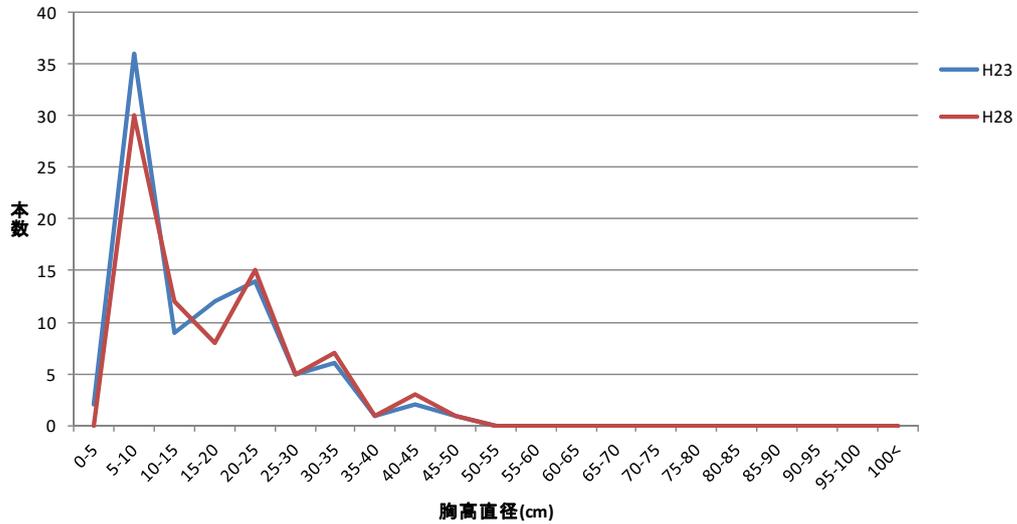
保護林名	和賀岳植物群落保護林		
整理番号	植物-20		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年11月1日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	1182-2	斜面方位	S28W
標高	979m	傾斜角度	32度
緯度経度	北緯 39度32分56.6秒		東経 140度44分14.3秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.4 真木林道登山口付近に駐車。駐車地点から登山道を進む。ブナ台(和賀岳・薬師岳)方面へと登り、薬師分岐を大甲方面へと進む。駐車地点から標準地まで約4.3km、徒歩2.5時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ、シナノキ 胸高直径 20cm~40cm 樹高 8m~12m			
○亜高木層: ブナ、シナノキ、アオダモ 胸高直径 10cm~20cm 樹高 4m~6m			
○低木層: オオカメノキ、オオツリバナ 樹高 1m~3m			
○草本層: チシマザサ、ミヤマカンスゲ、イワガラミ、シラネワラビ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕 ニホンカモシカの糞 ヤマドリ目視			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 和賀岳植物群落保護林（プロット4）



○北上川中流森林計画区 和賀岳植物群落保護林（プロット4）

《毎木調査結果比較》



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	31	28	520	430	14.92	14.66	16.0	17.5
2	シナノキ	29	27	635	585	7.21	7.43	10.1	10.8
3	アオダモ	16	15	355	330	3.83	3.84	10.7	11.0
4	アカイタヤ	3	3	60	60	1.17	1.23	12.2	12.4
5	ダケカンパ	3	3	30	30	1.06	1.10	21.1	21.5
6	アスキナシ	2	2	20	20	0.79	0.85	22.5	23.2
7	コシアブラ	1	1	10	10	0.69	0.81	29.7	32.1
8	ナナカマド	3	3	45	45	0.69	0.76	11.7	12.3
計8種(枯損木を除く)		88	82	1675	1510	30.35	30.69	12.7	13.4

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は6本減少し、胸高断面積合計は30.35m²ha⁻¹から30.69m²ha⁻¹に増加し、平均胸高直径は12.7cmから13.4cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 和賀岳植物群落保護林（プロット4）

≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

和賀岳植物群落保護林(プロット4)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月30日	11月1日	
オオカメノキ	1	1	
オオツリバナ	1	1	
ブナ	+	+	
3種	3種	3種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

和賀岳植物群落保護林(プロット4)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月30日	11月1日	
チシマザサ	5	5	
ミヤマカンスゲ	3	3	
イワガラミ	2	2	
シラネウラボ	2	2	
ヒメモチ	1	1	
アカイタヤ	+	+	
オオカメノキ	+	+	
オオバクロモジ	+	+	
シラネアオイ	+	+	
ノリウツギ	+	+	
ハイイヌガヤ	+	+	
ヒメアオキ	+	+	
ホソバナライシダ	+	+	
ミネカエデ	+	+	
ミヤマカタバミ	+	+	
ヤマソテツ	+	+	
シシガシラ	+	未確認	▼
トチバニンジン	+	未確認	▼
アズキナシ	未確認	+	△
ショウジョウバカマ	未確認	+	△
ブナ	未確認	+	△
ホソバトウゲシバ	未確認	+	△
22種	18種	20種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 4

顕著な減少（▼） 2

■評価

低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は2種が未確認、4種が新たに確認された。

○北上川中流森林計画区 和賀岳植物群落保護林

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

和賀岳植物群落保護林 植物目録

No	科名	種名	調査地点			環境省 RL	岩手県 RDB
			No2	No3	No4		
1	ヒカゲノカズラ科	マンネンズギ	○				
2		ホソバトウゲシバ	○		○		
3	キジノオシダ科	ヤマソテツ	○	○	○		
4	シシガシラ科	シシガシラ	○	○			
5	オシダ科	ホソバナライシダ			○		
6		シノブカグマ	○	○			
7		リウメンシダ			○		
8		シラネワラビ		○	○		
9		オンダ		○	○		
10	メシダ科	ヘビノネゴザ			○		
11	ウラボシ科	ミヤマノキノブ		○	○		
12	イヌガヤ科	ハイイヌガヤ		○	○		
13	フナ科	フナ	○	○	○		
14	モクレン科	タムシバ	○				
15	クスノキ科	オオバクロモジ			○		
16	キンポウゲ科	ミヤマカラマツ			○		
17	シラネアオイ科	シラネアオイ	○		○		
18	ウマノスズクサ科	ウスバサイシン	○				
19	マンサク科	マルバマンサク	○				
20	ユキノシタ科	トリアシショウマ			○		
21		ノリウツギ	○	○	○		
22		エゾアジサイ			○		
23		ヤグルマソウ			○		
24		イワガラミ	○	○	○		
25	バラ科	オニシモツケ			○		
26		ゴヨウイチゴ		○			
27		アズキナン			○		
28		ナナカマド	○				
29	カタバミ科	ミヤマカタバミ		○	○		
30	ミカン科	ツルシキミ		○			
31	カエデ科	ハウチワカエデ	○	○			
32		ヤマモミジ		○			
33		アカイタヤ			○		
34		ミネカエデ	○	○	○		
35	モチノキ科	ハイイヌツゲ	○	○			
36		ヒメモチ	○	○	○		
37	ニシキギ科	オオツリバナ			○		
38		クロツル			○		
39	シナノキ科	シナノキ		○			
40	ミズキ科	ヒメアオキ		○	○		
41	ウコギ科	コシアブラ	○		○		
42	セリ科	シシウド			○		
43		イブキゼリモドキ	○		○		
44	イワウメ科	オオイワウチワ	○				
45	ツツジ科	ハナヒリノキ	○				
46		ムラサキヤシオ	○	○			
47		ハクサンシャクナゲ	○				
48		ホツツジ	○				
49	モクセイ科	アオダモ		○			
50	シソ科	テンニンソウ			○		
51		クロバナヒキオコシ			○		
52	スイカズラ科	オオカメノキ	○	○	○		
53		タニウツギ			○		
54	ユリ科	ツバメオモト	○				
55		ショウジョウバカマ	○		○		
56		マイヅルソウ	○	○			
57		ツクバネソウ	○	○			
58		タケシマラン	○				
59		タマガワホトギス			○		
60	イネ科	チシマザサ	○	○	○		
61	サトイモ科	ヒトツバテンナンショウ		○			
62	カヤツリグサ科	ミチノクホンモジスゲ			○		
63		ミヤマカンスゲ	○	○	○		
計	34科	63種	32種	28種	39種	0種	0種

和賀岳植物群落保護林

項目	確認項目	評価	評価内容	総合評価 (案)
森林調査	毎木調査の変化	○	調査本数の増減が見られたが、林相や種組成に大きな変化は見られず、現状が維持されている。	A
	気象害	○	特になし。	
	病虫害	○	特になし。	
	獣害	○	特になし。	
湿原等	下層植生の変化	○	出現種の増減は見られたが、現状が維持されている。	
	湿原の状況	—	モニタリングブロット近傍での湿原は確認されていない。	
保護対象群落の生育状況	生育状況	○	ブナ林を中心とした植物群落が維持されている。	
	対策の必要性	—	特になし。	

総合評価 (案) A: 問題なし B: 要観察 (顕在化した問題はないが、予兆が見られた) C: 問題あり (問題が確認され、対策や経過観察が必要な状況)
 各項目評価 ○: 特に大きな変化は見られなかった。または、大きな問題が見られなかった。 ▲: 管理委員会で要確認。

タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林

(タデ沼ホオノキ遺伝資源希少個体群保護林)

現地調査計画及び総括整理表

保護林名	タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林
整理番号	林木-17
森林管理局名	東北森林管理局



①現地調査計画

調査項目	森林調査	動物調査	利用動態調査
保護林の概況 [目的等]	ブナ、ホオノキ、イタヤカエデの林木遺伝資源の保存のため。		
調査箇所 ルート	・調査プロット: 前回(第1回モニタリング)の調査地点2箇所を実施 ・ルート: 別図参照 ・所要時間: 駐車位置より約1時間~1時間30分	/	/
調査時期・回数	平成28年8月~9月・1回		
調査項目	毎木調査・植生調査		
調査方法	・0.1haの円形調査プロットを設定し、小円部(0.01ha)、中円部(0.03ha)、大円部(0.06ha)とする。 ・胸高直径、樹高(可能な限り第1回目モニタリングにおける計測木)を計測する。 ・調査プロット内に出現する種組成の概要を把握し過年度調査結果と比較する。		

②総括整理表

調査項目	基礎調査	森林調査(特記事項: ○=良好、▲=注意、×=危険)	動物調査	利用動態調査
平成28年度 結果概要	当保護林は、岩手県奥州市に位置する天然生林である。当保護林内は、ブナを主として構成されており、ホオノキはブナ林内に散在して生育している。 当保護林は、緑の回廊と接続していない。	調査プロットNo.1 胸高直径60-90cmのブナ、ホオノキによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20-30cm程度のブナ、トチノキが生育していた。低木層はチシマザサ、ハイヌガヤ、ハウチワカエデ等が生育し、草本層にはオクノカンスゲ、ウワバミソウ、オシダ、エゾアジサイ等が生育し、合計22種の植物が確認された。 調査プロットNo.4 胸高直径40-60cmのブナによって林冠が構成されており、亜高木層には直径30-40cm程度のブナ、ミズナラが生育していた。低木層にはリョウブ、オオカメノキ、ウワミズザクラ等が生育し、草本層にはオオイワウチワ、アクシバ、ツルシキミ、ヤマソテツ、シノブカグマ等が生育し、合計49種の植物が確認された。 ○一部、風雪害等による倒木が見られるが、林分自体に影響を与えるほどでは無かった。 ○保存対象種ブナ、ホオノキ、アカイタヤは健全に生育していた。	/	/
第1回モニタリング (平成23年度) との結果比較	特に変化なし。	特に変化は見られず、病虫獣害等も確認されなかった。		
評価(案)	保護林設定目的であるブナ、ホオノキ、イタヤカエデの林木遺伝資源の保存するための森林が維持されている。			

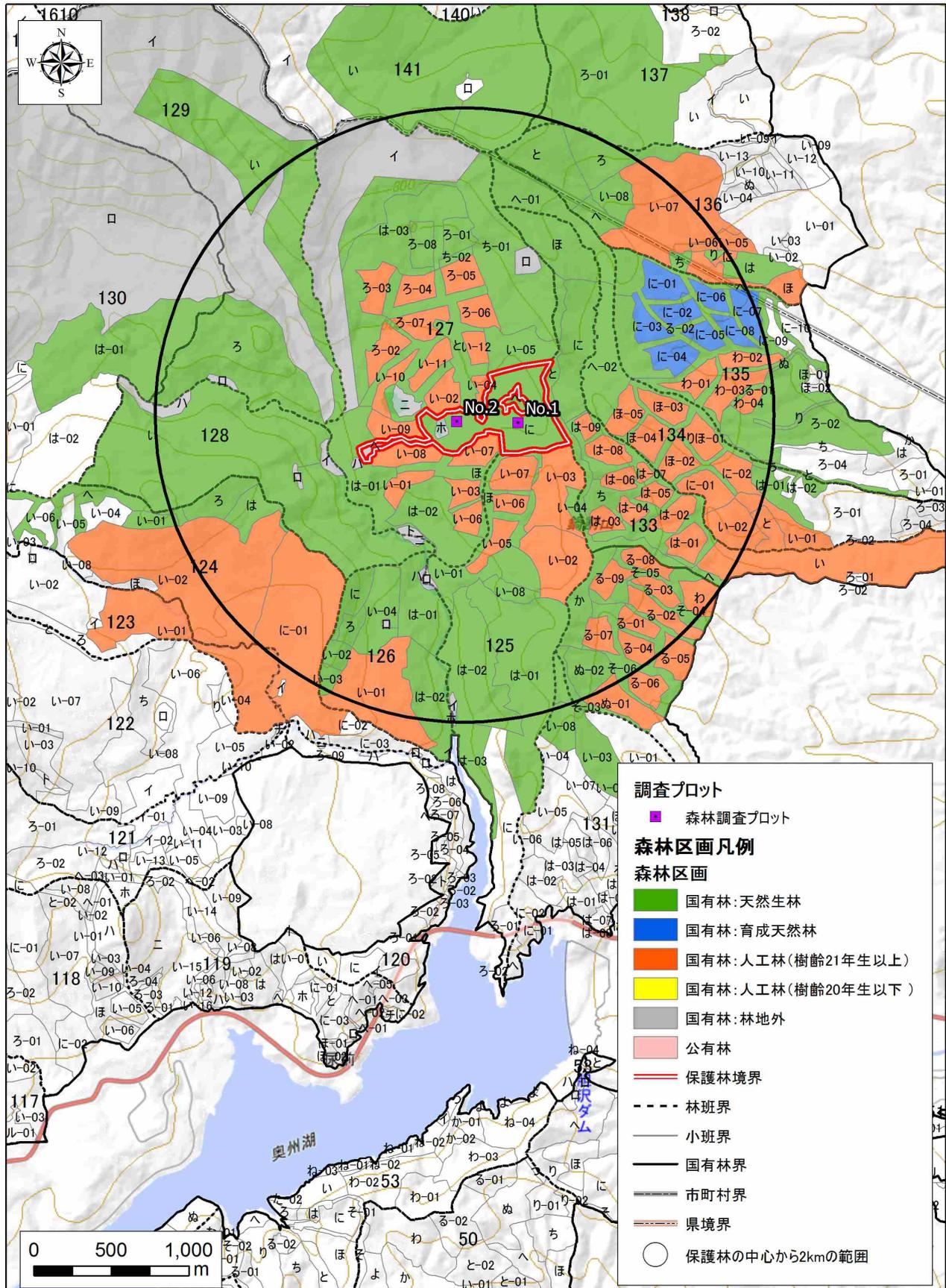
様式-4

基礎調査整理表 2 b. 保護林情報図整理表

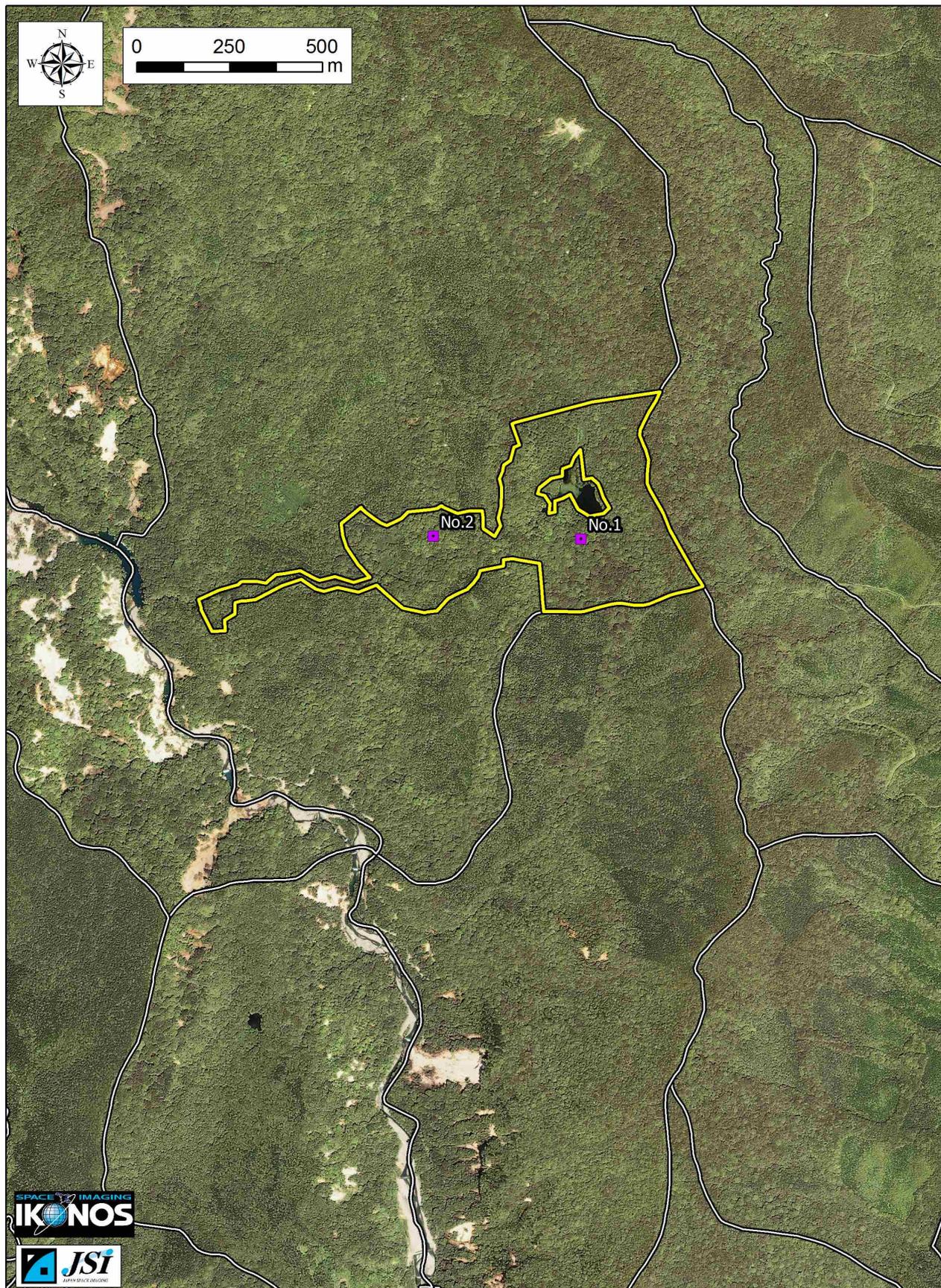
(森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林以外の保護林用)

保護林名	タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林					
整理番号	林木-17					
森林管理局名	東北森林管理局					
保護林と保護林周辺(保護林の中心から2km内にかかる小班)の森林区分別面積 (保護林周辺については、保護林面積1,000ha未満のものについて記入する)						
地区 森林区分	保護林内		保護林周辺国有林		保護林周辺公有林(概略) (必要に応じ可能であれば記入する)	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
天然生林	30.07ha	93.1%	1121.08ha	41.1%	—	—
育成天然林	0.00ha	0.0%	30.99ha	1.1%	—	—
人工林1	0.00ha	0.0%	520.39ha	19.1%	—	—
人工林2	0.00ha	0.0%	4.30ha	0.2%	—	—
林地外	2.23ha	6.9%	1051.40ha	38.5%	—	—
合計	32.30ha	100.0%	2728.16ha	100.0%	—	—
周辺民有地を区分した場合、その方法の概略	国有林GIS 公有林については、県に問い合わせた。					
保護林と周辺国有林の森林区分別配置の概要 (当該保護林と他の天然生林との接続状況を含めて記入する。)						
当保護林は岩手県奥州市胆沢区若柳に位置する、一部に林地外を含む天然生林である。保護林周辺はすべて国有林天然生林、育成天然林、人工林と接続している。半径2km圏内の保護林周辺は主に国有林となっており、スギ林やカラマツ林、ブナ林が多く配置されている。保護林の中央付近に林道があるが、現在は利用されていない。						
周辺民有地の森林・土地利用の配置の概況(保護林の中心から2km内に民有地がある場合必ず記入する。公有林があると確認された位置図面等が入手できた場合は、その配置状況を必ず記入する。)						
周辺2kmの圏内に民有地があり、主に人工林、天然生林として利用されている。						
その他特記事項(緑の回廊との接続の有無を含めて記入する。)						
当保護林は緑の回廊と接続していない。						
作成の基とした図面や収集した空中写真	国有林GIS、IKONOS衛星画像					

タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林



タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林



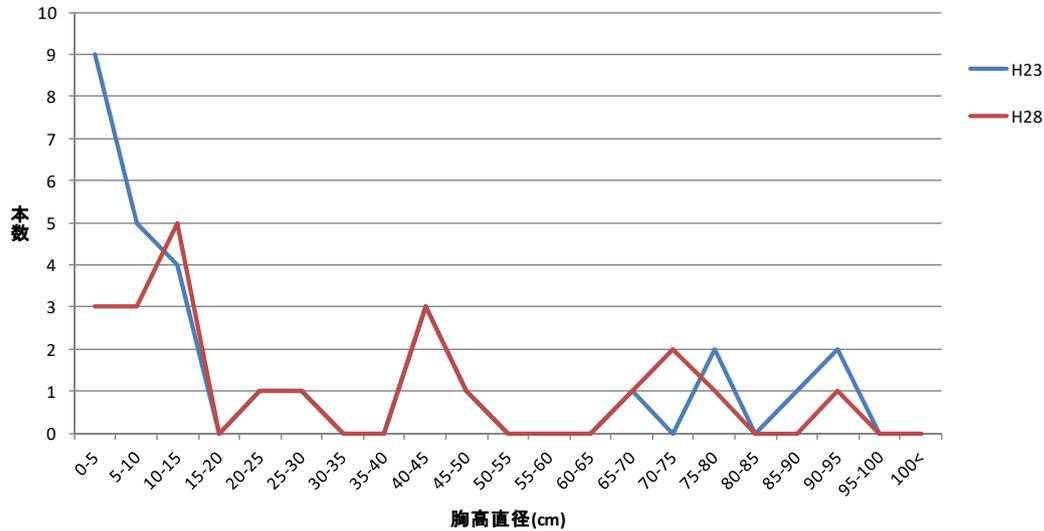
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林		
整理番号	林木-17		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年8月2日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	127に	斜面方位	N8E
標高	612m	傾斜角度	4度
緯度経度	北緯 39度09分17.7秒		東経 140度54分56.7秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.1 林道沿いに駐車。谷沿いに進み、尾根を渡りタデ沼方面へと向かう。駐車位置から標準地まで約1km、徒歩30分程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ、ホオノキ 胸高直径 60cm~90cm 樹高 22m~30m			
○亜高木層: ブナ、トチノキ 胸高直径 20~30cm 樹高 12m~15m			
○低木層: トチノキ、ハウチワカエデ 樹高 1m~3m			
○草本層: チシマザサ、ハイヌガヤ、ウワバミソウ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
一部、倒木が発生している。 ギャップが発生している。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ホンドギツネの糞 ツキノワグマ爪痕			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林（プロット1）



○北上川中流森林計画区 タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林（プロット1）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	14	12	230	195	31.16	22.85	28.2	27.6
2	ヤチダモ	1	1	10	10	4.72	4.28	77.5	73.8
3	ホオノキ	2	2	20	20	3.09	3.16	44.3	44.8
4	トチノキ	2	1	110	10	1.38	1.26	6.9	40.1
5	ハウチワカエデ	3	4	150	175	0.46	0.77	5.7	6.8
6	サワグルミ	1	0	25		0.12		7.8	
7	エゾツリハナ	1	1	100	100	0.09	0.10	3.4	3.5
8	キタノツツカエデ	2	0	200		0.05		1.9	
9	ヤマモミジ	2	0	200		0.04		1.5	
10	オオハククロモジ	1	1	100	100	0.03	0.04	1.9	2.3
11	コマユミ	1	0	100		0.03		1.9	
計11種(枯損木を除く)		30	22	1245	610	41.16	32.46	9.1	15.1

※青字は保存対象種

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は8本減少し、胸高断面積合計は41.16m²ha⁻¹から32.46m²ha⁻¹に減少、平均胸高直径は9.1cmから15.1cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林（プロット1）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林(プロット1)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	8月31日	8月2日	
チシマザサ	4	3	
トチノキ	1	1	
ハイイヌガヤ	1	1	
ハウチワカエデ	1	1	
アカイタヤ	+	+	
オオカメノキ	+	+	
キタノテツカエデ	+	+	
エゾツリバナ	+	未確認	▼
オオバクロモジ	+	未確認	▼
コマユミ	+	未確認	▼
ヤマモミジ	+	未確認	▼
サワグルミ	未確認	+	△
ブナ	未確認	+	△
13種	11種	9種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 2

顕著な減少（▼） 4

タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林(プロット1)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	8月31日	8月2日	
ミヤマベニシダ	1		▼
オクノカンスゲ	+	2	△
ウワバミソウ	+	1	
オシダ	+	1	
イワガラミ	+	+	
エゾアジサイ	+	+	
スミレサイシン	+	+	
ツタウルシ	+	+	
ハイイヌツゲ	+	+	
アケボノシュスラン	+	未確認	▼
ウワミズザクラ	+	未確認	▼
オオカメノキ	+	未確認	▼
カラクサイヌワラビ	+	未確認	▼
サラシナショウマ	+	未確認	▼
ジュウモンジシダ	+	未確認	▼
タニギキョウ	+	未確認	▼
チゴユリ	+	未確認	▼
ミヤマカタバミ	+	未確認	▼
ユキザサ	+	未確認	▼
リョウブ	+	未確認	▼
ウリハダカエデ	未確認	+	△
ハイイヌガヤ	未確認	+	△
アカイタヤ	未確認	+	△
オオバクロモジ	未確認	+	△
ハウチワカエデ	未確認	+	△
ホオノキ	未確認	+	△
ヤグルマソウ	未確認	+	△
ヤマモミジ	未確認	+	△
28種	20種	15種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 9

顕著な減少（▼） 12

△▼は両年とも確認された種で顕著な変化が見られた種

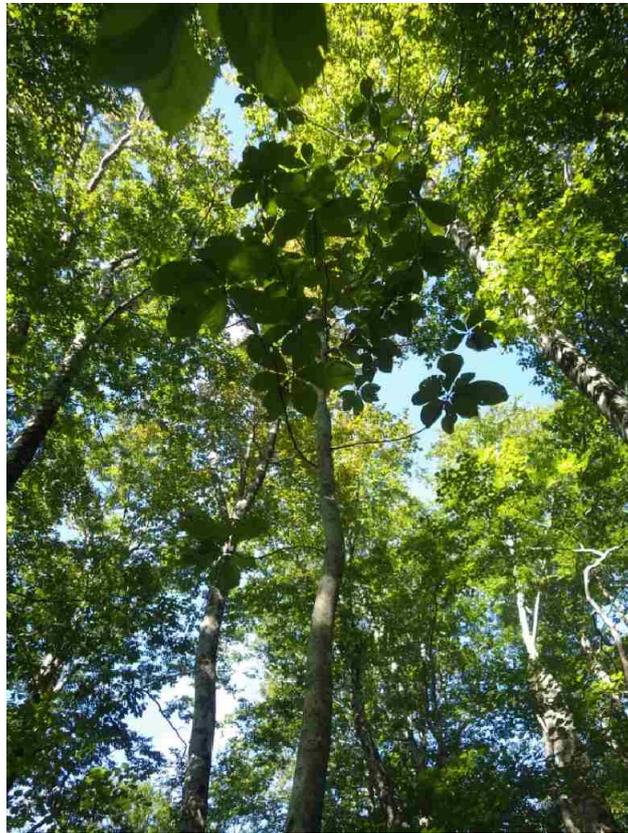
■評価

低木層は4種が未確認、2種が新たに確認された。草本層は12種が未確認、9種が新たに確認された。草本層においては、オクノカンスゲの優占度が大きく変化していた。

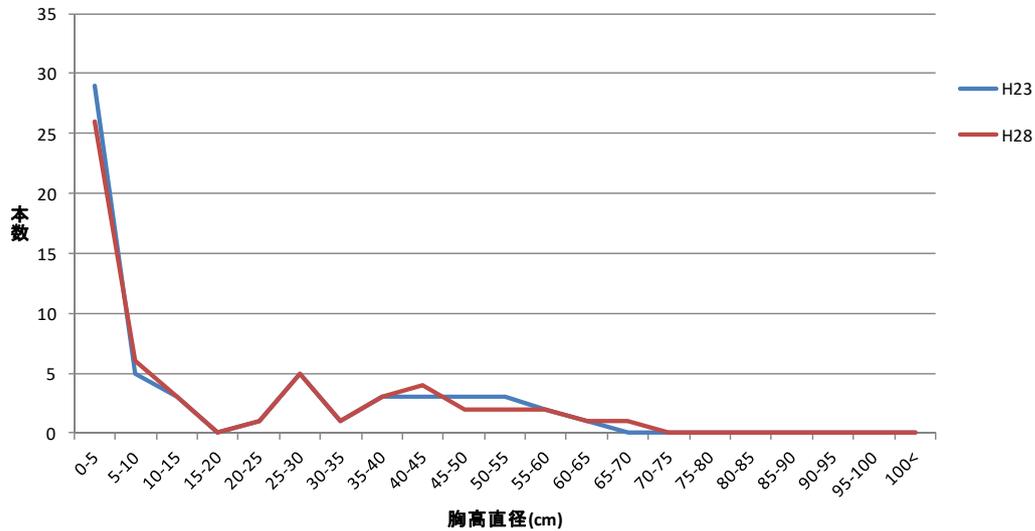
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林		
整理番号	林木-17		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年9月21日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	127に	斜面方位	N43W
標高	585m	傾斜角度	7度
緯度経度	北緯 39度09分17.9秒		東経 140度54分39.9秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹凹斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.2 林道沿いに駐車。谷沿いに進み、尾根を渡りタデ沼方面へと向かう。駐車位置から標準地まで約1.5km、徒歩1時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ 胸高直径 40cm~60cm 樹高 27m~30m			
○亜高木層: ブナ、ミズナラ 胸高直径 30~40cm 樹高 19m~23m			
○低木層: リョウブ、オオカメノキ、ウワミズザクラ、コヨウラクツツジ 樹高 1m~3m			
○草本層: オオイワウチワ、アクシバ、ツルシキミ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ツキノワグマ爪痕			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林（プロット2）



○北上川中流森林計画区 タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林（プロット2）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	19	19	190	190	29.05	29.12	42.6	42.6
2	ミスナラ	1	1	10	10	2.23	2.22	53.3	53.2
3	コハウチワカエデ	6	6	210	210	1.39	1.42	6.3	6.7
4	アカシデ	1	1	10	10	0.57	0.58	27.0	27.2
5	リョウブ	14	11	1400	1100	0.31	0.38	1.6	2.1
6	ホオノキ	1	1	25	25	0.22	0.22	10.7	10.7
7	ウリハダカエデ	1	1	25	25	0.19	0.19	9.9	9.9
8	タムシバ	6	7	600	700	0.16	0.26	1.8	2.2
9	コシアブラ	2	2	125	50	0.15	0.21	3.7	7.3
10	ヒツバカエデ	1	1	25	25	0.13	0.18	8.2	9.6
11	ウワミスズナ	2	2	200	200	0.06	0.09	1.9	2.3
12	マルバマンサク	1	1	100	100	0.05	0.06	2.4	2.8
13	オオカメノキ	3	3	300	300	0.03	0.08	1.2	1.8
14	オオバクロモジ	1	1	100	100	0.01	0.02	1.1	1.5
計14種(枯損木を除く)		59	57	3320	3045	34.56	35.04	4.8	5.5

※青字は保存対象種

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は2本減少し、胸高断面積合計は34.56m²ha⁻¹から35.04m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は4.8cmから5.5cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林（プロット2）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林(プロット2)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	8月31日	9月21日	
リョウブ	1	2	
ウワミズザクラ	1	1	
オオカメノキ	1	1	
コヨウラクツツジ	1	1	
タムシバ	+	1	
オオバクロモジ	+	+	
コハウチワカエデ	+	+	
ヒトツバカエデ	+	+	
マルバマンサク	+	+	
ヤマモミジ	+	+	
10種	10種	10種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林(プロット2)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	8月31日	9月21日	
オオイワウチワ	3	3	
オオカメノキ	+	1	
ハイイヌツゲ	+	1	
アケシバ	+	+	
ウリハダカエデ	+	+	
コヨウラクツツジ	+	+	
シノブカグマ	+	+	
タムシバ	+	+	
チシマザサ	+	+	
ツタウルシ	+	+	
ツルシキミ	+	+	
ハイイヌガヤ	+	+	
ヒトツバカエデ	+	+	
ミズナラ	+	+	
ヤマウルシ	+	+	
リョウブ	+	+	
ウワミズザクラ	未確認	+	△
エゾユズリハ	未確認	+	△
クロソヨゴ	未確認	+	△
コシアブラ	未確認	+	△
コハウチワカエデ	未確認	+	△
コミネカエデ	未確認	+	△
シシガシラ	未確認	+	△
シロヤシオ	未確認	+	△
ヒメモチ	未確認	+	△
ブナ	未確認	+	△
ヤブコウジ	未確認	+	△
27種	16種	27種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 9

顕著な減少（▼） 0

■評価

低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は9種が新たに確認された。

○北上川中流森林計画区 タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林 植物目録

No	科名	種名	調査地点		環境省 RL	岩手県 RDB
			No1	No2		
1	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ		○		
2	ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ		○		
3	シシガシラ科	シシガシラ		○		
4	オンダ科	シノブカグマ		○		
5	マツ科	キタゴヨウ		○		
6	イヌガヤ科	ハイイヌガヤ	○	○		
7	クルミ科	サワグルミ	○			
8	ブナ科	ブナ	○	○		
9		ミズナラ		○		
10	イラクサ科	ウワバミソウ	○			
11	モクレン科	ホオノキ	○			
12		タムシバ		○		
13	クスノキ科	オオバクロモジ	○	○		
14	マンサク科	マルバマンサク		○		
15	ユキノシタ科	ツルアジサイ		○		
16		エゾアジサイ	○	○		
17		ヤグルマソウ	○			
18		イワガラミ	○	○		
19	バラ科	イヌザクラ		○		
20		ウワミズザクラ		○		
21		アズキナシ		○		
22	ミカン科	ツルシキミ		○		
23	ウルシ科	ツタウルシ	○	○		
24		ヤマウルシ		○		
25	カエデ科	ヒトツバカエデ		○		
26		ハウチワカエデ	○			
27		コミネカエデ		○		
28		キタノテツカエデ	○			
29		ヤマモミジ	○	○		
30		アカイタヤ	○			
31		ウリハダカエデ		○		
32		コハウチワカエデ		○		
33	トチノキ科	トチノキ	○			
34	モチノキ科	ハイイヌツゲ	○	○		
35		ヒメモチ		○		
36		アオハダ		○		
37		クロソヨゴ		○		
38	ニシキギ科	コマユミ	○			
39	スミレ科	スミレサイシン	○			
40	ウコギ科	コシアブラ		○		
41		ハリギリ		○		
42	イワウメ科	オオイワウチワ		○		
43	リョウブ科	リョウブ		○		
44	ツツジ科	ハナヒリノキ		○		
45		コヨウラクツツジ		○		
46		ムラサキヤシオ		○		
47		シロヤシオ		○		B
48		ホツツジ		○		
49		アクシバ		○		
50		オオバスノキ		○		
51	ヤブコウジ科	ヤブコウジ		○		
52	エゴノキ科	ハクウンボク		○		
53	アカネ科	ツルアリドオシ		○		
54	クマツツラ科	ムラサキシキブ		○		
55	スイカズラ科	ウゴツクハネウツギ		○		
56		オオカメノキ	○	○		
57		ミヤマガマズミ		○		
58	ユリ科	ツクバネソウ		○		
59	イネ科	チシマザサ	○	○		
60	サトイモ科	ミズバショウ	○			
61	カヤツリグサ科	オクノカンスゲ	○			
計	34科	61種	22種	49種	0種	1種

タデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林

項目	確認項目	評価	評価内容	総合評価（案）
森林調査	毎木調査の変化	○	ギャップの発生に伴い調査本数の減少が見られたが、林相や種組成に大きな変化は見られず、現状が維持されている。	A
	気象害	○	一部、風雪害等による倒木が見られるが、林分自体に影響を与えるほどでは無かった。	
	病虫害	○	特になし。	
	獣害	○	特になし。	
	下層植生の変化	○	ギャップの発生に伴う出現種の増減は見られるが、現状が維持されている。	
保存対象樹種の生育状況	○	保存対象種ホオノキ、ブナ、アカイタヤの生育は良好であり、健全に生育していた。		
対策の必要性	—	特になし。		

総合評価（案） A：要観察（顕在化した問題はないが、予兆が見られた） C：問題あり（問題が確認され、対策や経過観察が必要な状況）
 各項目評価 ○：特に大きな変化は見られなかった。または、大きな問題が見られなかった。 ▲：管理委員会で要確認。

琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林

(琴畑湿原ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林)

現地調査計画及び総括整理表

保護林名	琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林
整理番号	林木-18
森林管理局名	東北森林管理局



①現地調査計画

調査項目	森林調査	動物調査	利用動態調査
保護林の概況 [目的等]	ミズナラ、ハルニレの林木遺伝資源の保存のため。		
調査箇所 ルート	<ul style="list-style-type: none"> 調査プロット: 前回(第1回モニタリング)の調査地点2箇所を実施 ルート: 別図参照 所要時間: 駐車位置より約10~30分 	/	/
調査時期・回数	平成28年7月・1回		
調査項目	毎木調査・植生調査		
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> 0.1haの円形調査プロットを設定し、小円部(0.01ha)、中円部(0.03ha)、大円部(0.06ha)とする。 胸高直径、樹高(可能な限り第1回目モニタリングにおける計測木)を計測する。 調査プロット内に出現する種組成の概要を把握し過年度調査結果と比較する。 		

②総括整理表

調査項目	基礎調査	森林調査(特記事項: ○=良好、▲=注意、×=危険)	動物調査	利用動態調査
平成28年度 結果概要	<p>当保護林は、岩手県遠野市に位置する天然生林である。</p> <p>当保護林は、主にミズナラが生育し保存対象種ハルニレが混生している。</p> <p>当保護林に点在している湿原は、北上山地の中においても数少ない低層湿原の初期段階にあるものとして、今後における湿原遷移の系列が注目されている。また、ハルニレやエゾノコリンゴの純林群落やモリアオガエルの生息など、学術的価値は極めて高いとされている。</p> <p>当保護林は、緑の回廊と接続していない。</p> <p>法令規則等: 県自然環境保全地域特別地区</p>	<p>調査プロットNo.1 胸高直径60-90cmのミズナラ、ハルニレによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20-30cm程度のミズナラ、ハリギリが生育していた。低木層はサワシバ、サワフタギ、オオモミジ等が生育し、草本層にはクマイザサ、サラシナショウマ、オクノカンスゲ等が生育し、合計43種の植物が確認された。</p> <p>調査プロットNo.2 胸高直径60-90cmのミズナラ、ハルニレによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20-30cm程度のミズナラ、サワシバが生育していた。低木層はサワシバ、イヌエンジュ等が生育し、草本層にはクマイザサが優占して生育し、合計18種の植物が確認された。</p> <p>○保存対象種ミズナラ、ハルニレは健全に生育していた。 ▲一部の下層植生において、ニホンジカによると思われる採食痕が確認された。</p>	/	/
第1回モニタリング (平成23年度) との結果比較	特に変化なし。	特に変化は見られなかったが、一部の下層植生においてニホンジカによると思われる採食痕が確認された。		
評価(案)	保護林設定目的である対象種の林木遺伝資源を保存するための森林が維持されている。ただし、ニホンジカによると思われる痕跡が確認されているため、引き続き経過観察は必要と考えられる。			

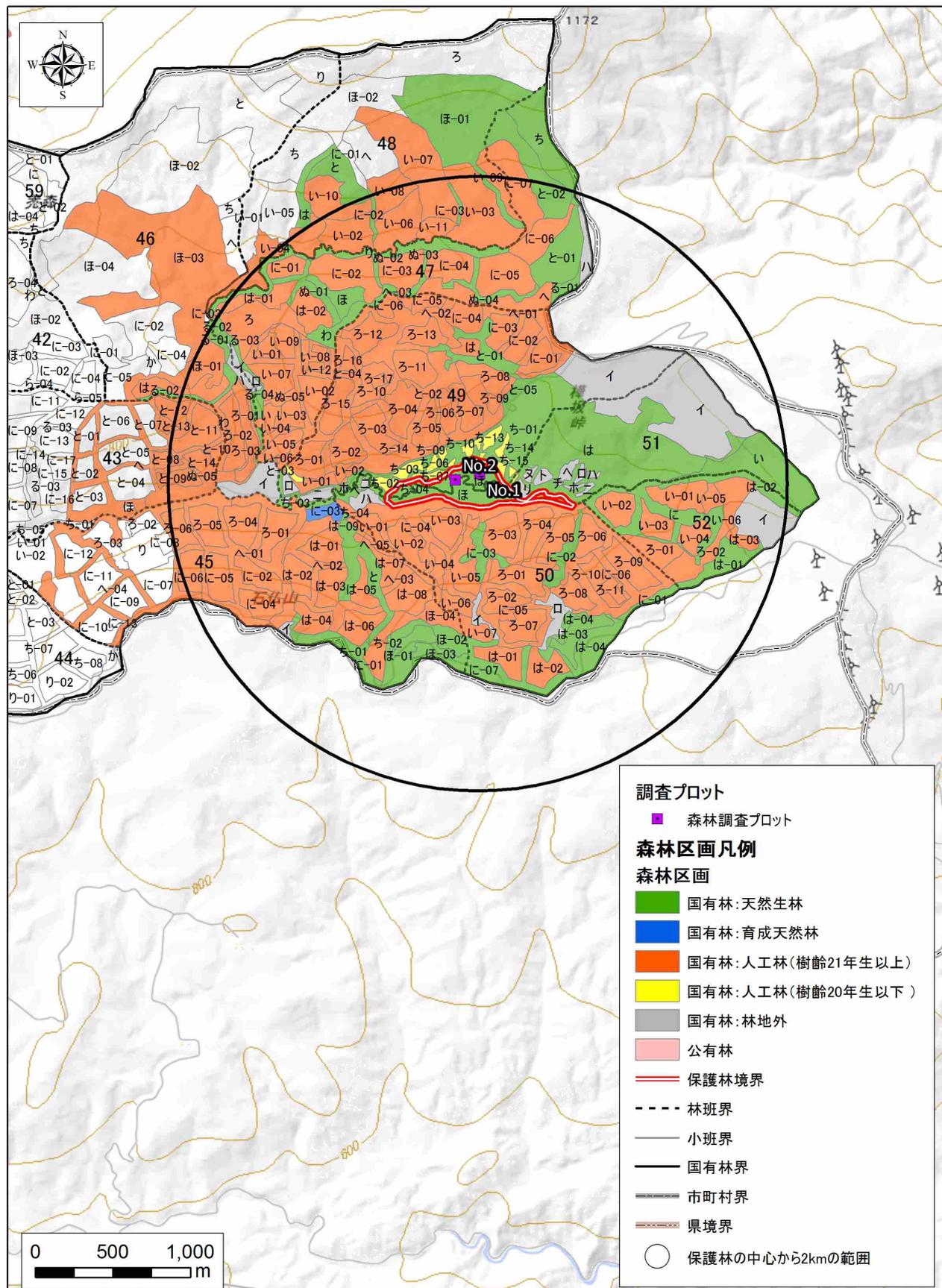
様式-4

基礎調査整理表 2 b. 保護林情報図整理表

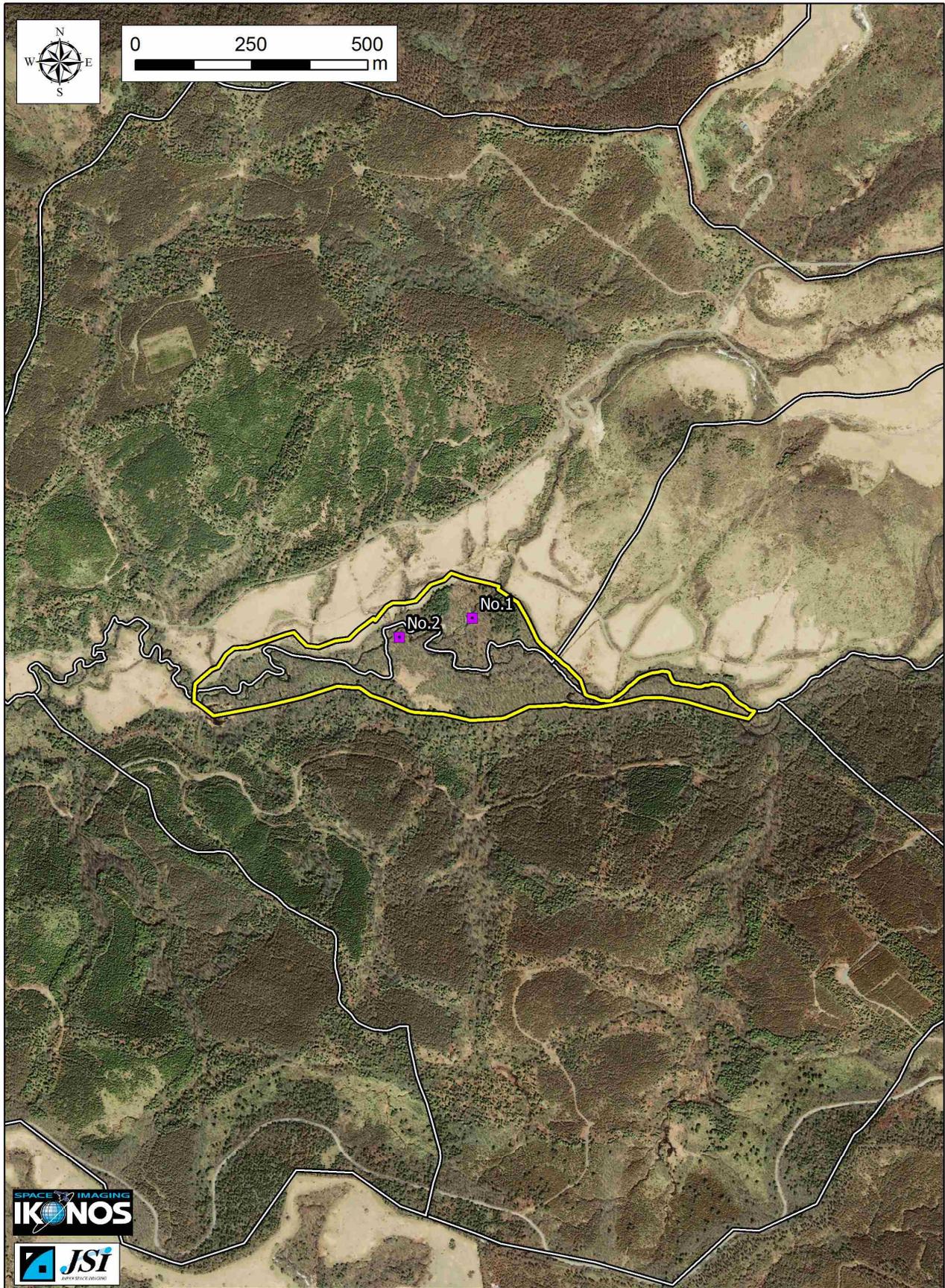
(森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林以外の保護林用)

保護林名	琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林					
整理番号	林木-18					
森林管理局名	東北森林管理局					
保護林と保護林周辺(保護林の中心から2km内にかかる小班)の森林区分別面積 (保護林周辺については、保護林面積1,000ha未満のものについて記入する)						
地区 森林区分	保護林内		保護林周辺国有林		保護林周辺公有林(概略) (必要に応じ可能であれば記入する)	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
天然生林	17.00ha	100.0%	304.69ha	27.2%	—	—
育成天然林	0.00ha	0.0%	2.00ha	0.2%	—	—
人工林1	0.00ha	0.0%	721.29ha	64.5%	—	—
人工林2	0.00ha	0.0%	10.05ha	0.9%	—	—
林地外	0.00ha	0.0%	80.26ha	7.2%	—	—
合計	17.00ha	100.0%	1118.29ha	100.0%	—	—
周辺民有地を区分した場合、その方法の概略	国有林GIS 公有林については、県に問い合わせた。					
保護林と周辺国有林の森林区分別配置の概要 (当該保護林と他の天然生林との接続状況を含めて記入する。)						
当保護林は岩手県遠野市土淵町柘内に位置する天然生林である。保護林周辺は全て国有林天然生林、育成天然林、人工林、林地外と接続している。半径2km圏内の保護林周辺は主に国有林となっており、スギ林やブナ林、アカマツ林が多く配置されている。						
周辺民有地の森林・土地利用の配置の概況(保護林の中心から2km内に民有地がある場合必ず記入する。公有林があると確認された位置図面等が入手できた場合は、その配置状況を必ず記入する。)						
周辺2kmの圏内に民有地があり、主に人工林として利用されている。						
その他特記事項(緑の回廊との接続の有無を含めて記入する。)						
当保護林は自然環境保全地域に指定され、緑の回廊とは接続していない。						
作成の基とした図面や収集した空中写真	国有林 GIS、IKONOS衛星画像					

琴畑湿原ハルニシ林木遺伝資源保存林



琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林



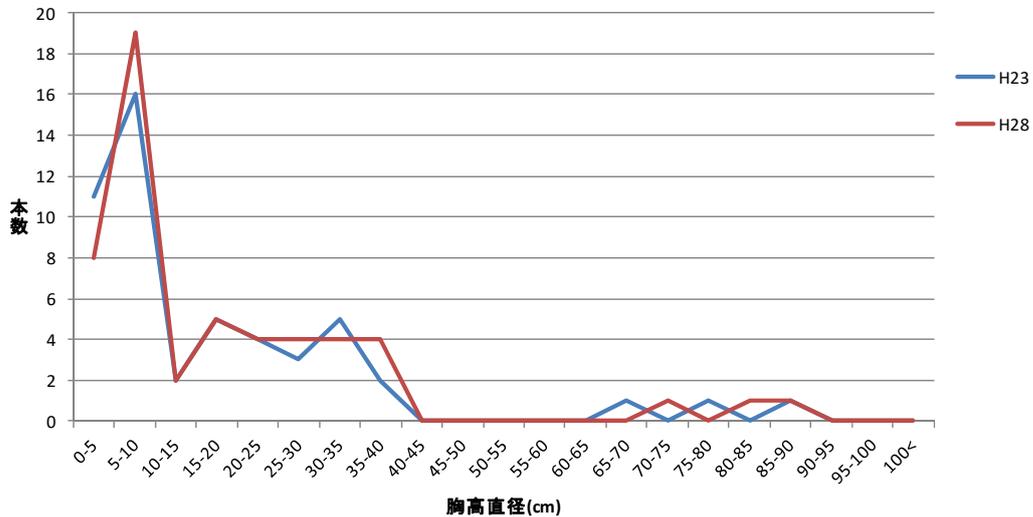
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林		
整理番号	林木-18		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年7月25日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	49ほ	斜面方位	S48E
標高	702m	傾斜角度	7度
緯度経度	北緯 39度25分11.3秒		東経 141度42分53.4秒
測地系	世界測地系	局所地形	山脚堆積面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.1 林道脇に駐車。駐車位置付近から林内へ入り、獣道を進む。駐車位置から標準地まで約200m、徒歩10分程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ミズナラ、ハルニレ 胸高直径 70cm~90cm 樹高 26m~30m			
○亜高木層: ミズナラ、ハリギリ、イヌエンジュ 胸高直径 20~40cm 樹高 13m~21m			
○低木層: サワシバ、サワフタギ、オオモミジ 樹高 1m~3m			
○草本層: クマイザサ、サラシナショウマ、ミゾソバ、オクノカンスゲ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ニホンジカの糞、採食痕、鳴き声			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林（プロット1）



○北上川中流森林計画区 琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林（プロット1）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ミスナラ	12	13	135	145	11.43	13.10	29.2	30.2
2	ハルニレ	2	3	20	30	10.06	10.74	79.4	61.8
3	サワシバ	25	25	1435	1210	2.98	3.49	4.1	4.8
4	イヌエンジュ	3	3	60	60	1.18	1.25	14.5	14.9
5	ハリギリ	1	1	10	10	1.05	1.05	36.5	36.5
6	ハッコヤナギ	1	1	10	10	0.93	1.02	34.4	36.0
7	オニタヤ	2	2	20	20	0.68	0.67	20.8	20.7
8	オニグルミ	1	1	25	25	0.50	0.61	16.0	17.6
9	エゾヤマザクラ	2	1	50	25	0.21	0.14	7.4	8.3
10	シナノキ	1	1	25	25	0.06	0.08	5.5	6.3
11	オオモシジ	1	2	25	50	0.06	0.14	5.3	6.1
計11種(枯損木を除く)		51	53	1815	1610	29.14	32.29	8.0	9.5

※青字は保存対象種

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は2本増加し、胸高断面積合計は29.14m²ha⁻¹から32.29m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は8.0cmから9.5cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林（プロット1）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林(プロット1)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月1日	7月25日	
サワシバ	2	2	
オオモミジ	1	1	
サワフタギ	1	1	
ヤマツツジ	+	1	
イヌエンジュ	+	+	
5種	5種	5種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林(プロット1)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月1日	7月25日	
クマイザサ	4	4	
イラクサ	+	1	
オクノカンスゲ	+	1	
セントウソウ	+	1	
ウグイスカグラ	+	+	
カンボク	+	+	
サラシナショウマ	+	+	
シモツケソウ	+	+	
セリ	+	+	
ミゾバ	+	+	
ヤチダモ	+	+	
ヤマドリゼンマイ	+	+	
ワラビ	+	+	
ハンゴンソウ	+	+	
タチツボスミレ	未確認	1	△
アオダモ	未確認	+	△
オオモミジ	未確認	+	△
オククルマムグラ	未確認	+	△
クラマゴケ	未確認	+	△
サワフタギ	未確認	+	△
ハイイヌツゲ	未確認	+	△
ミズナラ	未確認	+	△
ミゾシダ	未確認	+	△
ヤマキツネノボタン	未確認	+	△
24種	14種	24種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 10

顕著な減少（▼） 0

■評価

低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は 10 種が新たに確認された。

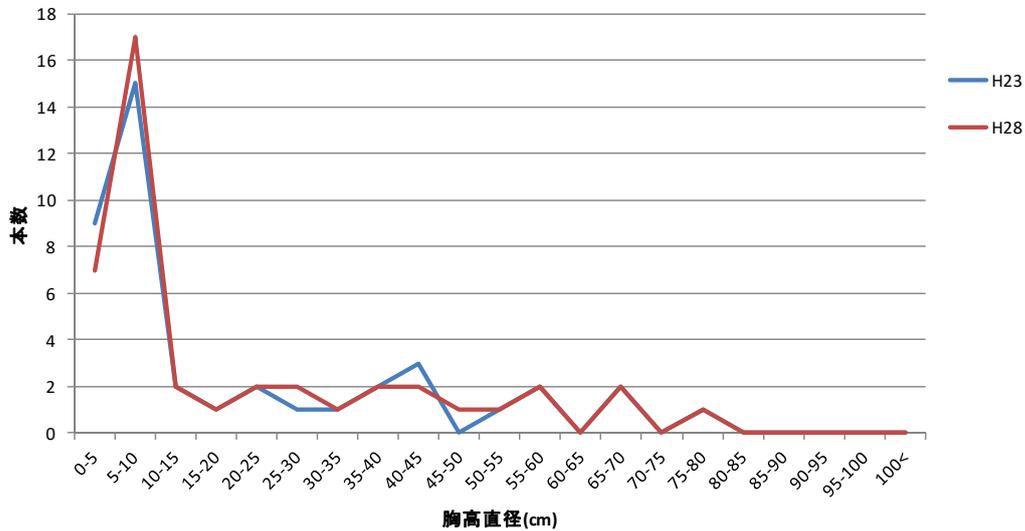
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林		
整理番号	林木-18		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年7月25日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	50ほ	斜面方位	N5W
標高	695m	傾斜角度	3度
緯度経度	北緯 39度25分10.0秒		東経 141度42分46.8秒
測地系	世界測地系	局所地形	山脚堆積面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.2 林道脇に駐車。駐車位置付近から林内へ入り、獣道を進む。途中、沢沿いを歩く。駐車位置から標準地まで約350m、徒歩15分程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ 胸高直径 40cm～70cm 樹高 23m～28m			
○亜高木層: ミズナラ、サワシバ 胸高直径 30～50cm 樹高 17m～22m			
○低木層: サワシバ、イヌエンジュ 樹高 1m～3m			
○草本層: クマイザサ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ニホンジカの糞、採食痕、鳴き声			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林（プロット2）



○北上川中流森林計画区 琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林（プロット2）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ミズナラ	9	10	195	205	13.63	17.09	19.0	37.9
2	ハルニレ	3	3	30	30	7.38	7.51	54.9	55.4
3	サワシバ	22	23	1015	1040	7.02	7.10	5.7	5.7
4	ハッコヤナギ	1	1	10	10	1.58	1.65	44.9	45.9
5	イヌエンジュ	7	6	250	225	0.77	0.76	5.9	7.8
計5種(枯損木を除く)		42	43	1500	1510	30.38	34.12	8.7	10.3

※青字は保存対象種

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は1本増加し、胸高断面積合計は30.38m²ha⁻¹から34.12m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は8.7cmから10.3cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林（プロット2）

≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林(プロット2)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月1日	7月25日	
サワシバ	2	2	
イヌエンジュ	1	1	
2種	2種	2種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林(プロット1)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月1日	7月25日	
クマイザサ	5	5	
1種	1種	1種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

■評価

低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は大きな変化は見られなかった。

○北上川中流森林計画区 琴畑湿原ハルニレ林木遺伝資源保存林

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

琴畑ハルニレ林木遺伝資源保存林 植物目録

No	科名	種名	調査地点		環境省 RL	岩手県 RDB
			No1	No2		
1	イワヒバ科	クラマゴケ	○			
2	ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ	○			
3	コバノイシカグマ科	ワラビ	○			
4	ヒメシダ科	ミゾシダ	○			
5	ウラボシ科	ミヤマノキシノブ		○		
6		オシャグジデンド	○	○		
7	ク름ミ科	サワグルミ		○		
8	カバノキ科	サワシバ	○	○		
9		ツノハシバミ	○			
10	ブナ科	ミズナラ	○	○		
11	イラクサ科	ヤブマオ	○			
12		ミヤマイラクサ		○		
13		イラクサ	○			
14	タデ科	ミゾソバ	○			
15	キンボウゲ科	サラシナショウマ	○	○		
16		ヤマキツネノボタン	○			
17	ウマノスズクサ科	カンアオイsp.	○			
18	バラ科	シモツケソウ	○			
19	マメ科	イヌエンジュ	○	○		
20	カタバミ科	コミヤマカタバミ		○		
21	ウルシ科	ツタウルシ	○			
22	カエデ科	オオモミジ	○			
23		オニイタヤ	○			
24	モチノキ科	ハイイヌツゲ	○	○		
25	ニシキギ科	ツリバナ	○			
26	スミレ科	タチツボスミレ	○	○		
27	セリ科	セントウソウ	○			
28		セリ	○			
29		ウマノミツバ	○	○		
30	ツツジ科	ヤマツツジ	○			
31	サクラソウ科	クリンソウ	○	○		
32	ハイノキ科	サワフタギ	○			
33	モクセイ科	アオダモ	○	○		
34		ヤチダモ	○			
35		ミヤマイボタ	○			
36		ハシドイ		○		
37	リンドウ科	アケボノソウ	○			
38	アカネ科	オククルマムグラ	○			
39	スイカズラ科	ウグイスカグラ	○			
40		カンボク	○			
41	キキョウ科	ソバナ	○			
42	キク科	オクモミジハグマ	○			
43		オオヨモギ	○			
44		アキタブキ	○	○		
45		ハンゴンソウ	○			
46	ユリ科	マイヅルソウ	○			
47	イネ科	クマイザサ	○	○		B
48	カヤツリグサ科	オクノカンスゲ	○	○		
計	33科	48種	43種	18種	0種	1種

琴畑湿原ハルニシ林木遺伝資源保存林

項目	確認項目	評価	評価内容	総合評価 (案)
森林調査	毎木調査の変化	○	調査本数の増減が見られたが、林相や種組成に大きな変化は見られず、現状が維持されている。	A
	気象害	○	特になし。	
	病虫害	○	特になし。	
	獣害	○	特になし。	
保存対象樹種の生育状況	下層植生の変化	○	出現種の増減は見られたが、現状が維持されている。	
	生育状況	○	保存対象種ハルニシ、ミズナラの生育は良好であり、健全に生育していた。	
対策の必要性		—	特になし。	

総合評価 (案) A: 問題なし B: 要観察 (顕在化した問題はないが、予兆が見られた) C: 問題あり (問題が確認され、対策や経過観察が必要な状況)
 各項目評価 ○: 特に大きな変化は見られなかった。または、大きな問題が見られなかった。 ▲: 管理委員会で要確認。

長橋天然スギ植物群落保護林

(長橋スギ希少個体群保護林)

現地調査計画及び総括整理表

保護林名	長橋天然スギ植物群落保護林
整理番号	植物-19
森林管理局名	東北森林管理局



①現地調査計画

調査項目	森林調査	動物調査	利用動態調査
保護林の概況 [目的等]	天然スギの保存と自然推移の観察に資するため。		
調査箇所 ルート	・調査プロット: 前回(第1回モニタリング)の調査地点2箇所を実施 ・ルート: 別図参照 ・所要時間: 駐車位置より約30分	/	/
調査時期・回数	平成28年9月・1回		
調査項目	毎木調査・植生調査		
調査方法	・0.1haの円形調査プロットを設定し、小円部(0.01ha)、中円部(0.03ha)、大円部(0.06ha)とする。 ・胸高直径、樹高(可能な限り第1回目モニタリングにおける計測木)を計測する。 ・調査プロット内に出現する種組成の概要を把握し過年度調査結果と比較する。		

②総括整理表

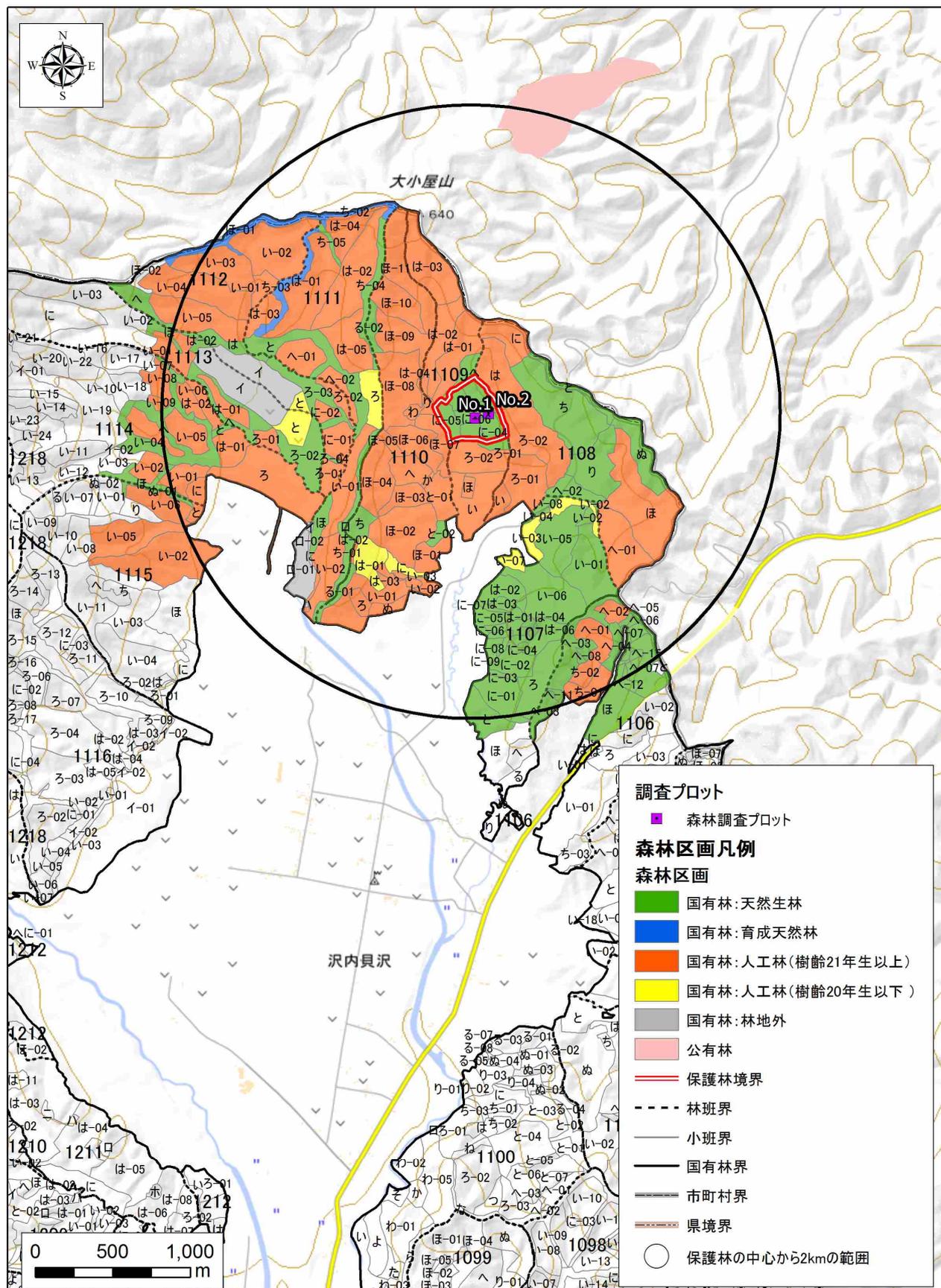
調査項目	基礎調査	森林調査(特記事項: ○=良好、▲=注意、×=危険)	動物調査	利用動態調査
平成28年度 結果概要	当保護林は、岩手県和賀郡に位置し天然スギとブナ等が混交する壮齢林となっている。 当保護林の面積は12.62haで、保護林全域に大径木の天然スギが優占して生育しているが、所々に高木ブナが混交している林相が見られる。 当保護林は、緑の回廊と接続していない。 法令規則等: 男鹿国定公園第1種特別地域	調査プロットNo.1 胸高直径80-100cmのスギによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20cm程度のスギ、ブナが生育していた。低木層にはチシマザサ、ヒメアオキ、オオカメノキ等が生育し、草本層にはヤマソテツ、ツタウルシ、ハイイヌツゲ、オクノカンスゲ等が生育し、合計35種の植物が確認された。 調査プロットNo.2 胸高直径60-90cmのスギによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20-30cm程度のスギ、ブナが生育していた。低木層にはブナ、コハウチワカエデ等が生育し、草本層にはチシマザサ、ヒメアオキ、イワガラミ、オクノカンスゲ等が生育し、合計47種の植物が確認された。 ○気象害や病虫獣害は確認されなかった。	/	/
第1回モニタリング (平成23年度) との結果比較	特に変化なし。	特に変化は見られず、病虫獣害等も確認されなかった。		
評価(案)	保護林設定目的である天然スギの保存と自然推移の観察に資するための森林が維持されている。			

様式-4

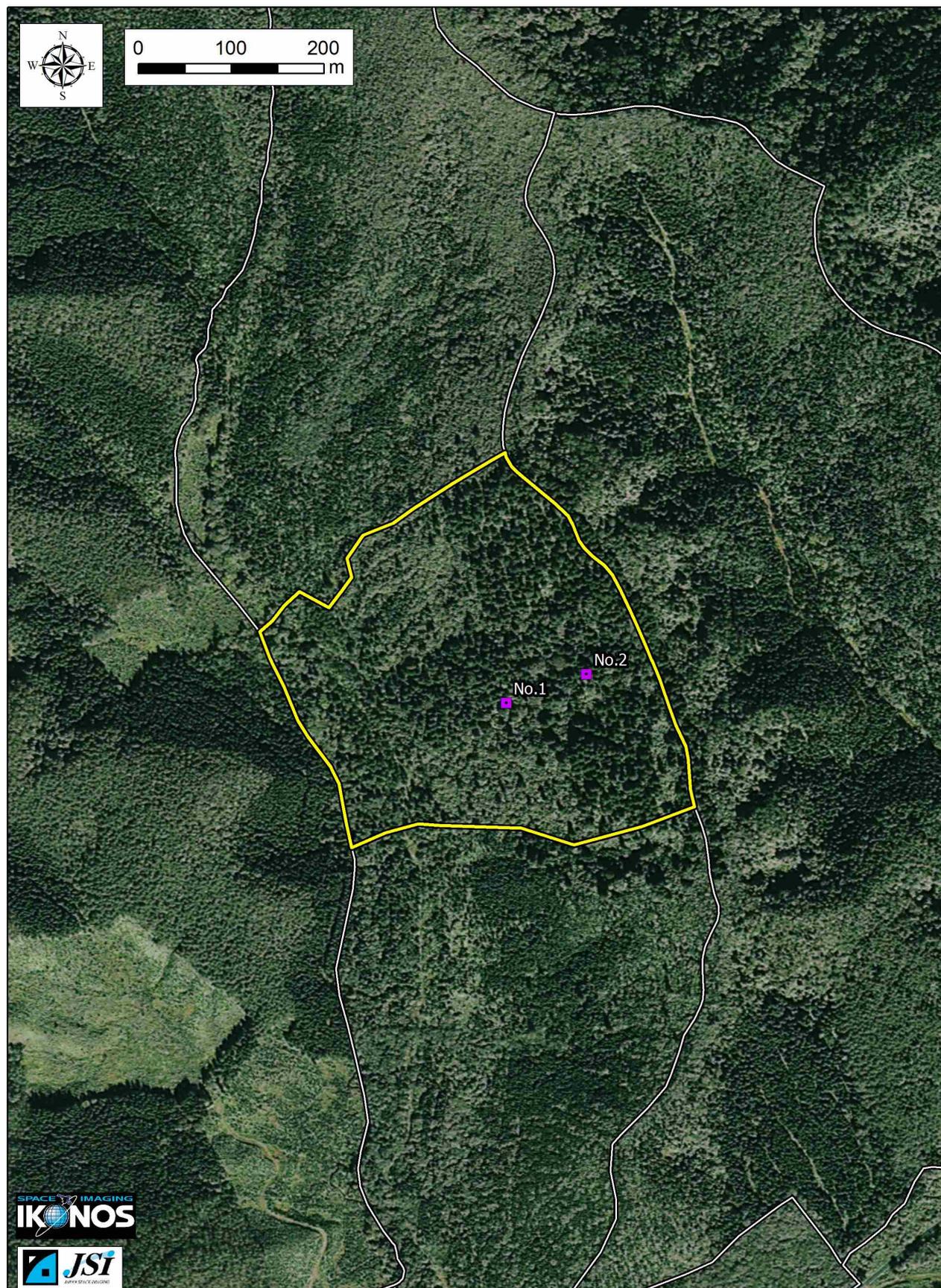
基礎調査整理表 2 b. 保護林情報図整理表
(森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林以外の保護林用)

保護林名	長橋天然スギ植物群落保護林					
整理番号	植物-19					
森林管理局名	東北森林管理局					
保護林と保護林周辺(保護林の中心から2km内にかかる小班)の森林区分別面積 (保護林周辺については、保護林面積1,000ha未満のものについて記入する)						
地区 森林区分	保護林内		保護林周辺国有林		保護林周辺公有林(概略) (必要に応じ可能であれば記入する)	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
天然生林	12.62ha	100.0%	244.51ha	33.3%	—	—
育成天然林	0.00ha	0.0%	11.09ha	1.5%	—	—
人工林1	0.00ha	0.0%	431.59ha	58.9%	—	—
人工林2	0.00ha	0.0%	22.21ha	3.0%	—	—
林地外	0.00ha	0.0%	23.90ha	3.3%	—	—
合計	12.62ha	100.0%	733.30ha	100.0%	12.03ha	100.0%
周辺民有地を区分した場合、その方法の概略	国有林GIS 公有林については、県に問い合わせた。					
保護林と周辺国有林の森林区分別配置の概要 (当該保護林と他の天然生林との接続状況を含めて記入する。)						
<p>当保護林は岩手県和賀郡西和賀町沢内川舟に位置する天然生林である。保護林周辺は全て国有林人工林や天然生林と接続している。半径2km圏内の保護林周辺は半分程度が国有林となっており、スギ林やカラマツ林、ブナ林が多く配置されている。 保護林の西側には和賀岳植物群落保護林が配置されている。</p>						
周辺民有地の森林・土地利用の配置の概況(保護林の中心から2km内に民有地がある場合必ず記入する。公有林があると確認された位置図面等が入手できた場合は、その配置状況を必ず記入する。)						
周辺2kmの圏内に民有地があり、主に人工林となっている。						
その他特記事項(緑の回廊との接続の有無を含めて記入する。)						
当保護林は緑の回廊と接続していない。						
作成の基とした図面や収集した空中写真	国有林 GIS、IKONOS衛星画像					

長橋天然スギ植物群落保護林



長橋天然スギ植物群落保護林



基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

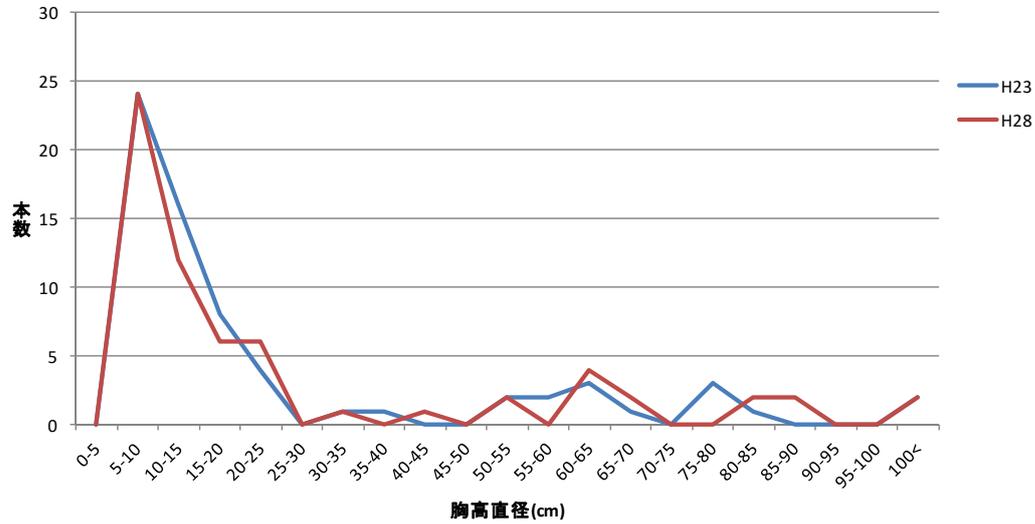
保護林名	長橋天然スギ植物群落保護林		
整理番号	植物-19		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年9月21日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	1109に6	斜面方位	S20W
標高	447m	傾斜角度	6度
緯度経度	北緯 39度34分53.6秒		東経 140度50分38.4秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.1 作業道手前に駐車。長橋川付近の作業道を進み、分岐を右へ進み、林内へ入る。駐車位置から標準地まで約1km、徒歩30分程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: スギ 胸高直径 60cm~100cm 樹高 27m~36m			
○亜高木層: スギ、ブナ 胸高直径 10cm~20cm 樹高 13m~18m			
○低木層: ヒメアオキ、チシマザサ、オオカメノキ 樹高 1m~3m			
○草本層: アオダモ、ヤマソテツ、ツタウルシ、ハイイヌツゲ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 長橋天然スギ植物群落保護林（プロット1）



○北上川中流森林計画区 長橋天然スギ植物群落保護林（プロット1）

≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	スギ	17	17	215	215	58.69	66.18	48.0	50.8
2	ブナ	38	38	830	830	13.36	13.95	11.7	11.7
3	コシアブラ	10	8	250	200	2.02	1.49	9.4	9.0
4	アカイタヤ	1	1	10	10	0.76	0.81	31.1	32.1
5	ミスナラ	2	0	50		0.71		13.4	
計5種(枯損木を除く)		68	64	1355	1255	75.54	82.43	17.2	18.1

※青字は保護対象種

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は4本減少し、胸高断面積合計は75.54m²ha⁻¹から82.43m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は17.2cmから18.1cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 長橋天然スギ植物群落保護林（プロット1）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

長橋天然スギ植物群落保護林(プロット1)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	8月28日	9月21日	
オオカメノキ	2	2	
チシマザサ	2	2	
ヒメアオキ	2	2	
オオバクロモジ	1	1	
ハイヌガヤ	1	1	
ハウチワカエデ	1	1	
タムシバ	1	未確認	▼
アカイタヤ	+	+	
ツルアジサイ	+	+	
スギ	+	+	
ツルウメモドキ	+	+	
ブナ	+	+	
オオキソチドリ	+	未確認	▼
13種	13種	11種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 2

長橋天然スギ植物群落保護林(プロット1)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	8月28日	9月21日	
アオダモ	+	+	
オクノカンスゲ	+	+	
ツクバネソウ	+	+	
ツタウルシ	+	+	
ノリウツギ	+	+	
ハイヌツゲ	+	+	
ハリガネワラビ	+	+	
ヤマソテツ	+	+	
ツルリンドウ	+	未確認	▼
ミヤマウスラ	+	未確認	▼
イワガラミ	未確認	+	△
11種	10種	9種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 1

顕著な減少（▼） 2

■評価 低木層は2種が未確認であった。

草本層は2種が未確認、1種が新たに確認された。

基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

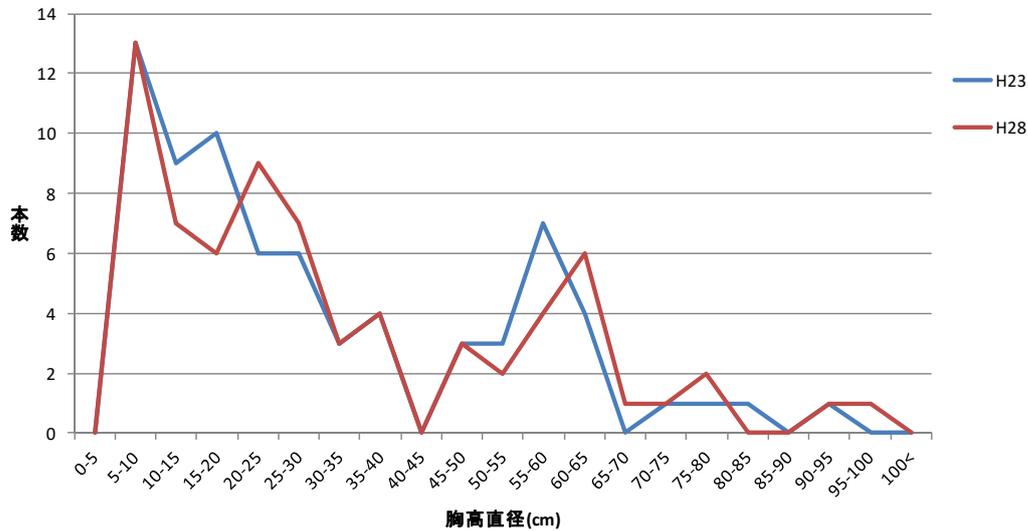
保護林名	長橋天然スギ植物群落保護林		
整理番号	植物-19		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年9月21日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	1109に6	斜面方位	N80W
標高	469m	傾斜角度	31度
緯度経度	北緯 39度34分55.1秒		東経 140度50分41.6秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹凸斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
<p>標準地No.2 作業道手前に駐車。長橋川付近の作業道を進み、分岐を右へ進み、林内へ入る。駐車位置から標準地まで約1km、徒歩30分程度。</p>			
<p>植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)</p>			
○高木層: スギ 胸高直径 60cm~90cm 樹高 24m~40m			
○亜高木層: スギ、ブナ 胸高直径 15~30cm 樹高 14m~18m			
○低木層: コハウチワカエデ、ブナ 樹高 1m~3m			
○草本層: ヒメアオキ、イワガラミ、チシマザサ 背丈 1m以下			
<p>保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)</p> <p>特になし。</p>			
<p>保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)</p> <p>特になし。</p>			
<p>保護対象種の概況等、その他特記事項</p> <p>健全に生育している。</p>			
<p>現地調査として想定される調査項目の必要性</p> <p>森林調査</p>			

○北上川中流森林計画区 長橋天然スギ植物群落保護林（プロット2）



○北上川中流森林計画区 長橋天然スギ植物群落保護林（プロット2）

≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	スギ	43	40	490	430	74.02	80.30	37.5	42.8
2	ブナ	18	18	360	360	6.28	6.82	12.5	13.1
3	コシアブラ	8	8	170	170	1.79	1.89	10.4	10.6
4	ホオノキ	2	2	35	20	1.00	0.74	18.9	21.6
5	ウラジロノキ	1	1	25	25	0.18	0.20	9.5	10.0
6	アオダモ	0	1		25		0.05		5.2
計6種(枯損木を除く)		72	70	1080	1030	83.26	89.99	23.7	25.0

※青字は保護対象種

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は2本減少し、胸高断面積合計は83.26m²ha⁻¹から89.99m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は23.7cmから25.0cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 長橋天然スギ植物群落保護林（プロット2）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

長橋天然スギ植物群落保護林(プロット2)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	8月29日	9月21日	
コハウチワカエデ	1	1	
ブナ	1	1	
2種	2種	2種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

長橋天然スギ植物群落保護林(プロット2)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	8月29日	9月21日	
ヒメアオキ	3	2	
イワガラミ	2	2	
チシマザサ	2	1	
オオバクロモジ	1	1	
オクノカンスゲ	1	1	
シシガシラ	1	1	
ツルアリドオシ	1	1	
ミヤマイタチシダ	1	1	
ヤマソテツ	1	1	
ヤマツツジ	1	1	
アオダモ	+	+	
カスミザクラ	+	+	
コシアブラ	+	+	
シナノキ	+	+	
シノブカグマ	+	+	
タムシバ	+	+	
ツクバネソウ	+	+	
ノリウツギ	+	+	
ハイイヌガヤ	+	+	
ハイイヌツゲ	+	+	
ハクウンボク	+	+	
ハナヒリノキ	+	+	
ウリハダカエデ	+	未確認	▼
オオキシソドリ	+	未確認	▼
ミズナラ	+	未確認	▼
リョウブ	+	未確認	▼
オオカメノキ	未確認	+	△
スギ	未確認	+	△
ツタウルシ	未確認	+	△
ヒノキ	未確認	+	△
ヤマモミジ	未確認	+	△
31種	26種	27種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 4

顕著な減少（▼） 4

■評価 低木層は大きな変化は見られなかった。。

草本層は4種が未確認、4種が新たに確認された。

○北上川中流森林計画区 長橋天然スギ植物群落保護林

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

長橋天然スギ植物群落保護林 植物目録

No	科名	種名	調査地点		環境省 RL	岩手県 RDB
			No1	No2		
1	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ	○	○		
2	ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ		○		
3		ゼンマイ	○			
4	キジノオシダ科	ヤマンテツ	○	○		
5	ミズワラビ科	クジャクシダ		○		
6	シシガシラ科	シシガシラ	○	○		
7	オシダ科	シノブカグマ		○		
8		ミヤマイタチシダ		○		
9	ヒメシダ科	ミゾシダ		○		
10		ハリガネワラビ	○			
11	スギ科	スギ	○	○		
12	ヒノキ科	ヒノキ		○		
13		クロベ	○	○		
14	イヌガヤ科	ハイヌガヤ	○	○		
15	ブナ科	ブナ	○	○		
16		ミズナラ	○	○		
17	モクレン科	ホオノキ		○		
18		タムシバ		○		
19	クスノキ科	オオバクロモジ	○	○		
20	ユキノシタ科	ノリウツギ	○	○		
21		ツルアジサイ	○			
22		エゾアジサイ	○			
23		イワガラミ	○	○		
24	バラ科	ウワミズザクラ	○			
25		カスミザクラ		○		
26		ナガバモミジイチゴ		○		
27	ウルシ科	ツタウルシ	○	○		
28		ヤマウルシ	○	○		
29	カエデ科	ハウチワカエデ	○	○		
30		コミネカエデ	○			
31		ヤマモミジ		○		
32		アカイタヤ	○	○		
33		コハウチワカエデ		○		
34		ミネカエデ		○		
35	モチノキ科	ハイヌツゲ	○	○		
36		ヒメモチ		○		
37	ニシキギ科	ツルウメドキ	○			
38		ヒロハツリバナ	○			
39	シナノキ科	シナノキ	○	○		
40	スミレ科	タチツボスミレ		○		
41	ウリ科	アマチャヅル	○			
42	ミズキ科	ヒメアオキ	○	○		
43	ウコギ科	コシアブラ	○	○		
44	リョウブ科	リョウブ	○	○		
45	ツツジ科	ハナヒリノキ		○		
46		ヤマツツジ		○		
47		アクシバ		○		
48	エゴノキ科	ハクウンボク		○		
49	モクセイ科	アオダモ	○	○		
50	リンドウ科	ツルリンドウ		○		
51	アカネ科	ツルアリドオシ		○		
52	スイカズラ科	オオカメノキ	○	○		
53	ユリ科	チゴユリ		○		
54		ツクバネソウ	○	○		
55		ナルコユリ	○			
56	イネ科	チシマザサ	○	○		
57	カヤツリゲサ科	オクノカンスゲ	○	○		
計	34科	57種	35種	47種	0種	0種

長橋天然スギ植物群落保護林

項目	確認項目	評価	評価内容	総合評価 (案)
森林調査	毎木調査の変化	○	天然スギが主体となって構成されており、現状が維持されている。	A
	気象害	○	特になし。	
	病虫害	○	特になし。	
	獣害	○	特になし。	
	下層植生の変化	○	出現種の増減は見られるが、現状が維持されている。	
保護対象群落の生育状況	○	気象害等は観察されず、保護対象の天然スギは健全に生育していた。		
対策の必要性	—	特になし。		

総合評価 (案) A: 問題なし B: 要観察 (顕在化した問題はないが、予兆が見られた) C: 問題あり (問題が確認され、対策や経過観察が必要な状況)
 各項目評価 ○: 特に大きな変化は見られなかった。または、大きな問題が見られなかった。 ▲: 管理委員会で要確認。

野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林

(野沢額山キタカミヒョウタンボク希少個体群保護林)

現地調査計画及び総括整理表

保護林名	野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林
整理番号	植物-21
森林管理局名	東北森林管理局



①現地調査計画

調査項目	森林調査	動物調査	利用動態調査
保護林の概況 [目的等]	野沢額山の西側斜面におけるキタカミヒョウタンボクを含む貴重な植物群落の保護のため。		
調査箇所 ルート	・調査プロット: 前回(第1回モニタリング)の調査地点2箇所を実施 ・ルート: 別図参照 ・所要時間: 駐車位置より約2時間	/	/
調査時期・回数	平成28年7月・1回		
調査項目	毎木調査・植生調査		
調査方法	・0.1haの円形調査プロットを設定し、小円部(0.01ha)、中円部(0.03ha)、大円部(0.06ha)とする。 ・胸高直径、樹高(可能な限り第1回目モニタリングにおける計測木)を計測する。 ・調査プロット内に出現する種組成の概要を把握し過年度調査結果と比較する。		

②総括整理表

調査項目	基礎調査	森林調査(特記事項: ○=良好、▲=注意、×=危険)	動物調査	利用動態調査
平成28年度 結果概要	当保護林は、岩手県花巻市の野沢額山の西側斜面に位置する天然生林である。 当保護林内は、2~4mの花崗岩からなる崖錘があり、その表面に形成された薄い土壌上にキタカミヒョウタンボクが局所的に生育している。 当保護林内の植生は、主にブナ・ミズナラ群落であり、キタカミヒョウタンボク以外にもアラゲヒョウタンボク等も見られる。 当保護林は、緑の回廊と接続していない。 法令規則等: 鳥獣保護区普通地区	調査プロットNo.1 胸高直径60-90cmのカツラ、トチノキによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20-30cm程度のブナ、トチノキ、アカイタヤが生育していた。低木層はシナノキ、オオバクロモジ等が生育し、草本層にはクマイザサ、キタカミヒョウタンボク、オシダ等が生育し、合計69種の植物が確認された。 調査プロットNo.2 胸高直径30-50cmのカツラ、サワグルミ、オヒョウによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20-30cm程度のオヒョウ、アカイタヤが生育していた。低木層はキタカミヒョウタンボク、オオカメノキ、アオダモ等が生育し、草本層にはオシダ、ミヤマイラクサ、オクノカンスゲ等が生育し、合計58種の植物が確認された。 ○保護対象種キタカミヒョウタンボクは健全に生育していた。 ○気象害等は確認されなかった。 ▲一部の下層植生において、ニホンジカによると思われる採食痕が確認された。	/	/
第1回モニタリング (平成23年度) との結果比較	特に変化なし。	特に変化は見られなかったが、一部の下層植生においてニホンジカによると思われる採食痕が確認された。		
評価(案)	保護林設定目的であるキタカミヒョウタンボクを含む貴重な植物群落を保護するための森林が維持されている。ただし、ニホンジカによると思われる痕跡が確認されているため、引き続き経過観察は必要と考えられる。			

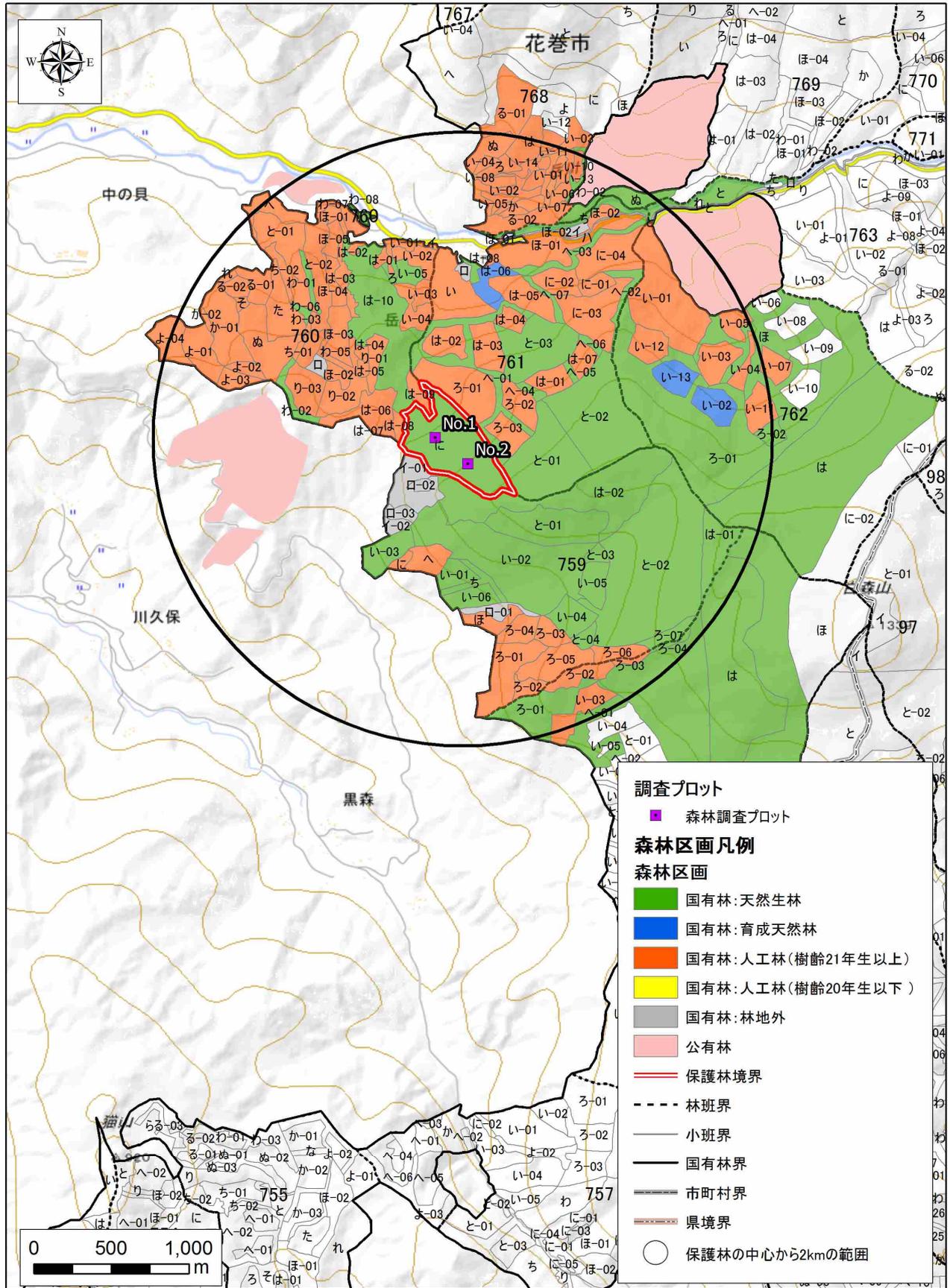
様式-4

基礎調査整理表 2 b. 保護林情報図整理表

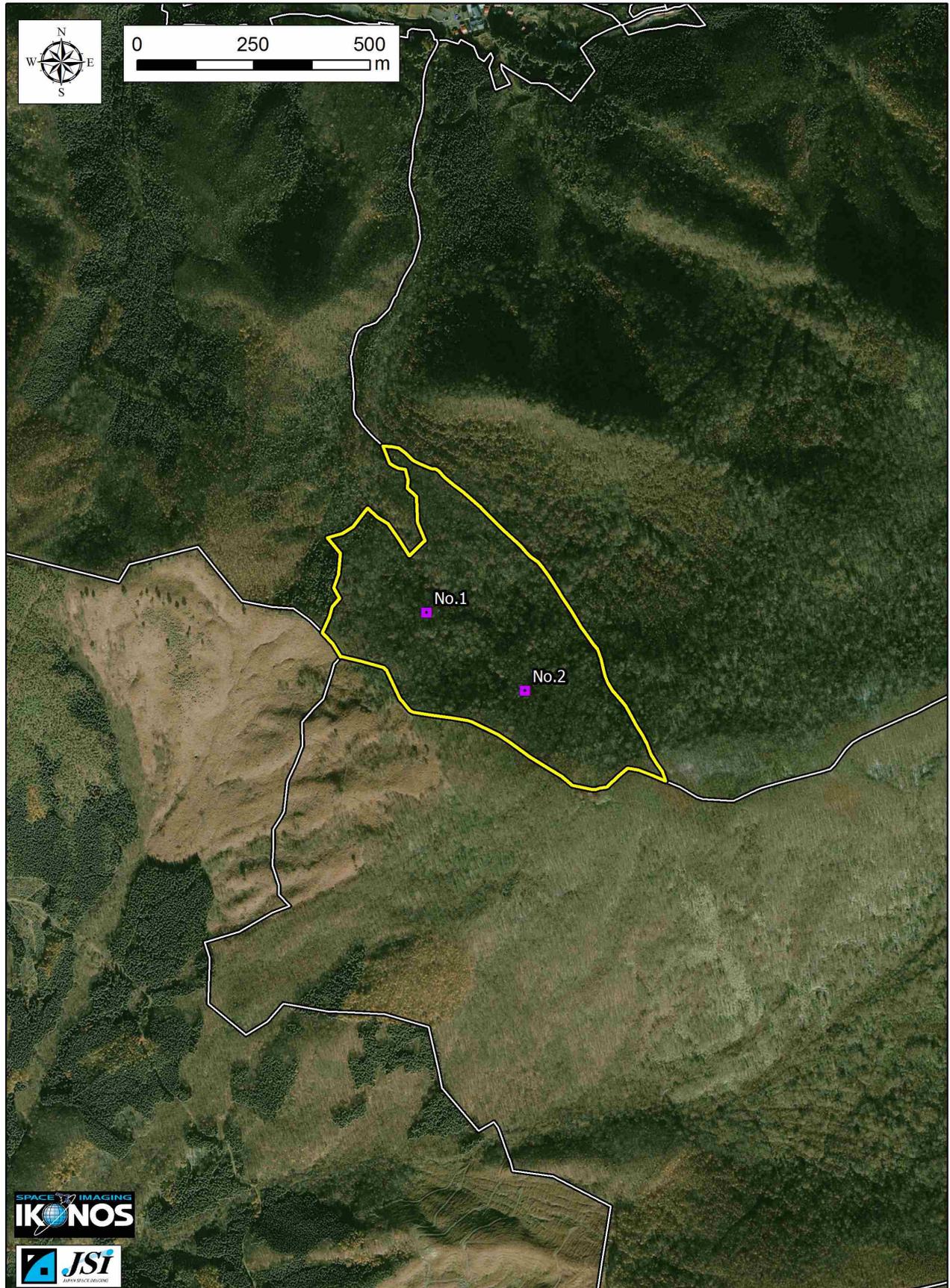
(森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林以外の保護林用)

保護林名		野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林				
整理番号		植物-21				
森林管理局名		東北森林管理局				
保護林と保護林周辺(保護林の中心から2km内にかかる小班)の森林区分別面積 (保護林周辺については、保護林面積1,000ha未満のものについて記入する)						
地区 森林区分	保護林内		保護林周辺国有林		保護林周辺公有林(概略) (必要に応じ可能であれば記入する)	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
天然生林	25.34ha	100.0%	755.91ha	63.3%	—	—
育成天然林	0.00ha	0.0%	13.59ha	1.1%	—	—
人工林1	0.00ha	0.0%	393.83ha	33.0%	—	—
人工林2	0.00ha	0.0%	10.05ha	0.8%	—	—
林地外	0.00ha	0.0%	20.00ha	1.7%	—	—
合計	25.34ha	100.0%	1193.38ha	100.0%	49.89ha	100.0%
周辺民有地を区分した場合、その方法の概略		国有林GIS 公有林については、県に問い合わせた。				
保護林と周辺国有林の森林区分別配置の概要 (当該保護林と他の天然生林との接続状況を含めて記入する。)						
当保護林は岩手県花巻市大迫町内川目に位置する天然生林である。保護林西側の一部を除いて、周辺は国有林天然生林、育成天然林、人工林、林地外と接続している。半径2km圏内の保護林周辺は主に国有林となっており、カラマツ林やブナ林が多く配置されている。北西側には早池峰山周辺森林生態系保護地域が配置されている。						
周辺民有地の森林・土地利用の配置の概況(保護林の中心から2km内に民有地がある場合必ず記入する。公有林があると確認された位置図面等が入手できた場合は、その配置状況を必ず記入する。)						
周辺2kmの圏内に民有地があり、主に人工林として利用されている。						
その他特記事項(緑の回廊との接続の有無を含めて記入する。)						
当保護林は緑の回廊とは接続していない。						
作成の基とした図面や収集した空中写真		国有林 GIS、IKONOS衛星画像				

野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林



野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林



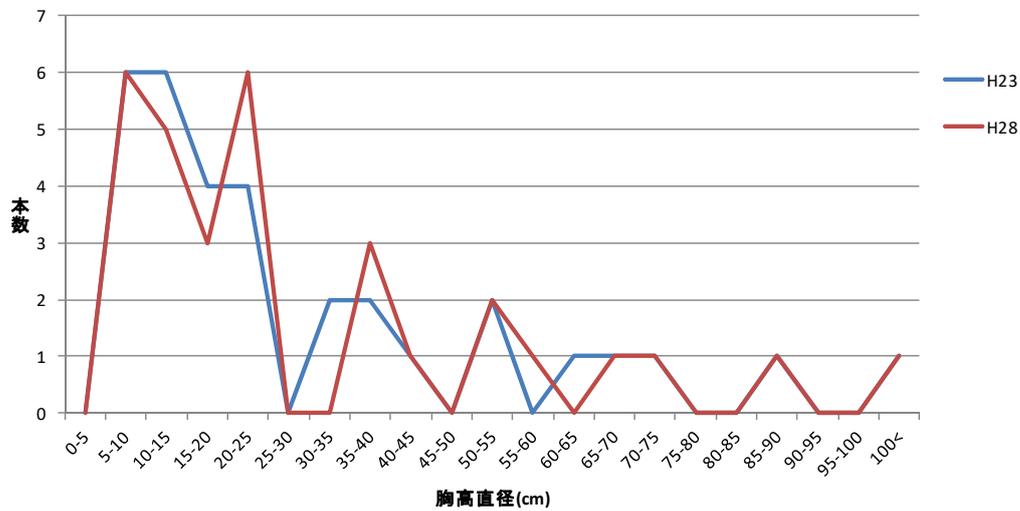
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林		
整理番号	植物-21		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年7月29日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	760に	斜面方位	N5E
標高	847m	傾斜角度	26度
緯度経度	北緯 39度31分17.6秒		東経 141度24分48.5秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹凸斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.1 林道沿いに駐車。林道を300m程歩いた地点から作業道へ入り、先の歩道を進む。歩道の消失地点付近からスギ・ヒノキの植林地と広葉樹の境界部を進み、広葉樹側の林内へと進む。駐車位置から標準地まで約1.7km、徒歩1時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: カツラ、ホオノキ、トチノキ 胸高直径 40cm~90cm 樹高 26m~29m			
○亜高木層: ブナ、トチノキ、アカイタヤ 胸高直径 15~70cm 樹高 13m~20m			
○低木層: シナノキ、オオバクロモジ 樹高 1m~3m			
○草本層: クマイザサ、オシダ、イワガラミ、オクノカンスゲ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ニホンジカの足跡、採食痕、鳴き声			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
キタカミヒョウタンボクは健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林（プロット1）



○北上川中流森林計画区 野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林（プロット1）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	トチノキ	5	5	50	50	24.80	25.16	69.7	70.3
2	カツラ	7	7	100	100	8.99	8.57	26.4	26.4
3	ホオノキ	2	2	20	20	3.89	3.93	49.5	49.8
4	ブナ	8	9	155	150	2.93	3.01	15.1	15.4
5	アカイタヤ	1	1	10	10	2.03	2.17	50.8	52.6
6	シナノキ	1	1	10	10	0.91	1.04	34.0	36.4
7	ハリギリ	1	0	10		0.77		31.3	
8	アオダモ	3	2	75	50	0.47	0.20	8.6	7.2
9	ハウチワカエデ	3	3	75	75	0.44	0.50	8.3	8.8
10	オヒョウ	1	1	25	25	0.25	0.28	11.2	12.0
計10種(枯損木を除く)		32	31	530	490	45.47	44.88	22.9	23.8

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は1本減少し、胸高断面積合計は45.47m²ha⁻¹から44.88m²ha⁻¹に減少、平均胸高直径は22.9cmから23.8cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林（プロット1）
 ≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林(プロット1)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月5日	7月29日	
オオバクロモジ	1	1	
シナノキ	1	1	
ウリノキ	+	+	
エゾアジサイ	+	+	
オオカメノキ	+	+	
オヒョウ	+	+	
アオダモ	未確認	+	▼
7種	6種	7種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 1

野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林(プロット1)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月5日	7月29日	
オシダ	2	2	
クマイザサ	2	2	
イワガラミ	1	1	
オクノカンスゲ	1	1	
オオバクロモジ	+	1	
ミヤマイラクサ	+	1	
ヤグルマソウ	+	1	
アオダモ	+	+	
アカイタヤ	+	+	
アキノキリンソウ	+	+	
イヌドウナ	+	+	
ウマノミツバ	+	+	
エゾツリバナ	+	+	
オオカニコウモリ	+	+	
オオカメノキ	+	+	
オククルマムグラ	+	+	
オシヤクジデンド	+	+	
カノツメソウ	+	+	
カラクサンダ	+	+	
キタカミヒョウタンボク	+	+	
キヨタキシダ	+	+	
サカゲイノデ	+	+	
サラシナショウマ	+	+	
タマブキ	+	+	
タラノキ	+	+	
ツタウルシ	+	+	
ツルニガクサ	+	+	
トチノキ	+	+	
ナガバハエドクソウ	+	+	
ニワトコ	+	+	
ハイイヌガヤ	+	+	
バイカウツギ	+	+	
ヘビノネゴザ	+	+	
ホソバシケンダ	+	+	
マタタビ	+	+	
マルバネコノメソウ	+	+	
ミヤマイボタ	+	+	
ミヤマガマズミ	+	+	
ミヤマシケンダ	+	+	
ミヤマノキシノブ	+	+	
ミヤママタタビ	+	+	
モミジガサ	+	+	
ヤマミズ	+	+	
ラショウモンカズラ	+	+	
リョウメンシダ	+	+	
レイウウボタン	+	+	
ジュウモンジシダ	+	+	
シナノキ	未確認	+	△
ツルアリドオシ	未確認	+	△
ハウチワカエデ	未確認	+	△
ヤマイヌワラビ	未確認	+	△
52種	47種	51種	

●比較結果概要

顕著な増加 (△) 4

顕著な減少 (▼) 0

■評価

低木層は1種が未確認であった。

草本層は4種が新たに確認された。

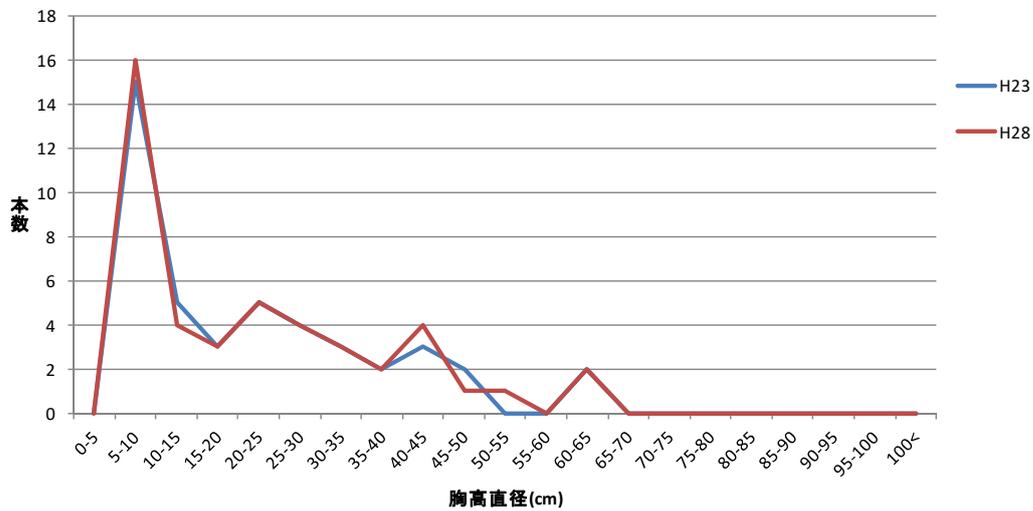
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林		
整理番号	植物-21		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年7月29日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	760に	斜面方位	N48W
標高	944m	傾斜角度	14度
緯度経度	北緯 39度31分12.1秒		東経 141度24分57.8秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.2 林道沿いに駐車。林道を300m程歩いた地点から作業道へ入り、先の歩道を進む。歩道の消失地点付近からスギ・ヒノキの植林地と広葉樹の境界部を進み、広葉樹側の林内へと進む。駐車位置から標準地まで約2km、徒歩1.5時間程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: カツラ、サワグルミ、オヒョウ 胸高直径 30cm~50cm 樹高 23m~27m			
○亜高木層: オヒョウ、アカイタヤ 胸高直径 20~40cm 樹高 17m~20m			
○低木層: オオカメノキ、アオダモ、キタカミヒョウタンボク 樹高 1m~3m			
○草本層: オシダ、ミヤマイラクサ、オクノカンスゲ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ニホンジカの足跡、採食痕、鳴き声 クマタカ目視			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
キタカミヒョウタンボクは健全に生育している。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林（プロット2）



○北上川中流森林計画区 野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林（プロット2）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	オヒョウ	11	12	125	150	9.19	9.89	27.7	25.3
2	カツラ	4	4	55	55	5.25	5.73	28.1	29.9
3	アカイタヤ	3	3	45	45	4.34	4.59	29.4	30.3
4	サワグルミ	4	4	70	55	2.51	2.53	20.0	22.7
5	アオダモ	14	14	320	320	2.35	2.61	8.9	9.6
6	オオモシジ	1	1	10	10	1.90	1.96	49.2	49.9
7	シウリザクラ	3	3	30	30	0.94	1.16	19.9	22.1
8	コミネカエデ	2	2	50	50	0.20	0.22	7.0	7.5
9	ミズキ	1	1	25	25	0.18	0.18	9.7	9.7
10	オオカメキ	1	1	25	25	0.08	0.08	6.3	6.5
計10種(枯損木を除く)		44	45	755	765	26.94	28.95	16.5	17.1

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は1本増加し、胸高断面積合計は26.94m²ha⁻¹から28.95m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は16.5cmから17.1cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林（プロット2）

≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林(プロット2)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月5日	7月29日	
オオカメノキ	2	2	
アオダモ	1	1	
キタカミヒョウタンボク	1	1	
イワガラミ	+	+	
クロカンバ	+	+	
アカイタヤ	未確認	+	△
サワグルミ	未確認	+	△
7種	5種	7種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 2

顕著な減少（▼） 0

野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林(プロット2)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月5日	7月29日	
オシダ	2	3	
オクノカンスゲ	1	1	
ミヤマイラクサ	1	1	
ジュウモンジシダ	+	1	
アオダモ	+	+	
オオカニコウモリ	+	+	
オヒョウ	+	+	
キタカミヒョウタンボク	+	+	
クマイザサ	+	+	
クロカンバ	+	+	
コミネカエデ	+	+	
ゴヨウイチゴ	+	+	
コンロンソウ	+	+	
サカゲイノデ	+	+	
サラシナショウマ	+	+	
サワグルミ	+	+	
サワダツ	+	+	
シウリザクラ	+	+	
ズダヤクシュ	+	+	
セントウソウ	+	+	
ソバナ	+	+	
タニギキョウ	+	+	
タマブキ	+	+	
ハナイカダ	+	+	
ミヤマイボタ	+	+	
ミヤマシケシダ	+	+	
モミジガサ	+	+	
ヤグルマソウ	+	+	
ラショウモンカズラ	+	+	
ルイヨウショウマ	+	+	
アマチャヅル	未確認	+	△
キヨタキシダ	未確認	+	△
ツルアジサイ	未確認	+	△
ツタウルシ	未確認	+	△
トウゲシバ	未確認	+	△
トチノキ	未確認	+	△
リョウメンシダ	未確認	+	△
37種	30種	37種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 7

顕著な減少（▼） 0

■評価

低木層は2種が新たに確認された。 草本層は7種が新たに確認された。

○北上川中流森林計画区 野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林 植物目録 1/2

No	科名	種名	調査地点		環境省 RL	岩手県 RDB
			No1	No2		
1	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ		○		
2	ミズワラビ科	カラクサシダ	○			
3	オンダ科	リョウメンシダ	○	○		
4		オンダ	○	○		
5		サカゲイノデ	○	○		
6		ジュウモンジシダ	○	○		
7	ヒメシダ科	ミゾシダ	○	○		
8	メシダ科	ヤマイヌワラビ	○			
9		ヘビノネゴザ	○			
10		ホソバシケシダ	○	○		
11		ミヤマシケシダ	○	○		
12		キヨタキシダ	○	○		
13	ウラボシ科	ミヤマノキシノブ	○	○		
14		オシャグジデンダ	○	○		
15	イヌガヤ科	ハイイヌガヤ	○			
16	クルミ科	サワグルミ	○	○		
17	ブナ科	ミズナラ		○		
18	ニレ科	オヒョウ	○	○		
19	イラクサ科	ミヤマイラクサ	○	○		
20		ヤマミズ	○			
21	クスノキ科	オオバクロモジ	○	○		
22	キンポウゲ科	ルイヨウショウマ		○		
23		サラシナショウマ	○	○		
24	メギ科	ルイヨウボタン	○			
25	マタタビ科	サルナシ	○			
26		ミヤママタタビ	○	○		
27		マタタビ	○			
28	アブラナ科	コンロンソウ		○		
29	ユキノシタ科	マルバネコノメソウ	○	○		
30		ツルアジサイ		○		
31		エゾアジサイ	○	○		
32		バイカウツギ	○			
33		ヤシャビシャク		○	準絶滅	A
34		ヤグルマソウ	○	○		
35		イワガラミ	○	○		
36		ズダヤクシュ	○	○		
37	バラ科	オクチョウジザクラ		○		
38		シウリザクラ	○	○		
39		ゴヨウイチゴ		○		
40		アズキナシ	○			
41	ウルシ科	ツタウルシ	○	○		
42	カエデ科	ハウチワカエデ	○			
43		コミネカエデ		○		
44		アカイタヤ	○	○		
45	トチノキ科	トチノキ	○	○		
46	ツリフネソウ科	キツリフネ		○		
47	ニシキギ科	オニツルウメモドキ	○			
48		コマユミ		○		
49		サワダツ		○		
50		エゾツリバナ	○			

○北上川中流森林計画区 野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

野沢額山キタカミヒョウタンボク植物群落保護林 植物目録 2/2

No	科名	種名	調査地点		環境省 RL	岩手県 RDB
			No1	No2		
51	クロウメモドキ科	クロカンバ		○		
52	ブドウ科	ヤマブドウ	○	○		
53	シナノキ科	シナノキ	○			
54	ウリ科	アマチャヅル		○		
55	ウリノキ科	ウリノキ	○			
56	ミズキ科	ハナイカダ	○	○		
57	ウコギ科	タラノキ	○	○		
58		ハリギリ	○			
59		トチバニンジン	○			
60	セリ科	セントウソウ	○	○		
61		ウマノミツバ	○			
62		カノツメソウ	○	○		
63	モクセイ科	アオダモ	○	○		
64		ミヤマイボタ	○	○		
65	アカネ科	クルマバソウ		○		
66		オククルマムグラ	○	○		
67		ツルアリドオシ	○			
68	シソ科	ラショウモンカズラ	○	○		
69		ツルニガクサ	○			
70	ハエドクソウ科	ナガバハエドクソウ	○			
71	スイカズラ科	キタカミヒョウタンボク	○	○	I B類	A
72		ニワトコ	○			
73		オオカメノキ	○	○		
74		ミヤマガマズミ	○			
75	キキョウ科	ソバナ		○		
76		タニギキョウ		○		
77	キク科	ミミコウモリ	○			
78		モミジガサ	○	○		
79		タマブキ	○	○		
80		イヌドウナ	○			
81		オオカニコウモリ	○	○		
82		アキノキリンソウ	○			
83	ユリ科	オオウバユリ	○			
84		ユキザサ	○			
85	イネ科	クマイザサ	○	○		
86	カヤツリグサ科	オクノカンスゲ	○	○		
計	41科	86種	69種	58種	2種	2種

野沢額山キタカミヒヨウタンボク植物群落保護林

項目	確認項目	評価	評価内容	総合評価 (案)
森林調査	毎木調査の変化	○	ブナやトチノキ、オヒヨウ等が主体となって構成されており、現状が維持されている。	A
	気象害	○	特になし。	
	病虫害	○	特になし。	
	獣害	○	特になし。	
保護対象群落の生育状況	下層植生の変化	○	出現種の増減は見られるが、現状が維持されている。	
		○	保護対象種キタカミヒヨウタンボクは健全に生育し、本種が生育する植物群落が維持されている。	
対策の必要性		—	特になし。	

総合評価 (案) A: 問題なし B: 要観察 (顕在化した問題はないが、予兆が見られた) C: 問題あり (問題が確認され、対策や経過観察が必要な状況)
 各項目評価 ○: 特に大きな変化は見られなかった。または、大きな問題が見られなかった。 ▲: 管理委員会で要確認。

一 關東山松植物群落保護林

(一)

現地調査計画及び総括整理表

保護林名	一関東山松植物群落保護林
整理番号	植物-16
森林管理局名	東北森林管理局



①現地調査計画

調査項目	森林調査	動物調査	利用動態調査
保護林の概況 [目的等]	南部アカマツの系統をくむ東山松の保存と天然推移の観察に資するため。		
調査箇所 ルート	<ul style="list-style-type: none"> 調査プロット: 前回(第1回モニタリング)の調査地点2箇所で実施 ルート: 別図参照 所要時間: 駐車位置より約15分 	/	/
調査時期・回数	平成28年9月・1回		
調査項目	毎木調査・植生調査		
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> 0.1haの円形調査プロットを設定し、小円部(0.01ha)、中円部(0.03ha)、大円部(0.06ha)とする。 胸高直径、樹高(可能な限り第1回目モニタリングにおける計測木)を計測する。 調査プロット内に出現する種組成の概要を把握し過年度調査結果と比較する。 		

②総括整理表

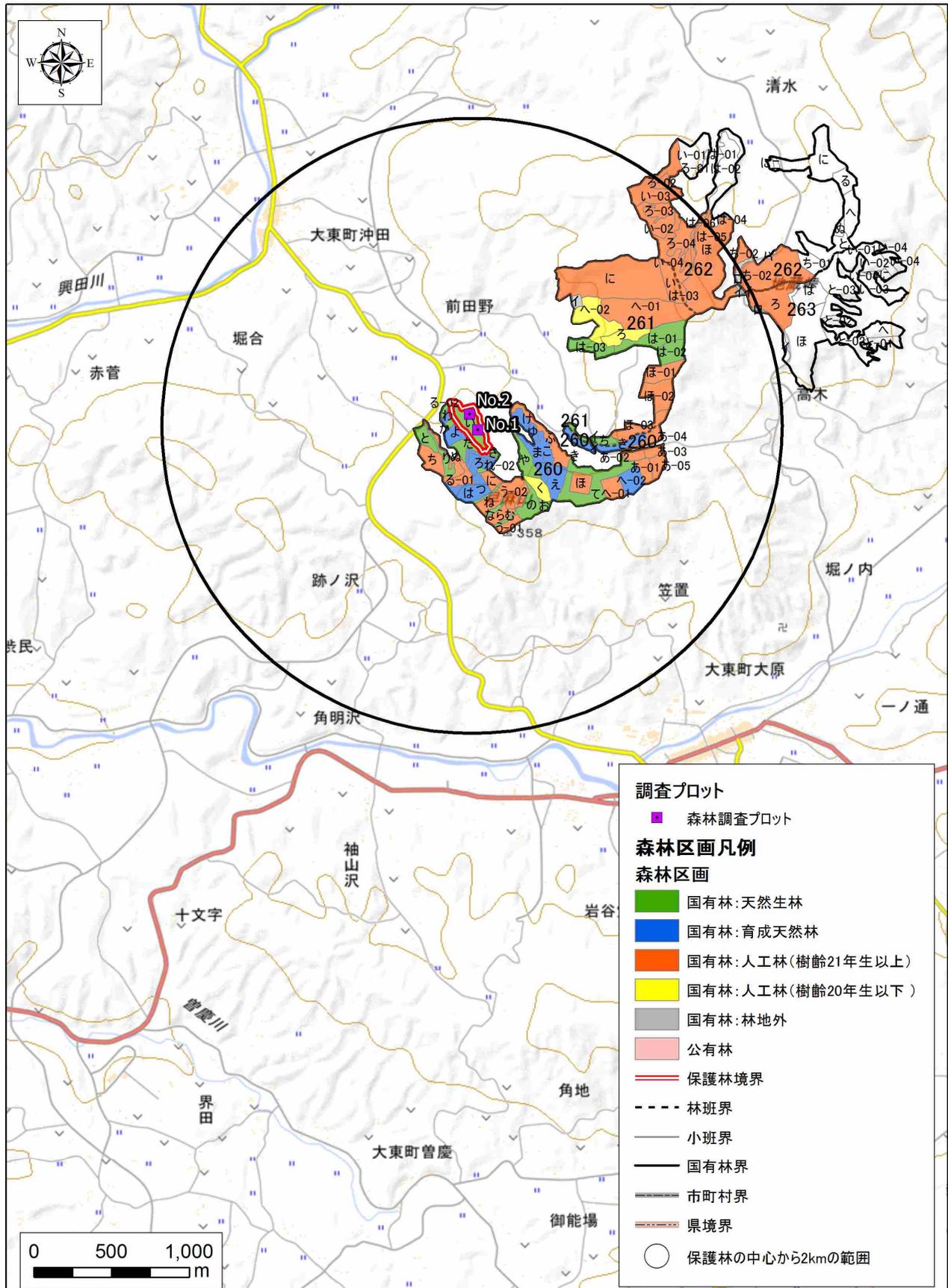
調査項目	基礎調査	森林調査(特記事項: ○=良好、▲=注意、×=危険)	動物調査	利用動態調査
平成28年度 結果概要	<p>当保護林は、岩手県一関市に位置するアカマツの天然生林である。当保護林内は、大径木アカマツが主体となって生育し、クリやコナラ等の落葉広葉樹が混生する針広混交林となっている。</p> <p>当保護林内に生育するアカマツには松枯防止剤が注入されており、現時点では松枯れ等の被害は確認されていない。</p> <p>当保護林は、緑の回廊と接続していない。</p> <p>法令規則等: 昭和48年特別母樹林指定</p>	<p>調査プロットNo.1 胸高直径50-70cmのアカマツによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20-30cm程度のコナラ、カスミザクラ、アオハダが生育していた。低木層はコゴメウツギ、クロモジ、ナツハゼ等が生育し、草本層にはチゴユリ、コゴメウツギ、キッコウハグマ等が生育し、合計66種の植物が確認された。</p> <p>調査プロットNo.2 胸高直径50-70cmのアカマツ、コナラによって林冠が構成されており、亜高木層には直径30-40cm程度のコナラ、カスミザクラ等が生育していた。低木層にはウワミズザクラ、ナツハゼ、ヤマツツジ等が生育し、草本層にはチゴユリ、キバナアキギリ、コゴメウツギ、クマイザサ等が生育し、合計68種の植物が確認された。</p> <p>○気象害や病虫獣害は確認されなかった。</p>	/	/
第1回モニタリング (平成23年度) との結果比較	特に変化なし。	特に変化は見られず、病虫獣害等も確認されなかった。		
評価(案)	保護林設定目的である東山松の保存と天然推移の観察に資するための森林が維持されている。			

様式-4

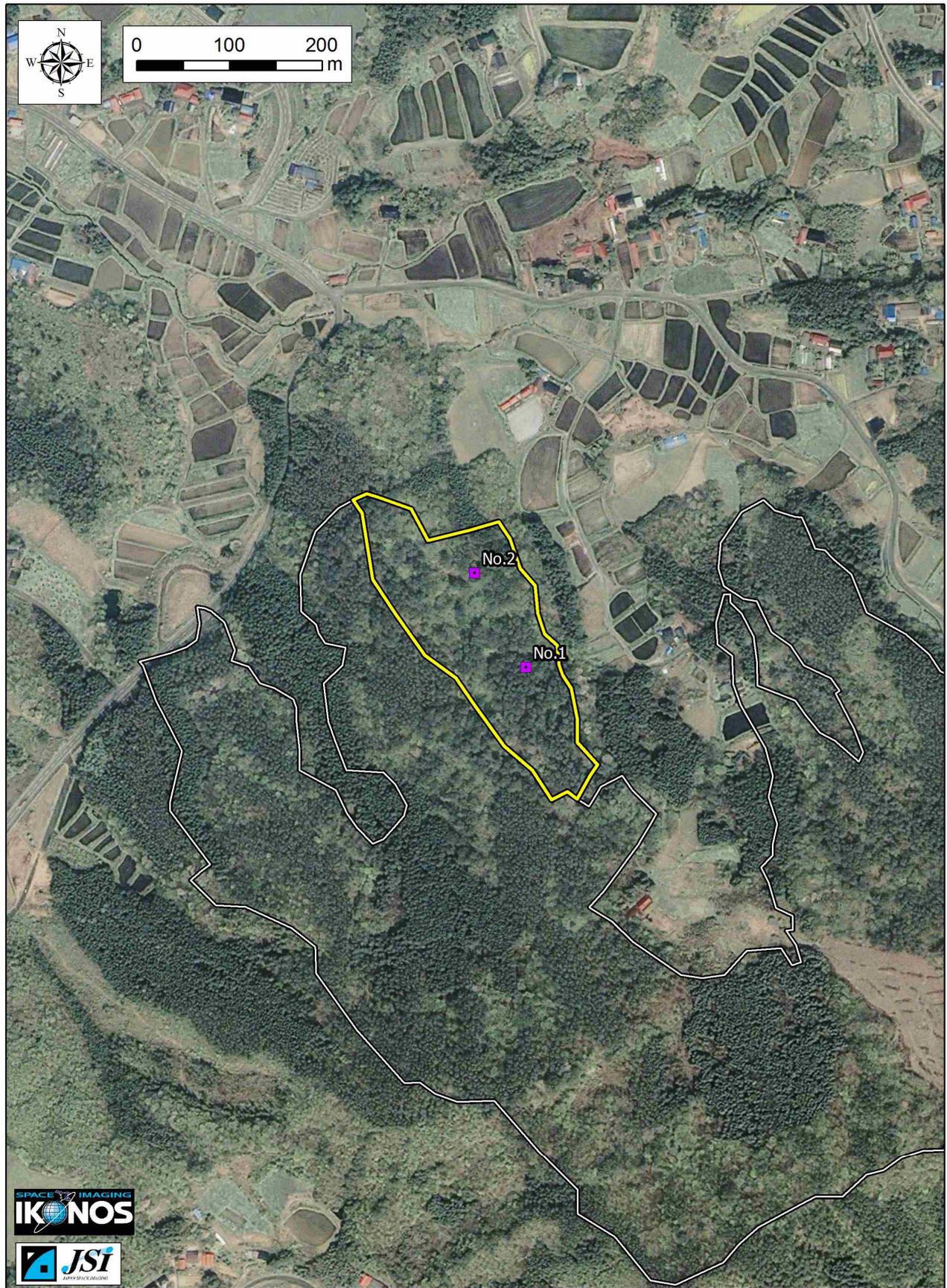
基礎調査整理表 2 b. 保護林情報図整理表
(森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林以外の保護林用)

保護林名	一関東山松植物群落保護林					
整理番号	植物-16					
森林管理局名	東北森林管理局					
保護林と保護林周辺(保護林の中心から2km内にかかる小班)の森林区分別面積 (保護林周辺については、保護林面積1,000ha未満のものについて記入する)						
地区 森林区分	保護林内		保護林周辺国有林		保護林周辺公有林(概略) (必要に応じ可能であれば記入する)	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
天然生林	3.78ha	100.0%	28.35ha	16.4%	—	—
育成天然林	0.00ha	0.0%	19.60ha	11.3%	—	—
人工林1	0.00ha	0.0%	115.33ha	66.5%	—	—
人工林2	0.00ha	0.0%	7.99ha	4.6%	—	—
林地外	0.00ha	0.0%	2.04ha	1.2%	—	—
合計	3.78ha	100.0%	173.31ha	100.0%	—	—
周辺民有地を区分した場合、その方法の概略	国有林GIS 公有林については、県に問い合わせた。					
保護林と周辺国有林の森林区分別配置の概要 (当該保護林と他の天然生林との接続状況を含めて記入する。)						
当保護林は岩手県一関市大東町沖田に位置する天然生林である。保護林南から南西側にかけて国有林天然生林や人工林と接続している。半径2km圏内の保護林周辺は主に民有林となっており、国有林にはアカマツ林が、民有林にはコナラ林やアカマツ植林が多く配置されている。保護林の西側を県道10号が走っており、周辺には集落が点在している。						
周辺民有地の森林・土地利用の配置の概況(保護林の中心から2km内に民有地がある場合必ず記入する。公有林があると確認された位置図面等が入手できた場合は、その配置状況を必ず記入する。)						
周辺2kmの圏内に民有地があり、主に人工林となっている。						
その他特記事項(緑の回廊との接続の有無を含めて記入する。)						
当保護林は緑の回廊と接続していない。						
作成の基とした図面や収集した空中写真	国有林 GIS、IKONOS衛星画像					

一関東山松植物群落保護林



一関東山松植物群落保護林



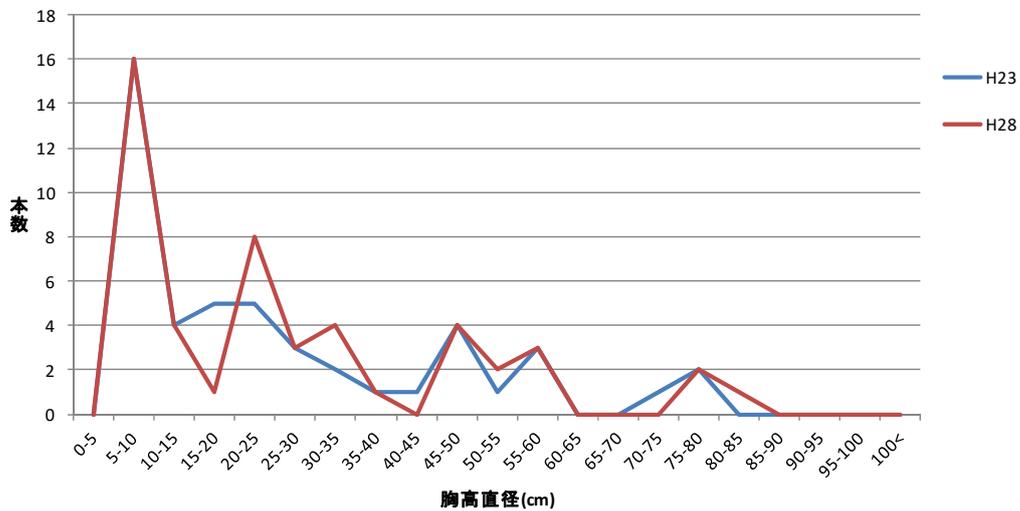
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	一関東山松植物群落保護林		
整理番号	植物-16		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年8月1日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	260い	斜面方位	N45W
標高	235m	傾斜角度	7度
緯度経度	北緯 39度02分03.7秒		東経 141度22分55.9秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.1 県道10号沿いに駐車。付近の作業道を進み、林内へ入る。駐車位置から標準地まで約500m、徒歩20分程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: アカマツ 胸高直径 50cm~70cm 樹高 34m~40m			
○亜高木層: コナラ、カスミザクラ、アオハダ 胸高直径 20cm~40cm 樹高 18m~26m			
○低木層: コゴメウツギ、クロモジ、ナツハゼ 樹高 1m~3m			
○草本層: チゴユリ、コゴメウツギ、ツタウルシ、キッコウハグマ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。 松枯れ防止用に薬剤の樹幹注入が実施されている。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 一関東山松植物群落保護林（プロット1）



○北上川中流森林計画区 一関東山松植物群落保護林（プロット1）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	アカマツ	11	11	110	110	29.61	31.11	57.2	58.5
2	アオハダ	14	13	260	220	4.91	4.98	13.4	14.9
3	カスミザクラ	4	4	40	40	3.18	3.49	29.3	31.0
4	コナラ	1	1	10	10	1.55	1.61	44.4	45.3
5	オオモシジ	8	10	185	235	1.23	1.60	8.2	8.5
6	オニタヤ	2	2	35	35	0.85	0.96	13.5	14.3
7	コシアブラ	2	2	20	20	0.62	0.67	19.9	20.7
8	アオダモ	4	4	100	100	0.40	0.45	7.1	7.5
9	アスキナン	1	1	10	10	0.34	0.37	20.7	21.6
10	ツリバナ	1	0	25		0.06		5.6	
計10種(枯損木を除く)		48	48	795	780	42.74	45.25	18.7	20.0

※青字は保護対象種

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数に変化は見られず、胸高断面積合計は42.74m²ha⁻¹から45.25m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は18.7cmから20.0cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 一関東山松植物群落保護林（プロット1）

≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

一関東山松植物群落保護林(プロット1)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	8月27日	8月1日	
クロモジ	2	2	
コゴメウツギ	2	1	
エンコウカエデ	1	1	
オオモミジ	1	1	
ナツハゼ	1	1	
ミズキ	1	1	
アワブキ	1	+	
エゴノキ	1	+	
ツノハシバミ	1	+	
ツリバナ	1	+	
ハナイカダ	1	+	
ヤマボウシ	1	+	
クマイザサ	1	+	
ヤマツツジ	+	+	
ウワミズザクラ	+	+	
ガマズミ	+	+	
ツルリンドウ	+	+	
ミヤマガマズミ	+	+	
18種	18種	18種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

一関東山松植物群落保護林(プロット1)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	8月27日	8月1日	
チゴユリ	3	3	
キッコウハグマ	2	2	
クロモジ	2	2	
コゴメウツギ	2	2	
ツタウルシ	2	2	
イチヤクソウ	1	+	
イワガラミ	1	+	
エンコウカエデ	1	+	
オオバジャノヒゲ	1	+	
ツノハシバミ	1	+	
ツルリンドウ	1	+	
トボシガラ	1	+	
ミヤマガマズミ	1	+	
モミジイチゴ	1	+	
ヤマツツジ	1	+	
イカリソウ	1	+	
アオダモ	+	+	
ウリハダカエデ	+	+	
ウワミズザクラ	+	+	
エゴノキ	+	+	
キバナアキギリ	+	+	
ケヤキ	+	+	
コチヂミザサ	+	+	
ササバギラン	+	+	
サルトリイバラ	+	+	
シオデ	+	+	
シロヨメナ	+	+	
タチツボスミレ	+	+	
ツタ	+	+	
ツリバナ	+	+	
フタリシズカ	+	+	
ミズキ	+	+	
ムラサキシキブ	+	+	
クマイザサ	未確認	1	△
エンレイソウ	未確認	+	△
コナラ	未確認	+	△
フジ	未確認	+	△
37種	33種	37種	

●比較結果概要

顕著な増加 (△) 0

顕著な減少 (▼) 4

■評価

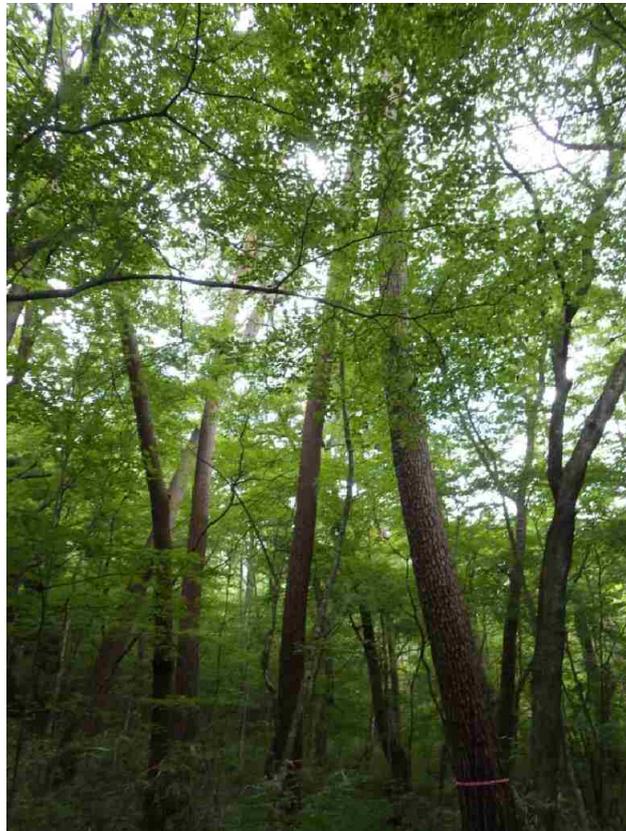
低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は4種が新たに確認された。

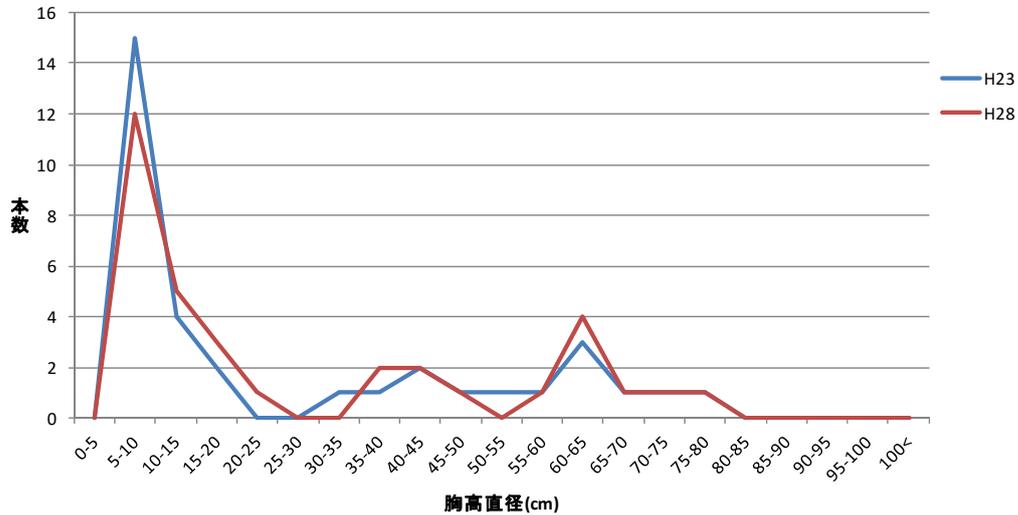
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	一関東山松植物群落保護林		
整理番号	植物-16		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年8月1日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	260い	斜面方位	N20W
標高	228m	傾斜角度	5度
緯度経度	北緯 39度02分07.0秒		東経 141度22分53.9秒
測地系	世界測地系	局所地形	山腹平衡斜面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.2 県道10号沿いに駐車。付近の作業道を進み、林内へ入る。駐車位置から標準地まで約400m、徒歩15分程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: アカマツ、コナラ 胸高直径 50cm~70cm 樹高 28m~32m			
○亜高木層: コナラ、カスミザクラ 胸高直径 40~60cm 樹高 19m~25m			
○低木層: ウワミズザクラ、フジ、ナツハゼ、ヤマツツジ 樹高 1m~3m			
○草本層: チゴユリ、トボシガラ、キバナアキギリ、フジ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
健全に生育している。 松枯れ防止用に薬剤の樹幹注入が実施されている。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 一関東山松植物群落保護林（プロット2）



○北上川中流森林計画区 一関東山松植物群落保護林（プロット2）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	アカマツ	7	7	70	70	20.04	20.90	59.8	61.0
2	コナラ	5	5	50	50	11.83	12.07	53.1	53.6
3	オオモミジ	9	9	225	225	1.77	2.54	9.4	11.3
4	カスミザクラ	1	1	10	10	0.95	1.02	34.8	36.1
5	エコノキ	6	5	150	125	0.76	0.78	7.8	8.5
6	アオダモ	2	2	50	50	0.43	0.56	10.2	11.6
7	エンコウカエデ	1	1	25	25	0.29	0.37	12.1	13.7
8	ヤマホウシ	2	2	50	50	0.16	0.17	6.5	6.7
9	ツリバナ	1	1	25	25	0.13	0.11	8.1	7.5
10	オオウラジロノキ	0	1		10		0.48		24.7
計10種(枯損木を除く)		34	34	655	640	36.36	39.01	18.0	19.7

※青字は保護対象種

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数に変化は見られず、胸高断面積合計は36.36m²ha⁻¹から39.01m²ha⁻¹に増加、平均胸高直径は18.0cmから19.7cmに増加した。

○北上川中流森林計画区 一関東山松植物群落保護林（プロット2）

◀植生調査結果比較（小円部 0.01ha）▶

一関東山松植物群落保護林(プロット2)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	8月27日	8月1日	
ウワミズザクラ	3	3	
ナツハゼ	2	2	
フジ	2	2	
ヤマツツジ	2	1	
アズキナシ	1	1	
エンコウカエデ	1	1	
アオダモ	1	+	
イヌシデ	1	+	
オオモミジ	1	+	
カスミザクラ	1	+	
ガマズミ	1	+	
ツノハシバミ	1	+	
ツリバナ	1	+	
ミズキ	1	+	
ミヤマガマズミ	1	+	
クロモジ	1	+	
16種	16種	16種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

一関東山松植物群落保護林(プロット2)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	8月27日	8月1日	
トボシガラ	3	3	
チゴユリ	3	+	
ウワミズザクラ	2	+	
キバナアキギリ	2	+	
コゴメウツギ	2	+	
フジ	2	+	
クマイザサ	1	2	
ツタウルシ	1	2	
ホオノキ	1	1	
オクモミジハグマ	1	+	
コバギボウシ	1	+	
シロヨメナ	1	+	
ツノハシバミ	1	+	
ハナイカダ	1	+	
ヤマツツジ	1	+	
アオダモ	+	+	
エンコウカエデ	+	+	
オオモミジ	+	+	
キッコウハグマ	+	+	
サルナシ	+	+	
サワフタギ	+	+	
シオデ	+	+	
シラヤマギク	+	+	
ハリギリ	+	+	
ムラサキシキブ	+	+	
モミジイチゴ	+	+	
ヤブレガサ	+	+	
ヤマウルシ	+	+	
ヤマカシュウ	+	+	
コチヂミザサ	+	+	
イカリソウ	未確認	+	△
イチヤクソウ	未確認	+	△
サルトリイバラ	未確認	+	△
サンショウ	未確認	+	△
34種	30種	34種	

●比較結果概要

顕著な増加 (△) 0

顕著な減少 (▼) 4

■評価

低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は4種が新たに確認された。

○北上川中流森林計画区 一関東山松植物群落保護林

◀植物目録 (プロット全体 0.10ha) ▶

一関東山松植物群落保護林 植物目録 1/2

No	科名	種名	調査地点		環境省 RL	岩手県 RDB
			No1	No2		
1	ゼンマイ科	ゼンマイ	○			
2	オシダ科	ジュウモンジシダ	○			
3	ヒメシダ科	ミゾシダ	○			
4	カバノキ科	イヌシデ		○		
5		ツノハシバミ	○	○		
6	ブナ科	コナラ	○			
7	ニレ科	ケヤキ	○			
8	モクレン科	ホオノキ		○		
9		コブシ		○		
10	マツブサ科	マツブサ		○		
11	クスノキ科	クロモジ	○	○		
12	メギ科	イカリソウ	○	○		
13	アケビ科	ミツバアケビ		○		
14	センリョウ科	フタリスズカ	○	○		
15	マタビ科	サルナシ		○		
16	ユキノシタ科	アカショウマ	○	○		
17		ノリウツギ		○		
18		イワガラミ	○	○		
19	バラ科	キンミズヒキ	○			
20		ウワミズザクラ	○	○		
21		カスミザクラ	○	○		
22		モミジイチゴ	○	○		
23		アズキナシ	○	○		
24		コゴメウツギ	○	○		
25	マメ科	フジ	○	○		
26	ミカン科	サンショウ		○		
27	ウルシ科	ツタウルシ	○	○		
28		ヤマウルシ		○		
29	カエデ科	ハウチワカエデ	○			
30		オオモミジ	○	○		
31		エンコウカエデ	○	○		
32		ウリハダカエデ	○	○		
33	アワブキ科	アワブキ	○	○		
34	モチノキ科	イヌツゲ	○			
35	ニシキギ科	ツルマサキ		○		
36		ツリバナ	○	○		
37	クロウメモドキ科	クマヤナギ		○		
38	ブドウ科	ツタ	○			
39	スミレ科	タチツボスミレ	○			

○北上川中流森林計画区 一関東山松植物群落保護林

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

一関東山松植物群落保護林 植物目録 1/2

No	科名	種名	調査地点		環境省 RL	岩手県 RDB
			No1	No2		
40	ミズキ科	ヤマボウシ	○	○		
41		ミズキ	○	○		
42		ハナйкаダ	○	○		
43	ウコギ科	コシアブラ	○			
44		ヤマウコギ		○		
45		キツタ		○		
46		ハリギリ		○		
47	セリ科	ウマノミツバ	○			
48	イチヤクソウ科	イチヤクソウ	○	○		
49	ツツジ科	ヤマツツジ	○	○		
50		ナツハゼ	○	○		
51	エゴノキ科	エゴノキ	○			
52	ハイノキ科	サワフタギ		○		
53	モクセイ科	アオダモ	○	○		
54	リンドウ科	ツルリンドウ	○	○		
55	アカネ科	ツルアリドオシ		○		
56		アカネ		○		
57	クマツヅラ科	ムラサキシキブ	○	○		
58	シソ科	キバナアキギリ	○	○		
59	ハエドクソウ科	ハエドクソウ	○			
60	スイカズラ科	ガマズミ	○	○		
61		ミヤマガマズミ	○	○		
62	キク科	オクモミジハグマ		○		
63		キッコウハグマ	○	○		
64		シロヨメナ	○	○		
65		シラヤマギク		○		
66		モミジガサ	○			
67		フキ	○			
68		アキノキリンソウ	○	○		
69		ヤブレガサ		○		
70		オヤマボクチ		○		
71	ユリ科	テゴユリ	○	○		
72		オオバギボウシ	○			
73		コバギボウシ		○		
74		ヤマユリ	○			
75		ヒメヤブラン		○		
76		オオバジャノヒゲ	○			
77		サルトリイバラ	○	○		
78		シオデ	○	○		
79		ヤマカシュウ	○	○		
80		ヤマホトギス	○			
81		エンレイソウ	○	○		
82	イネ科	トボシガラ	○	○		
83		コチヂミザサ	○	○		
84		チシマザサ	○			
85		クマイザサ	○	○		
86	サトイモ科	マムシグサ		○		
87	カヤツリグサ科	ホソバヒカゲスゲ		○		
88		タガネソウ	○	○		
89	ラン科	ササバギラン	○			
90		シュンラン	○	○		
91		クモキリソウ	○			
計	45科	91種	66種	68種	0種	0種

一 関東山松植物群落保護林

項目	確認項目	評価	評価内容	総合評価 (案)
森林調査	毎木調査の変化	○	アカマツ天然林が主体となって構成されており、現状が維持されている。	A
	気象害	○	特になし。	
	病虫害	○	特になし。樹幹注入による松枯れ対策済み。	
	獣害	○	特になし。	
	下層植生の変化	○	出現種の増減は見られるが、現状が維持されている。	
保護対象群落の生育状況	○	気象害等は観察されず、保護対象のアカマツ天然林は健全に生育していた。		
対策の必要性	—	特になし。		

総合評価 (案) A: 問題なし B: 要観察 (顕在化した問題はないが、予兆が見られた) C: 問題あり (問題が確認され、対策や経過観察が必要な状況)
 各項目評価 ○: 特に大きな変化は見られなかった。または、大きな問題が見られなかった。 ▲: 管理委員会で要確認。

猿屋裏湿原植物群落保護林

(一)

現地調査計画及び総括整理表

保護林名	猿屋裏植物群落保護林
整理番号	植物-22
森林管理局名	東北森林管理局



①現地調査計画

調査項目	森林調査	動物調査	利用動態調査
保護林の概況 [目的等]	北上山地において最も高層湿原的要素が多い湿原群落の保護のため。		
調査箇所 ルート	<ul style="list-style-type: none"> ・調査プロット: 前回(第1回モニタリング)の調査地点2箇所を実施 ・ルート: 別図参照 ・所要時間: 駐車位置より約30分 		
調査時期・回数	平成28年7月・1回		
調査項目	毎木調査・植生調査		
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・0.1haの円形調査プロットを設定し、小円部(0.01ha)、中円部(0.03ha)、大円部(0.06ha)とする。 ・胸高直径、樹高(可能な限り第1回目モニタリングにおける計測木)を計測する。 ・調査プロット内に出現する種組成の概要を把握し過年度調査結果と比較する。 		

②総括整理表

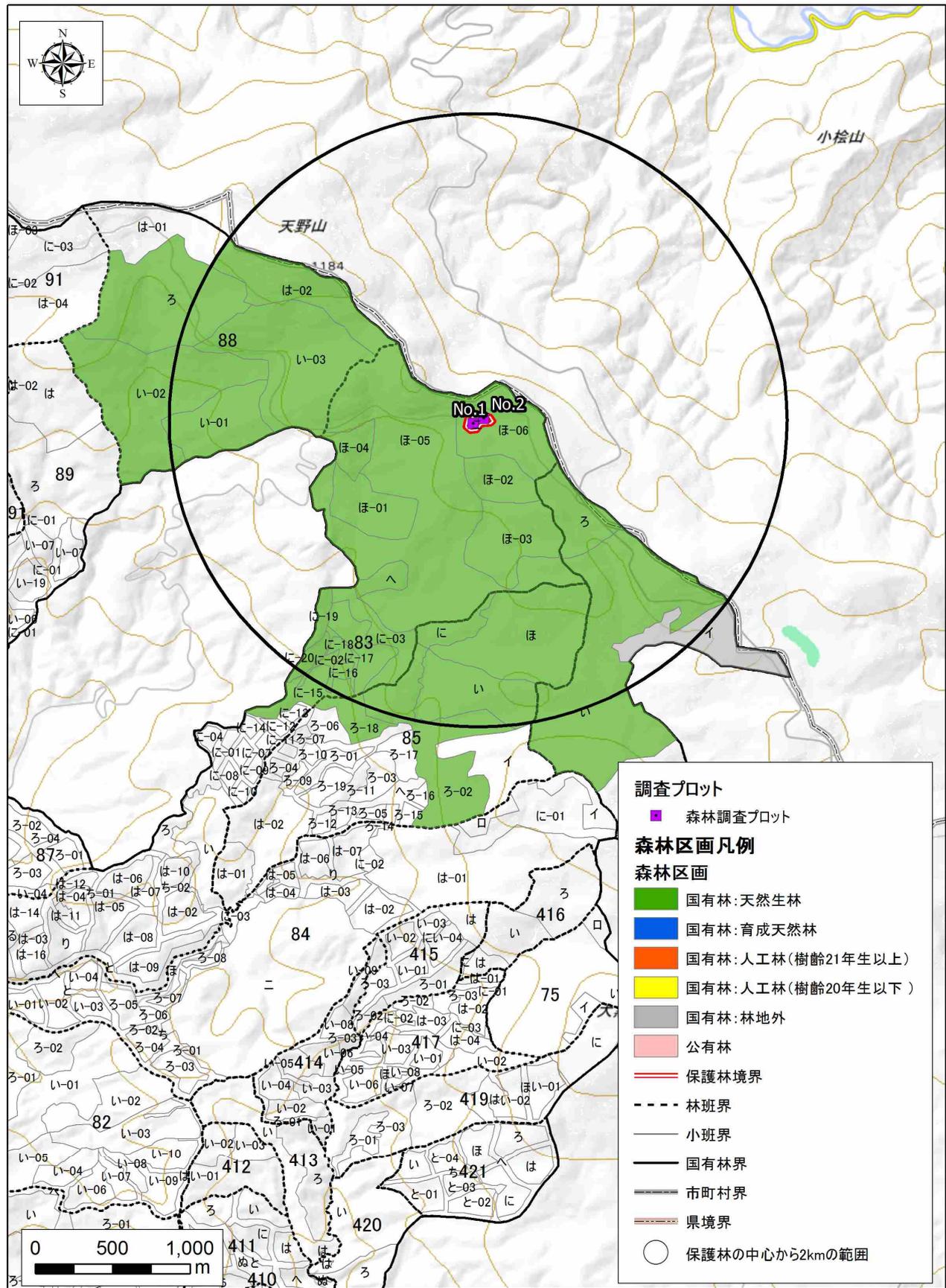
調査項目	基礎調査	森林調査(特記事項: ○=良好、▲=注意、×=危険)	動物調査	利用動態調査
平成28年度 結果概要	<p>当保護林は、岩手県遠野市に位置する高層湿原的要素を一部含む湿原となっている。</p> <p>当保護林内の植生は、池沼内は「ミズキグサ-ヤチスゲ型」、湿原中は「ミズゴケ-ミズキグサ型」といった高層湿原的要素を持ち、周辺部は「レンゲツツジ-ミズキグサ型」が主体となる中間湿原的要素を持つ植生により構成されている。</p> <p>当保護林は、北上高地緑の回廊と接続している。</p>	<p>調査プロットNo.1 胸高直径40-60cmのブナ、シナノキによって林冠が構成されており、亜高木層には直径20cm程度のブナ、ダケカンバ、ナナカマドが生育していた。低木層はケナシハクサンシャクナゲ、ヨシ等が生育し、草本層にはクマイザサ、ハイイヌツゲ、ヤマドリゼンマイ等が生育し、合計31種の植物が確認された。</p> <p>調査プロットNo.2 高木層は形成されず、低木層はレンゲツツジ、ヨシ等が生育し、草本層にはアブラガヤ、ヤチスゲ、ヨシ、クマイザサ等が生育し、合計21種の植物が確認された。</p> <p>○モウセンゴケやミズゴケ等が生育し、湿原は維持されていた。 ○気象害等は確認されなかった。 ▲一部の低層植生において、ニホンジカによると思われる採食痕が確認された。</p>		
第1回モニタリング (平成23年度) との結果比較	特に変化なし。	特に変化は見られなかったが、一部の低層植生においてニホンジカによると思われる採食痕が確認された。		
評価(案)	保護林設定目的である貴重な湿原群落を保護するための森林が維持されている。 ただし、ニホンジカによると思われる痕跡が確認されているため、引き続き経過観察は必要と考えられる。			

様式-4

基礎調査整理表 2 b. 保護林情報図整理表
(森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林以外の保護林用)

保護林名	猿屋裏湿原植物群落保護林					
整理番号	植物-22					
森林管理局名	東北森林管理局					
保護林と保護林周辺(保護林の中心から2km内にかかる小班)の森林区分別面積 (保護林周辺については、保護林面積1,000ha未満のものについて記入する)						
地区 森林区分	保護林内		保護林周辺国有林		保護林周辺公有林(概略) (必要に応じ可能であれば記入する)	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合
天然生林	0.00ha	0.0%	691.60ha	97.2%	—	—
育成天然林	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%	—	—
人工林1	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%	—	—
人工林2	0.00ha	0.0%	0.00ha	0.0%	—	—
林地外	1.25ha	100.0%	19.69ha	2.8%	—	—
合計	1.25ha	100.0%	711.29ha	100.0%	—	—
周辺民有地を区分した場合、その方法の概略	国有林GIS 公有林については、県に問い合わせた。					
保護林と周辺国有林の森林区分別配置の概要 (当該保護林と他の天然生林との接続状況を含めて記入する。)						
当保護林は岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛に位置する湿原であり、全てが林地外となっている。保護林周辺は国有林天然生林と接続している。半径2km圏内の保護林周辺は半分程度が国有林となっており、ミズナラ林やカラマツ林、ブナ林が多く配置されている。西側には早池峰山周辺森林生態系保護地域が配置されている。						
周辺民有地の森林・土地利用の配置の概況(保護林の中心から2km内に民有地がある場合必ず記入する。公有林があると確認された位置図面等が入手できた場合は、その配置状況を必ず記入する。)						
周辺2kmの圏内に民有地があり、主に人工林として利用されている。						
その他特記事項(緑の回廊との接続の有無を含めて記入する。)						
当保護林は北上高地緑の回廊と接続している。						
作成の基とした図面や収集した空中写真	国有林 GIS、IKONOS衛星画像					

猿屋裏湿原植物群落保護林



調査プロット

- 森林調査プロット

森林区画凡例

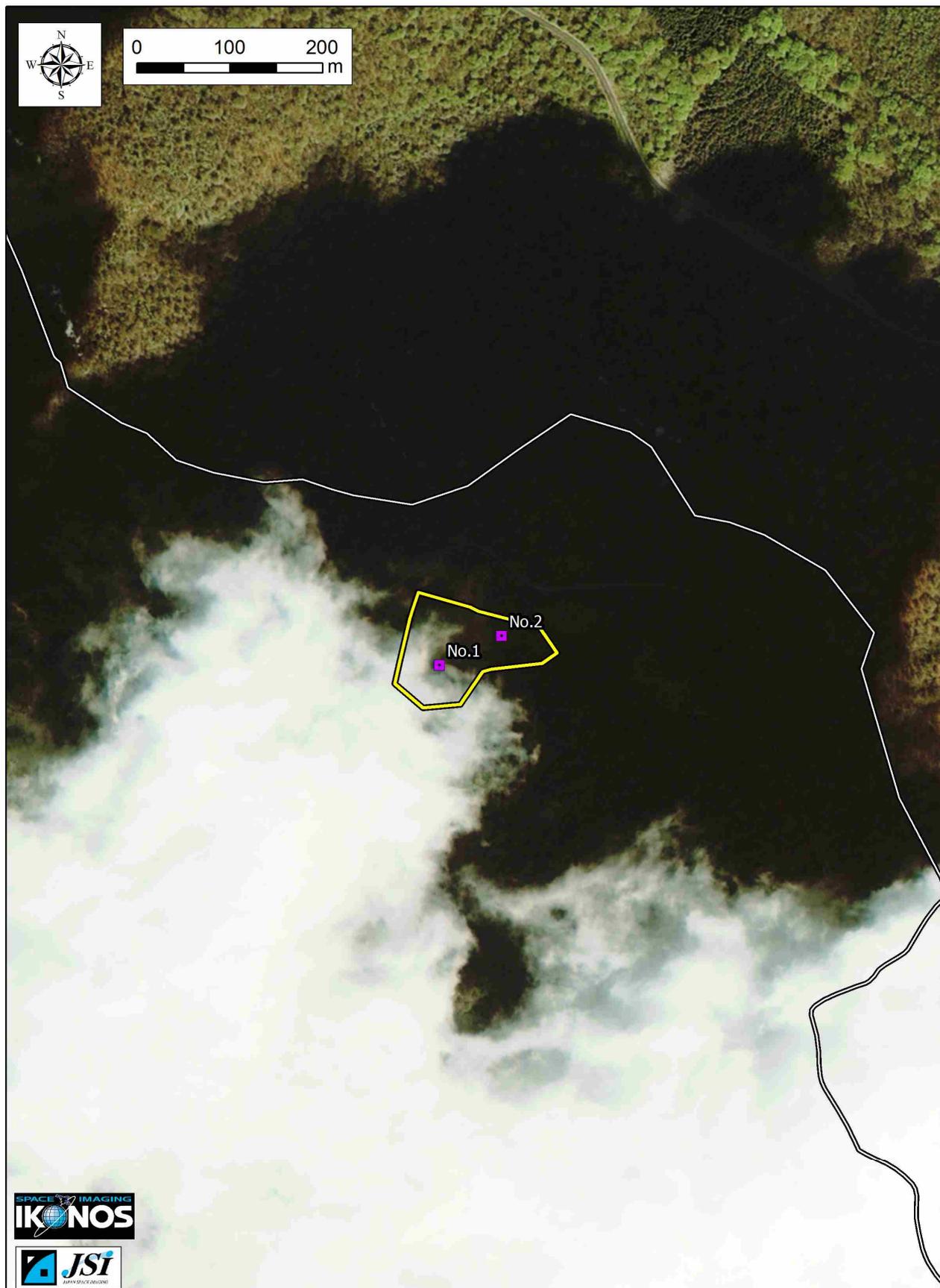
森林区画

- 国有林:天然生林
- 国有林:育成天然林
- 国有林:人工林(樹齢21年生以上)
- 国有林:人工林(樹齢20年生以下)
- 国有林:林地外
- 公有林

境界線

- 保護林境界
- - - 林班界
- 小班界
- 国有林界
- 市町村界
- 県境界
- 保護林の中心から2kmの範囲

猿屋裏湿原植物群落保護林



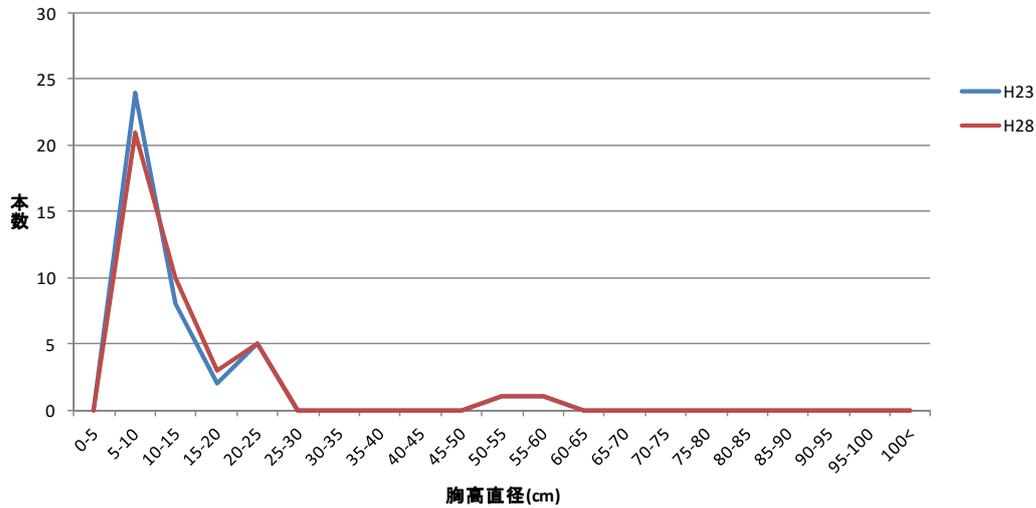
基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

保護林名	猿谷裏湿原植物群落保護林		
整理番号	植物-22		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年7月28日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	83二	斜面方位	S30W
標高	1022m	傾斜角度	4度
緯度経度	北緯 39度30分43.1秒		東経 141度34分12.2秒
測地系	世界測地系	局所地形	山脚堆積面
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.1 大山牧場付近の林道脇に駐車。駐車位置付近から林内へと入り、先の湿原を進む。駐車位置から標準地まで約200m、徒歩10分程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: ブナ、シナノキ 胸高直径 20cm~60cm 樹高 12m~14m			
○亜高木層: ブナ、ダケカンバ、ナナカマド 胸高直径 8~25cm 樹高 6m~10m			
○低木層: ケナシハクサンシャクナゲ、ヨシ、サワフタギ 樹高 1m~3m			
○草本層: クマイザサ、ハイイヌツゲ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ニホンジカの糞、目視、採食痕			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
湿原は維持されている。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 猿屋裏湿原植物群落保護林（プロット1）



○北上川中流森林計画区 猿屋裏湿原植物群落保護林（プロット1）
 ≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1	ブナ	10	10	220	220	4.72	5.06	12.5	13.3
2	ダケカンパ	5	5	80	80	3.26	3.51	18.6	19.4
3	ウワミスズクサ	7	7	175	175	0.85	0.98	7.7	8.2
4	ナナカマド	4	3	100	75	0.82	0.73	9.6	10.3
5	アスキナシ	5	5	110	110	0.76	0.88	8.5	9.2
6	コシアブラ	2	2	35	35	0.67	0.73	15.1	15.9
7	アオダモ	4	5	100	125	0.63	0.85	8.8	9.2
8	シナノキ	1	1	10	10	0.45	0.45	24.0	24.0
9	コミネカエデ	1	1	25	25	0.17	0.25	9.3	11.2
10	ハリウツギ	1	1	25	25	0.07	0.09	6.1	6.9
11	オオカメノキ	1	1	25	25	0.07	0.08	5.9	6.2
計11種(枯損木を除く)		41	41	905	905	12.47	13.61	10.7	11.3

今年度の調査結果を5年前と比較すると、本数は変わらず、胸高断面積合計は 12.47m²ha⁻¹ から 13.61m²ha⁻¹ に増加、平均胸高直径は 10.7cm から 11.3cm に増加した。

○北上川中流森林計画区 猿屋裏湿原植物群落保護林（プロット1）

≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

猿屋裏湿原植物群落保護林(プロット1)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月1日	7月28日	
クマイザサ	5	2	▼
ケナシハクサンシャクナゲ	2	3	
ヨシ	2	2	
サワフタギ	1	2	
オオカメノキ	+	1	
ナナカマド	+	未確認	▼
ノリウツギ	未確認	1	△
コバイケイソウ	未確認	+	△
ブナ	未確認	+	△
9種	6種	8種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 3

顕著な減少（▼） 2

△▼は両年とも確認された種で顕著な変化が見られた種

猿屋裏湿原植物群落保護林(プロット1)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の度合
調査実施日	9月1日	7月28日	
ハイイヌツゲ	5	3	▼
オクノカンスゲ	1	+	
ケナシハクサンシャクナゲ	+	3	△
チゴユリ	+	1	
ヒメシダ	+	1	
ヤマドリゼンマイ	+	1	
コバギボウシ	+	+	
コミヤマカタバミ	+	+	
イワガラミ	+	未確認	▼
エゾシロネ	+	未確認	▼
オウレン	+	未確認	▼
オオカメノキ	+	未確認	▼
カニコウモリ	+	未確認	▼
サワフタギ	+	未確認	▼
シンガシラ	+	未確認	▼
ズダヤクシュ	+	未確認	▼
ツタウルシ	+	未確認	▼
ツルシキミ	+	未確認	▼
コバイケイソウ	未確認	1	△
トウゲシバ	未確認	1	△
ウワミズザクラ	未確認	+	△
ブナ	未確認	+	△
マイヅルソウ	未確認	+	△
23種	18種	13種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 6

顕著な減少（▼） 11

△▼は両年とも確認された種で顕著な変化が見られた種

■評価

低木層は1種が未確認、3種が新たに確認された。低木層においては、クマイザサの優占度が大きく変化していた。

草本層は10種が未確認、5種が新たに確認された。草本層においては、ハイイヌツゲとケナシハクサンシャクナゲの優占度が大きく変化していた。

基礎調査整理表 3. 保護林の概況調査整理表

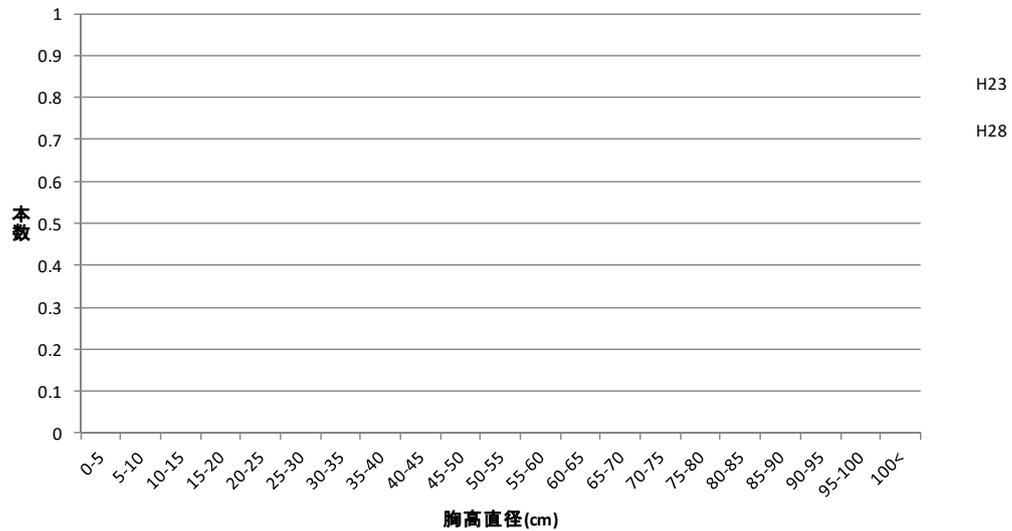
保護林名	猿谷裏湿原植物群落保護林		
整理番号	植物-22		
森林管理局名	東北森林管理局		
調査日時	平成28年7月28日		
標準地(現地調査候補地)の位置・地形等			
林小班	83二	斜面方位	N50E
標高	1020m	傾斜角度	1度
緯度経度	北緯 39度30分44.1秒		東経 141度34分15.0秒
測地系	世界測地系	局所地形	湿原
標準地(調査候補地)へのアクセス経路概略(図面・写真は別途添付)			
標準地No.2 大山牧場付近の林道脇に駐車。駐車位置付近から林内へと入り、先の湿原を進む。駐車位置から標準地まで約150m、徒歩5分程度。			
植生の概況(階層(高木・亜高木・低木・草本)ごとの樹種、樹高、胸高直径等の概略) (写真は別途添付)			
○高木層: 形成されない			
○亜高木層: 形成されない			
○低木層: レンゲツツジ、ヨシ 樹高 1m~3m			
○草本層: アブラガヤ、ヤチスゲ、ヨシ、クマイザサ 背丈 1m以下			
保護林内の病虫獣害・気象害等の発生状況・外来種の侵入状況(写真は別途添付)			
特になし。			
保護林内の動物のフィールドサインの有無、状況(写真は別途添付)			
ニホンジカの糞、目視、採食痕			
保護対象種の概況等、その他特記事項			
湿原は維持されている。			
現地調査として想定される調査項目の必要性			
森林調査			

○北上川中流森林計画区 猿屋裏湿原植物群落保護林（プロット2）



○北上川中流森林計画区 猿屋裏湿原植物群落保護林（プロット2）

≪毎木調査結果比較≫



No.	樹種	計測対象木 (本)		1haあたり換算結果					
				本数 (本/ha)		胸高断面積 合計(m ² /ha)		平均胸高直径 (cm)	
		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
計測対象木無し									

当該調査プロットに計測対象木は確認されなかった。

○北上川中流森林計画区 猿屋裏湿原植物群落保護林（プロット2）

≪植生調査結果比較（小円部 0.01ha）≫

猿屋裏湿原植物群落保護林(プロット2)			低木層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月1日	7月28日	
レンゲツツジ	3	3	
ヨシ	1	1	
2種	2種	2種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

猿屋裏湿原植物群落保護林(プロット2)			草本層
調査年度	H23	H28	変化の割合
調査実施日	9月1日	7月28日	
アブラガヤ	2	2	
ヤチスゲ	2	2	
クマイザサ	1	1	
ヨシ	1	1	
アキノキリンソウ	+	+	
イ	+	+	
エゾシロネ	+	+	
エゾリンドウ	+	+	
コバイケイソウ	+	+	
コバギボウシ	+	+	
ゴマナ	+	+	
ハイイヌツゲ	+	+	
ヒメシダ	+	+	
ヤマドリゼンマイ	+	+	
14種	14種	14種	

●比較結果概要

顕著な増加（△） 0

顕著な減少（▼） 0

■評価

低木層は大きな変化は見られなかった。

草本層は大きな変化は見られなかった。

○北上川中流森林計画区 猿屋裏湿原植物群落保護林

≪植物目録（プロット全体 0.10ha）≫

猿屋裏湿原植物群落保護林 植物目録

No	科名	種名	調査地点		環境省 RL	岩手県 RDB
			No1	No2		
1	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ	○			
2	ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ	○	○		
3	コバノイシカグマ科	ワラビ		○		
4	オシダ科	ミヤマベニシダ	○			
5	ヒメシダ科	ヒメシダ	○	○		
6	ウラボシ科	ミヤマノキシノブ	○			
7	イヌガヤ科	ハイイヌガヤ	○			
8	カバノキ科	ツノハシバミ	○			
9	ブナ科	ブナ	○			
10	モウセンゴケ科	モウセンゴケ		○		
11	ケン科	オサバグサ	○			C
12	ユキノシタ科	ノリウツギ	○	○		
13		ズダヤクシュ	○			
14	バラ科	ウワミズザクラ	○			
15	カタバミ科	コミヤマカタバミ	○			
16	カエデ科	ハウチワカエデ	○			
17		ウリハダカエデ	○			
18	モチノキ科	ハイイヌツゲ	○	○		
19		ツルツゲ	○			
20	セリ科	セントウソウ	○			
21	ツツジ科	ケナシハクサンジャクナゲ	○	○		
22		レンゲツツジ	○			
23	ハイノキ科	サワフタギ	○			
24	モクセイ科	ミヤマイボタ		○		
25	リンドウ科	エゾリンドウ		○		
26	シソ科	エゾシロネ		○		
27		ウツボグサ		○		
28	スイカズラ科	オオカメノキ	○			
29	キク科	ゴマナ		○		
30		カニコウモリ	○			
31		アキノキリンソウ		○		
32	ユリ科	チゴユリ	○			
33		コバギボウシ	○	○		
34		マイヅルソウ	○			
35		コバイケイソウ	○	○		
36	イグサ科	イ		○		
37	イネ科	ヨシ	○	○		
38		クマイザサ	○	○		
39	カヤツリグサ科	オクノカンスゲ	○			
40		ヤチスゲ		○		
41		ミカツキグサ		○		
42		アブラガヤ		○		
43	ラン科	サイハイラン	○			
計	29科	43種	31種	21種	0種	1種

猿屋裏湿原植物群落保護林

項目	確認項目	評価	評価内容	総合評価（案）
森林調査	毎木調査の変化	○	低木のブナやダケカンバ等が主体となって構成されており、現状が維持されている。	A
	気象害	○	特になし。	
	病虫害	○	特になし。	
	獣害	○	特になし。	
下層植生の変化	○	出現種の増減は見られるが、現状が維持されている。		
保護対象群落の生育状況	○	モウセンゴケやミズゴケ等が生育し、湿原は維持されている。		
対策の必要性	—	特になし。		

総合評価（案） A：問題なし B：要観察（顕在化した問題はないが、予兆が見られた） C：問題あり（問題が確認され、対策や経過観察が必要な状況）
 各項目評価 ○：特に大きな変化は見られなかった。または、大きな問題が見られなかった。 ▲：管理委員会で要確認。